漢字から文章へ

第一冊

全十八回　三百六十字

浸　跡　心　道

漢字の意味と熟語を確かめ、
短文や文章の中で使いながら学びます。

和会塾

読み、書き、考えるための漢字教材

この本の使い方

各回で中心となる八字と、いっしょに覚える十二字を扱います。一字の意味を手がかりに、熟語、短文、長文へと進みます。表を見ながら解いてもかまいません。

一・二　扉と漢字表

まず、気になる漢字を探してみましょう。次の表で、読み、意味、熟語を確かめます。表の読みは主なものです。一字の意味を足すだけで決めず、熟語全体の意味も確かめてください。

三・四　漢字の働きと熟語

漢字が熟語の中でどう働くかを考え、文に合う語を選びます。大問四では、□の数が答える語の文字数を示しています。送り仮名のある語は、それも含めて解答欄に書きます。

五　使い分けと自分の一文

似た語が、この文では何を表しているかを考えます。意味が重なる場合もあります。自分で書く問題は、経験したことでも、想像した場面でもかまいません。

六　短文で使う練習

文の中で漢字を書き、熟語を読みます。間違えた字だけでなく、なぜその語を使うのかも確かめ、必要なら表へ戻って読み直しましょう。

七　文章を読んで考える

物語や記録を読み、言葉の意味、人物の変化、事実と推測の違いなどを考えます。記述では、本文の具体的な手がかりを理由や判断に結びつけて書いてください。

答えを確かめる

解答と解説は各回の最後にあります。記述の解答例と別解例は、考え方を確かめるためのものです。同じ言い方でなくても、指定語と字数を守り、問われた内容を根拠と結んで書けていればよいものです。

記述のマス　句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

本書の物語・資料・記録・数値は、学習のために作成したものです。

目次 第一回から第九回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第一回	跡をたどり 意味に近づく	町に残る小さな手がかり	5	10	12
第二回	心が動く	拍手のあとで	14	19	21
第三回	見る 知る 考える	数字の隣の手がかり	23	28	30
第四回	動く 進む 変わる	動かさなかった場面	32	37	39
第五回	形と境目	同じ部屋に 違う境目	41	46	48
第六回	関係を結ぶ	最後の音を置く場所	50	55	57
第七回	強さと弱さ	鳥を運ぶ箱	59	64	66
第八回	水と流れ	透明になったあとで	68	73	75
第九回	残す 失う	十二秒の空白	77	82	84

目次 第十回から第十八回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第十回	言葉を整える	時計屋のたぶん	86	91	93
第十一回	学ぶ 試す 伸ばす	手本を閉じた日	95	100	102
第十二回	一日の暮らし	昼の空席	104	109	111
第十三回	身体と感覚	ひと口を言葉にする	113	118	120
第十四回	場所と道	南門までの十八分	122	127	129
第十五回	整える 直す 守る	青い引き出し	131	136	138
第十六回	価値をはかる	棚の賞と机の賞	140	145	147
第十七回	見せながら守る	名前を消した写真	149	154	156
第十八回	考えをまとめる	赤い箱の理由	158	163	165

漢字から文章へ 第一冊

第一回

跡をたどり 意味に近づく

石段に残ったくぼみ。ここを通ったのは、どんな人でしょう。
古い写真を開くと、町の昔が少し見えてきます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

浸	徹	跡	惜
中までしみこむ	最後までつらぬく	残ったしるし	失うのを残念に思う

錯	髄	添	挑
まじる 取り違える	奥深い中心	そばに加える	困難に向かう

いっしょに覚える漢字

診	浄	昇	随	透	痕
貫	遺	残	深	古	読

この回で読むお話

町に残る小さな手がかり

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
浸	シン ひたす ひたる	中までしみこむ 浸透・浸水・浸食	錯	サク	入りまじる／取り違える 交錯・錯覚・錯誤
徹	テツ	最後までつらぬく 徹底・貫徹・徹夜	髄	ズイ	奥深い中心部分 骨髄・精髄・神髄
跡	セキ あと	あとに残るしるし 足跡・痕跡・遺跡	添	テン そえる そう	そばに加える 添付・添加・添削
惜	セキ おしい おしむ	失うのを残念に思う 惜敗・惜別・愛惜	挑	チョウ いどむ	相手や困難に向かう 挑戦・挑発・挑む

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
診	シン みる	体の状態を調べる 診断・診療・受診	貫	カン つらぬく	つらぬく 貫通・貫徹・一貫
浄	ジョウ	きれいにする／きれいな 浄化・洗浄・清浄	遺	イ	あとに残す／残る 遺跡・遺産・遺言
昇	ショウ のぼる	上へ向かう 上昇・昇進・昇る	残	ザン のこる のこす	あとにとどまる 残存・残念・残る
随	ズイ	あとについて行く／思うままに 随行・追随・随筆	深	シン ふかい	奥まである 深層・深刻・深い
透	トウ すく すける	通りぬける 透明・透過・透徹	古	コ ふるい	昔からの 古来・古跡・古い
痕	コン あと	あとに残るしるし 痕跡・傷痕	読	ドク よむ	文字から意味をとる 読解・読書・読む

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

（1）「浸水・浸透」の「浸」に共通する意味はどれですか。
ア　表面に重ねる　　イ　外へ流し出す
ウ　中までしみこむ　　エ　形を固める

（2）「徹底・貫徹」に共通する意味はどれですか。
ア　途中で止めず最後まで通す　　イ　広く浅く見て回る
ウ　元の位置へ戻す　　エ　いくつかに分けて残す

（3）「骨髄」から「神髄」へと広がる「髄」の意味はどれですか。
ア　外側を守る硬い部分　　イ　次々に入れ替わる部分
ウ　遠くへ広がる部分　　エ　奥深くにある中心部分

（4）「錯覚・錯誤」には取り違えの意味があります。「交錯」の意味はどれですか。
ア　ずれた点を正しく直す　　イ　二つ以上のものが入りまじる
ウ　細かな違いを見分ける　　エ　元の形をそのまま写す

（5）「案内に地図を添付した」の「添」が表す働きはどれですか。
ア　もとのものに加える　　イ　不要な部分を除く
ウ　中身を別のものに変える　　エ　離れたものを探し出す

（6）「惜敗」から読み取れる試合の結果はどれですか。
ア　相手の失敗によって勝った　　イ　試合を途中で取りやめた
ウ　わずかな差で負けた　　エ　大きな差をつけて勝った

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　遺跡　挑戦　残念　上昇　診断　徹底　随筆
深刻　透明　添削　貫徹　浸水　浄化　浸食

文	解答	文	解答
（1）大雨で地下室が□□した。		（8）医師から詳しい□□を受けた。	
（2）長い年月をかけ、 川の流れが岩を□□した。		（9）濁った水を装置で□□し、 汚れを取り除く。	
（3）楽しみな見学が中止になり、 とても□□に思った。		（10）気温がゆっくり□□する。	
（4）安全確認を□□し、 小さな異常も見逃さない。		（11）日常の出来事を 自由に書いた□□を読む。	
（5）反対されても、最後まで 自分の信念を□□した。		（12）先生に作文を□□してもらう。	
（6）古代の住居や土器が残る場所を、 貴重な□□として保存する。		（13）失敗を恐れず、 新しい課題に□□する。	
（7）水不足の影響が□□になり、 町全体で節水に取り組んだ。		（14）向こう側の石まで 見えるほど□□な水だった。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）次の文で、「普及」と「浸透」は何を表していますか。

新しい連絡用アプリが地域で普及した。しかし、緊急時にまずアプリを確認する習慣は、十分には浸透していない。

ア　アプリの性能の向上と、確認する習慣の効果の弱まり。
イ　アプリに対する評価と、確認する人の気持ちの変化。
ウ　使う人の広がりと、習慣が人々の行動に根づくこと。
エ　アプリの導入への賛成と、習慣の必要性への疑い。

（2）「痕跡」だけでは十分に伝わらず、「遺跡」なら伝わることはどれですか。

ア　昔の人の暮らしや活動が残った場所・遺構であること。
イ　何かがあったことを示すしるしが残っていること。
ウ　今は見られない過去の出来事に関係していること。
エ　残ったものから過去を考える手がかりが得られること。

（3）A・B の出来事を表す語の組合せを選びなさい。

A　暗がりで木の枝を見て、人が立っていると思った。
B　先生の「自由参加」という説明を、全員参加だと受け取った。

ア　A＝誤解／B＝錯覚　　イ　A＝錯覚／B＝錯覚
ウ　A＝誤解／B＝誤解　　エ　A＝錯覚／B＝誤解

（4）二人の言葉が表す気持ちの違いとして、最も適切なものを選びなさい。

A　あと一歩で優勝を逃したのが惜しい。
B　自分の練習不足で負けたのが悔しい。

ア　A は結果、B は過程に触れているので、二つの気持ちは同時には起こらない。
イ　A は届きそうだった優勝を惜しみ、B は自分の準備への後悔を強く表している。
ウ　A は相手の実力への敬意、B は結果を受け入れた落ち着きを表している。
エ　A は勝利への喜び、B は相手への恐れが中心になっている。

（5）「浸透」を使い、ある考えや習慣が人々の行動に根づいた場面を一文で書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「痕跡」を使い、跡を見て何を考えたか、一文で書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 集計表の**サクゴ**に気づき、正しい数値へ直した。	
(2) 患者はドナーから**コツヅイ**の提供を受けた。	
(3) 雪の上に小さな動物の**アシアト**が続いていた。	
(4) 生地を柔らかくするため、少量の油を**テンカ**した。	
(5) 卒業式では、恩師へ**セキベツ**の言葉を贈った。	
(6) 相手の**チョウハツ**に乗らず、冷静に試合を続けた。	
(7) 町に残る**コセキ**を巡り、昔の暮らしを想像した。	
(8) 長いトンネルが山の中央を**カンツウ**している。	
(9) 実験器具は、**セイジョウ**な水で丁寧に洗った。	
(10) 古い町並みは、次代へ伝えたい文化**イサン**である。	
(11) 姉は新しい役職へ**ショウシン**し、仕事の幅が広がった。	
(12) 通訳が代表団に**ズイコウ**し、会談を支えた。	
(13) 薄い紙は光をわずかに**トウカ**する。	
(14) 転んだときの**キズアト**が、膝に薄く残っている。	
(15) その批評には、物事の本質を見抜く**トウテツ**した視点がある。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 古来	(17) 残存	(18) 深層	(19) 読解	(20) 徹夜

この回を終えたら もう一度確かめる

解答を閉じ、「痕跡」と「遺跡」の違いを一言で説明してみましょう。迷ったら漢字表と、自分が書いた文へ戻ります。漢字も、答えを隠してもう一度書きましょう。

七　文章の中で考えよう

町に残る小さな手がかり

朝日が昇るころ、悠人は町の記録係に随行し、古い診療所の跡地を訪れた。入口の透明な板には、建物の写真と地図が添えられている。井戸の周りには、水を浄化した古い槽や石段が残っていた。石のすき間から、細い草が一本伸びていた。

石段の端には、深いくぼみがある。悠人はしゃがみ、「たくさんの患者が、ここを通ったんですね」と言った。

記録係はすぐにはうなずかなかった。「人が通った痕跡とは考えられるね。でも、だれが、どのくらい通ったかは、石段だけでは分からない。」

古い写真を開くと、診療所の前には市場が写り、井戸のそばには荷車も見えた。患者だけでなく、買い物の客や荷物を運ぶ人も石段を使ったのだろうか。悠人はノートに書きかけた「患者」という言葉を丸で囲み、その脇に小さな疑問符を付けた。

写真を開いた時点の調査メモ

資料	確かめられたこと
石段	端に深いくぼみが残っている。
写真	診療所の前に市場があり、井戸のそばに荷車が見える。
地図	井戸の脇に道がある。

写真とともに保存されていた随筆には、昔、市場で店を出していた人の話があった。井戸に人が集まったこと。大雨で店が浸水したこと。地図の道筋と照らすと、人の動きが少し見えてきた。けれど、写真と合わない記述もある。

どれかを省けば、話はきれいにつながる。古い町を惜しむ気持ちから、一貫した説明を作りたくなっていないか。悠人は消しゴムを置いた。つながったと思うのは、自分の錯覚かもしれない。合わないところも残しておこう。

翌日、別の班が当時の市場の日誌を見つけた。「荷車は裏の坂道を通り、運び手は石段を使って井戸の水をくんだ」とある。悠人は「患者以外にも、荷物の運び手が石段を使ったと日誌に記されている」と説明に書き加えた。ただし、通った人数や、くぼみができた時期までは分からない。

何が分かり、何がまだ分からないかを分ける。その手順を徹底することが、遺されたものを読む仕事の精髄なのだと、悠人は感じた。

文章の読解でも、一つの言葉だけで筆者の考えを決めず、前後の文や具体例を確かめる。ノートの疑問符を見ていると、読み直したときに意味が変わって見えた一文を思い出した。

帰り際、悠人はもう一度石段に目をやった。細い草が風に揺れている。次は、いつの資料を探そうか。確かめることへの挑戦は、まだ続く。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と調査メモを根拠にして答えなさい。

（1）「最も大切な中心となるもの」を意味する熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本文の「文章の読解」に関連する語「ドクショ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）悠人が「自分の錯覚かもしれない」と考えたのは、どのようなことですか。

ア　写真の荷車を、実際より大きく見てしまったこと。
イ　合わない記述を省き、資料がつながったと思い込むこと。
ウ　石段のくぼみを、草の影と取り違えてしまったこと。
エ　日誌に書かれた人数を、計算し間違えてしまったこと。

（4）写真を開いた時点の調査メモだけから言えることとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　石段のくぼみの深さから、患者の人数まで数えられる。
イ　診療所のそばにある石段なので、患者がくぼみを作ったと分かる。
ウ　写真に荷車が写っているので、市場の人が石段を作ったと分かる。
エ　患者以外が石段を使った可能性もあり、使った人はまだ特定できない。

（5）写真を見た時点で、悠人の「たくさんの患者が通った」という見方が変わったのはなぜですか。写真から分かったことと、石段だけでは分からないことを結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）本文全体を、「痕跡」「読解」の二語を必ず使い、70〜90 字でまとめなさい。町の調査と文章を読むことの共通点を含めます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第一回　跡をたどり 意味に近づく

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　水や考えが、内側まで入りこむことに着目する。

（2）ア　途中で止めず、最後まで通す意味を共有する。

（3）エ　「骨髄」は骨の内部にある組織。「神髄」は物事の最も大切なものをいう。

（4）イ　「交錯」は、道・思い・情報などが入りまじること。「錯」がある語をすべて「誤り」とは捉えない。

（5）ア　案内にもとからあった内容に、地図を加えている。「添削」では加えるだけでなく、削ったり直したりもする。

（6）ウ　「惜敗」は、惜しいほどのわずかな差で負けること。
勝ち負けだけでなく、差の小ささも表す。

四　熟語を広げよう

（1）浸水　（2）浸食　（3）残念　（4）徹底　（5）貫徹
（6）遺跡　（7）深刻　（8）診断　（9）浄化　（10）上昇
（11）随筆　（12）添削　（13）挑戦　（14）透明

（3）「残念」は、期待どおりにならず心残りに思うこと。（6）「遺跡」は昔の人の活動が残る場所。
（7）「深刻」は、問題や影響が重大で、容易には解決できない様子を表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　「普及」は使う人や範囲の広がり、「浸透」は考えや習慣が内側まで根づくことに着目する。この文では、アプリの広がりと習慣の定着を分けている。

（2）ア　「痕跡」は広くしるしを表す。「遺跡」には、昔の人の活動が残った場所や遺構であることが含まれる。「痕跡」と言っても誤りとは限らないが、示す情報は広くなる。

（3）エ　A は見え方の取り違えなので「錯覚」。B は説明の意味の取り違えなので「誤解」。

（4）イ　「惜しい」は得られそうだった価値や機会に、「悔しい」は自分の行動や結果へのやりきれなさに目が向きやすい。同じ敗戦を「惜しい」とも「悔しい」とも感じることはある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

新しい分別の考え方が住民に浸透し、ごみの出し方が変わった。

☆自分で確かめる点　考えや習慣が人々に根づいたことと、具体的な行動の変化がつながっていればよい。「アプリが多くの人に浸透した」だけでは、この問いで求めた習慣や行動が伝わりにくい。

（6）解答例

雪に並ぶ小さなくぼみを見て、夜に動物が通った痕跡ではないかと考えた。

☆自分で確かめる点　「何かがあったあと」の意味で使い、残ったものと、そこから考えたことを結びつける。身近な経験でも、想像した場面でもよい。

六　短文で使ってみよう

（1）錯誤　（2）骨髄　（3）足跡　（4）添加　（5）惜別
（6）挑発　（7）古跡　（8）貫通　（9）清浄　（10）遺産
（11）昇進　（12）随行　（13）透過　（14）傷痕　（15）透徹
（16）こらい　（17）ざんそん・ざんぞん　（18）しんそう　（19）どっかい　（20）てつや

（7）「古跡」は、昔の出来事や人々の活動の跡が残る場所。（14）は「傷跡」も可。（15）「透徹」は、考えや見方が明らかで、本質をよく見抜いていること。（17）「残存」は二つの読みを認める。

七　文章の中で考えよう

（1）精髄　事実と不明な点を分け、確かめる手順を、仕事の最も大切な中心として捉えている。

（2）読書　「読解」は文章の意味を読み取ること。「読書」は本を読むことをいう。同じ「読」を、異なる熟語でも確かめる。

（3）イ　自分の望む説明に合わない記述を省けば、資料がつながったように思える。しかし、それは資料に支えられた理解ではなく、自分の思い込みかもしれない。ここでの「錯覚」は見た形の取り違えに限らない。

（4）エ　日誌が見つかる前のメモで考える。市場や荷車の写真は、患者以外が通った可能性を考える手がかりになる。ただし、利用者や人数を確定する証拠ではない。アは人数、イは利用者、ウは石段を作った人まで決めてしまっている。

七　記述問題の考え方

（5）　見方が変わった理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

写真に市場や荷車が写っていて患者以外の利用も考えられ、石段だけでは通った人や人数を特定できないから。

（5）別解例　51 字

写真から市場や荷車の利用者も通った可能性が生まれ、石段だけでは使った人の内訳や人数を決められないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 写真の市場や荷車から、患者以外の利用者も考えられることを示したか。

② 石段のくぼみだけでは、使った人や人数を特定できないことを示したか。

③ 新しい資料と、もとの判断の限界を、理由として結びつけたか。

この問では、日誌が見つかる前の、写真による見方の変化を説明する。「患者以外の人も通ったから」だけでは、写真から確かめられないことまで言い切ってしまう。「利用した可能性がある」など、根拠から言える範囲を表す。

（6）　町の調査と読解の共通点 70〜90 字

（6）解答例　84 字

町に残る痕跡も文章中の言葉も、それだけで意味や背景を決められない。読解では、複数の手がかりを照らし合わせ、分かったことと推測を分けながら、読みを確かめ直すことが大切だ。

（6）別解例　81 字

町の痕跡を調べるときも文章の読解でも、一つの手がかりから答えを急いで決めない。別の資料や前後の文を確かめ、事実と推測を区別し、新しい手がかりがあれば見方を改める。

☆（6）自分で確かめる点

①「痕跡」「読解」の二語を使い、町の調査と文章を読むことを結んだか。

② 一つの手がかりだけで決めず、複数の資料や前後の文を確かめることを示したか。

③ 分かったことと推測を分ける、または新しい手がかりで読み直すことを含めたか。

町の調査のあらすじだけでは、文章を読むこととの共通点が足りない。解答例と同じ言い方でなくても、上の内容が伝わればよい。

漢字から文章へ 第一冊

第二回

心が動く

友人の成功はうれしい。でも、少し心配なこともある。
そんなときの気持ちを、どう言葉にしたらよいのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

悔	憂	恐	怒
行いを残念に思う	心配する	おそれる	腹を立てる

驚	慕	憧	愉
思いがけず心が動く	親しみや敬意を寄せる	理想に心が引かれる	楽しく心地よい

いっしょに覚える漢字

悲	喜	笑	泣	涙	恥
恨	懐	惑	快	情	感

この回で読むお話

拍手のあとで

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
悔	カイ くいる くやしい	自分の行いや結果を残念に思う 後悔・悔悟・悔しい	驚	キョウ おどろく	思いがけないことに心が動く 驚愕・驚異・驚く
憂	ユウ うれえる うれい	心配する／心配や悲しみ 憂慮・憂鬱・憂い	慕	ボ したう	親しみや敬意を寄せる 敬慕・思慕・慕う
恐	キョウ おそれる おそろしい	おそれる／おそれ多く思う 恐怖・恐縮・恐れる	憧	ショウ あこがれる	理想とするものに心が引かれる 憧憬・憧れる
怒	ド おこる いかる	強く腹を立てる 激怒・怒号・怒る	愉	ユ	楽しい／心地よい 愉快・愉悦・愉楽

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
悲	ヒ かなしい かなしむ	心が痛むほどつらい 悲劇・悲観・悲しい	恨	コン うらむ	相手への不満を心に残す 遺恨・怨恨・恨む
喜	キ よろこぶ	うれしく思う 歓喜・喜劇・喜ぶ	懐	カイ なつかしい ふところ	心に抱く／なつかしく思う 懐古・懐旧・懐かしい
笑	ショウ わらう えむ	笑う／ほほえむ 笑顔・微笑・笑う	惑	ワク まどう	迷って、とまどう 困惑・迷惑・惑う
泣	キュウ なく	涙を流す 号泣・泣く	快	カイ こころよい	気持ちがよい 快適・快晴・快い
涙	ルイ なみだ	なみだ 涙腺・涙声・涙	情	ジョウ なさけ	心の動き／事情 感情・表情・事情
恥	チ はじる はずかしい	はずかしく思う 羞恥・恥辱・恥じる	感	カン	心に受けとめる／心が動く 感動・感謝・実感

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「後悔・悔悟」の「悔」が表す意味はどれですか。
ア　相手の成功を祝う　　イ　過ぎた行いを残念に思う
ウ　これからの危険に備える　　エ　昔の出来事を懐かしむ

(2)「憂慮」の「憂」が表す気持ちはどれですか。
ア　相手に強く腹を立てる　　イ　思いがけず驚く
ウ　うまくいくか心配する　　エ　努力が実って喜ぶ

(3)「驚愕」の意味として最も近いものはどれですか。
ア　非常に驚くこと　　イ　深く感謝すること
ウ　静かに喜ぶこと　　エ　失敗を悔やむこと

(4)「恩師を敬慕する」の「慕」が表す気持ちはどれですか。
ア　同じ失敗を責め続ける　　イ　相手の将来を心配する
ウ　昔の出来事を忘れる　　エ　敬い、親しみを感じる

(5)「愉快な時間」の「愉」が表す意味はどれですか。
ア　思いどおりにならず悔しい　　イ　楽しく気持ちがよい
ウ　先が分からず不安だ　　エ　人前で恥ずかしい

(6)「恐怖」と「恐縮」の説明として、最も適切なものはどれですか。
ア　どちらも相手への強い怒り　　イ　どちらも昔を惜しむ気持ち
ウ　強いおそれと、相手に対しおそれ入る気持ち　　エ　大きな喜びと、穏やかな楽しさ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　困惑　敬慕　表情　感動　快適　愉快　憂慮
号泣　歓喜　憧憬　懐古　激怒　羞恥　驚愕

文	解答	文	解答
(1) 気持ちを言葉にしなくても、顔の□□から伝わることがある。		(8) 友人の冗談で笑い合い、□□な時間を過ごした。	
(2) 人口の減少を□□し、将来の対策を話し合った。		(9) 念願の優勝が決まり、選手たちは□□した。	
(3) 窓から風が入り、□□な部屋で読書を楽しんだ。		(10) 人知れず続けた努力を知り、深く心を動かされて□□した。	
(4) 不正を知って□□し、怒りで声を荒らげた。		(11) 古い校舎を見ながら、□□の情にひたった。	
(5) 信じがたい実験結果に□□し、何度も数値を見直した。		(12) 二人の指示が食い違い、どうすればよいか□□した。	
(6) 恩師の人格に触れ、深い□□の念を抱いた。		(13) 別れの悲しみに耐えられず、声を上げて□□した。	
(7) 宇宙飛行士への□□が、学びを続ける力になった。		(14) 大勢の前で失敗したことに、強い□□を覚えた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）A・B の気持ちの違いとして、最も適切なものを選びなさい。

A　練習を怠って試合に負けたのが悔しい。
B　親しい友人と遠く離れて暮らすのが悲しい。

ア　A は別れへのつらさ、B は自分の準備への後悔が中心である。
イ　A は自分の行いや結果への無念さ、B は別れへのつらさが中心である。
ウ　A は相手への恐れ、B は相手の成功への喜びが中心である。
エ　A も B も、失敗を隠そうとする恥ずかしさを表している。

（2）次の文の「憧れる」「慕う」が向かうものとして、最も適切なものを選びなさい。

私は舞台に立つ将来に憧れ、練習を支えてくれた恩師を今も慕っている。

ア　過去の失敗への後悔と、将来の仕事への不安。
イ　将来の役割への不満と、恩師の成績への評価。
ウ　人前に出ることへの恐れと、恩師と競いたい願い。
エ　理想とする将来への願いと、恩師への親しみや敬意。

（3）A・B に最も合う語の組合せを選びなさい。

A　二人から違う指示を受け、どう動けばよいか分からなくなった。
B　暗い道で後ろから足音が近づき、身の危険を感じた。

ア　A＝困惑／B＝恐怖　　イ　A＝恐怖／B＝困惑
ウ　A＝困惑／B＝困惑　　エ　A＝恐怖／B＝恐怖

（4）「感動」と「歓喜」の説明として、最も適切なものを選びなさい。

A　亡き祖父が残した手紙に、感動して涙を流した。
B　長年の夢だった優勝を果たし、歓喜の声を上げた。

ア　A は大きな喜び、B は静かな悲しみだけを表す。
イ　A も B も、予想外の出来事への驚きだけを表す。
ウ　A は深く心を動かされたこと、B は大きな喜びを表す。
エ　A は失敗への後悔、B は昔を懐かしむ気持ちを表す。

（5）「後悔」を使い、自分の行いと、それを振り返った気持ちが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「慕う」を使い、どんな人物に、なぜ心が向かうかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 過去の過ちを深く**カイゴ**し、相手に謝罪した。	
(2) 岩の割れ目で育つ苗を見て、生命の**キョウイ**を感じた。	
(3) 雨の日が続き、少し**ユウウツ**な気分になった。	
(4) 亡き祖父への**シボ**を、短い随筆につづった。	
(5) 観客席から激しい**ドゴウ**が飛び、会場がざわめいた。	
(6) 長年の研究が実り、静かな**ユエツ**を味わった。	
(7) その舞台は、争いで家族を失う**ヒゲキ**を描いている。	
(8) 両家の間に残る**イコン**を、対話で解こうとした。	
(9) 言葉の行き違いを明るく描いた**キゲキ**を観た。	
(10) 同窓会では、校舎を巡って**カイキュウ**の情を語り合った。	
(11) 夜遅くに大声を出すと、近所の**メイワク**になる。	
(12) 遠足の日は雲一つない**カイセイ**に恵まれた。	
(13) 図鑑を開いて、**ルイセン**という器官の働きを調べた。	
(14) 人前で侮られ、強い**チジョク**を覚えた。	
(15) 緊張していた子も、先生の一言で**エガオ**になった。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 恐縮	(17) 微笑	(18) 事情	(19) 実感	(20) 憧憬

この回を終えたら もう一度確かめる

「憧れる」と「慕う」を使って一文ずつ口にしてみましょう。それぞれ、何に心が向かっているかを確かめます。漢字も、答えを隠してもう一度書きましょう。

七　文章の中で考えよう

拍手のあとで

　拍手を続けていると、手のひらが熱くなってきた。舞台では紗季が深く頭を下げていた。本当なら、そこに立つのは自分のはずだった。真由は、膝の上のプログラムを折らないよう持ち直した。

　けがで休演が決まったのは、一週間前だ。憧れていた役を諦め、真由は泣いた。慕っている顧問には「紗季なら大丈夫です」と言った。それは本心だった。紗季は急な代役を引き受け、練習を増やす相談にも快く応じた。真由も、立ち位置やせりふの間を何度も教えた。

　本番の紗季は、練習よりずっと伸びやかに見えた。愉快な場面では、客席に笑い声が広がった。真由は驚き、公演の成功を喜んだ。

　「次も紗季にやってほしいね。」
後ろの席の声に、拍手の手が少し緩んだ。

　自分がいなくても、公演は成功する。それを悔しいと思う自分が恥ずかしかった。紗季を恨んでいるわけではない。けれど、自分の役がなくなる恐れや、舞台に立てなかった悲しさは消えない。来年を思うと、胸には憂いが残った。

　楽屋で紗季が笑顔を向けた。「見に来てくれて、ありがとう。」真由は困惑した。その表情が、何もかもうまくいった人の余裕に見えた。「よかったね。」やっと言えた声は固かった。帰り道で、そんな言い方を後悔した。

　翌日は片付けだった。楽屋の机には、飾りに使った星形の紙が一枚残っていた。真由がそれを拾うと、紗季が隣に来た。

　「前の晩、怖くて泣いたんだ。失敗したら、真由が重ねた練習まで無駄にしそうで。本番も、教わった立ち位置を思い出して、やっと動けた。あの『ありがとう』は、それを言いたかったの。」

　真由は、紗季が練習中に何度も同じ動きを尋ねたことを思い出した。あれは、自信がないからだったのか。自分への感謝を、勝った人の余裕だと思っていた。

　少し黙ってから、「成功して、うれしかった。でも、自分の役がなくなりそうで怖かった」と言った。怒りに似た気持ちの奥にあったものを、初めて二つに分けて伝えられた。

　二人は、初めて一緒に練習した日の失敗を懐かしんだ。真由の目に涙が浮かんだが、少し笑えた。来年の配役はまだ分からない。それでも、「あの場面、どうして間を変えたの」と、紗季の演技について聞いてみたくなった。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）「相手をありがたいと思う気持ち」という意味の熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）「キョウフ」を漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「憂い」が指す気持ちとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　紗季の成功を素直に喜ぶ気持ち。
イ　これから自分の役がなくなるかもしれない心配。
ウ　昔の練習を懐かしく思い出す気持ち。
エ　練習の成果に満足する気持ち。

（4）拍手を送ったことと、楽屋で返事をためらったことを合わせて説明したものを選びなさい。

ア　成功を喜びながら、自分の役を失う不安も重なっていた。
イ　演技には感心したが、教えた動きを変えられたことに腹を立てた。
ウ　舞台の出来は喜んだが、自分の演技の失敗を思い出して恥じた。
エ　紗季に礼儀として拍手をしたが、公演の成功には関心がなかった。

（5）紗季が真由に感謝したのはなぜですか。本番前の不安と、真由の助けを結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）真由の気持ちを「紗季を恨んでいた」とだけまとめると、何が捉えられませんか。「喜び」「恐れ」を使い、本文の行動や会話を根拠に 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第二回　心が動く

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　どちらも、自分の行いや結果を振り返り、残念に思うことを表す。

（2）ウ　「憂慮」は、先のことや問題を心配して思いをめぐらすこと。

（3）ア　思いがけないことに、強く驚く。「驚」は驚異・驚愕などに使われる。

（4）エ　「敬慕」は敬い慕うこと。人の人格などに心を寄せる。

（5）イ　「愉快」「愉悦」の「愉」は、楽しさや心地よさに関わる。

（6）ウ　「恐怖」は強いおそれ。「恐縮」は相手の好意や自分の不手際などに対して、おそれ入る気持ちを表す。

四　熟語を広げよう

（1）表情　（2）憂慮　（3）快適　（4）激怒　（5）驚愕

（6）敬慕　（7）憧憬　（8）愉快　（9）歓喜　（10）感動

（11）懐古　（12）困惑　（13）号泣　（14）羞恥

（6）「敬慕」は人への敬意や親しみ、（7）「憧憬」は理想へのあこがれが中心。（10）感動は深く心を動かされることで、喜び以外の気持ちを伴うこともある。（1）「表情」は顔などに表れた気持ちの様子。（3）「快適」は気持ちよく過ごせること。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　A は自分の練習と結果を振り返り、B は親しい人との別れをつらく感じている。同じ出来事に、悔しさと悲しさの両方を感じることもある。

（2）エ　この文では「憧れる」は理想とする将来へ、「慕う」は支えてくれた恩師へ心が向かう。「憧れる」と「慕う」は意味が重なる場合もあり、対象や文脈から焦点を確かめる。

（3）ア　A は対応が分からずとまどう「困惑」、B は危険への強いおそれである「恐怖」。迷いとおそれを、具体的な状況から区別する。

（4）ウ　「感動」は深く心を動かされることを広く表す。「歓喜」は大きな喜びを表す。手紙に感動したからといって、気持ちが喜びだけだったとは限らない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

友人の話を最後まで聞かず、強い口調で言い返したことを後悔した。

☆自分で確かめる点　自分の過去の行いを振り返り、残念に思う気持ちが伝わるか。

（6）解答例

失敗したときも話を聞いてくれた先生を、卒業後も慕っている。

☆自分で確かめる点　人物への親しみや敬意、心を寄せる理由が分かるか。経験したことでも想像した場面でもよい。

六　短文で使ってみよう

（1）悔悟　（2）驚異　（3）憂鬱　（4）思慕　（5）怒号

（6）愉悦　（7）悲劇　（8）遺恨　（9）喜劇　（10）懐旧

（11）迷惑　（12）快晴　（13）涙腺　（14）恥辱　（15）笑顔

（16）きょうしゅく　（17）びしょう　（18）じじょう　（19）じっかん　（20）しょうけい〔どうけいも可〕

（20）「憧憬」は「しょうけい」「どうけい」の両方を認める。「慕う」と「憧れる」は、対象や場面によって意味が重なることがある。

七　文章の中で考えよう

（1）感謝　紗季は、真由の手助けが本番で支えになったことをありがたく思っている。真由は、それを余裕の表れと受け取っていた。

（2）恐怖　「恐」はおそれること。「怖」もおそれの気持ちに関わる。

（3）イ　来年の配役が分からず、自分の役がなくなるかもしれないと心配している。喜び、懐かしさ、満足とは焦点が異なる。

（4）ア　拍手には成功への喜びがあり、返事のためらいには自分の役への不安がある。イの演技変更への怒り、ウの自分の演技の失敗は、この時点では書かれていない。
エは成功を願っていたことと合わない。

七　記述問題の考え方

（5）　感謝の理由 45〜55 字

（5）解答例　49 字

失敗して真由の練習まで無駄にするのが怖かったが、教わった立ち位置を思い出し、演技を続けられたから。

（5）別解例　50 字

真由の練習まで無駄にしそうで本番を恐れていたが、真由が教えた立ち位置が支えとなり、舞台で動けたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 失敗すれば、真由の積み重ねた練習まで無駄にしそうだという不安を示したか。
② 真由に教わった立ち位置を思い出し、動く助けになったことを示したか。
③ 不安と具体的な助けを結び、感謝の理由として説明したか。

「代役を成功させたから」だけでは、なぜ真由に感謝したかが分からない。「練習を助けてくれた」などの表現でも、真由の助けが本番を支えたことまで伝わればよい。

（6）　一つの感情にまとめられない理由 70〜90 字

（6）解答例　81 字

真由は紗季の成功に喜びを感じて拍手を送り、代役の準備も助けていた。一方で、自分の役を失う恐れも重なっており、恨みだけでは拍手と返事のためらいの両方を説明できない。

（6）別解例　81 字

真由には、自分の役がなくなる恐れと、紗季の成功を願う喜びがあった。立ち位置を教え、拍手も送っており、相手を恨む一つの感情だけで捉えると、その重なりが見えなくなる。

☆（6）自分で確かめる点

① 「喜び」「恐れ」を使い、紗季の成功と自分の役に関わる二つの気持ちを示したか。
② 拍手や練習の手助け、返事のためらいなど、本文の行動を根拠にしたか。
③ 一つの気持ちにまとめると、両方の思いを捉えられないことを説明したか。

本文には「恨んでいるわけではない」ともある。相手への恨みに決めてしまわず、成功を願う気持ちと、自分の役への不安が重なっていることを読む。
表現や根拠の選び方が違っても、両方が伝わればよい。

漢字から文章へ 第一冊

第三回

見る 知る 考える

車の少ない道なら、安全といえるでしょうか。
二つの道の記録を見比べると、気になる違いが見つかります。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

視	観	察	認
目を向ける	よく見る	よく見て考える	確かめる
識	悟	疑	評
知る 見分ける	深く理解する	本当かどうか迷う	良し悪しを考える

いっしょに覚える漢字

知	見	考	思	判	解
論	証	記	聞	言	意

この回で読むお話

数字の隣の手がかり

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
視	シ	目を向ける／ある見方をする 視線・視点・注視・軽視	識	シキ	知る／見分ける 知識・認識・意識・識別
観	カン	よく見る／全体を捉える 観察・観点・客観・主観	悟	ゴ さとる	深く理解する／気づく 悟る・覚悟
察	サツ	よく見て考える／気づく 観察・考察・察知・推察	疑	ギ うたがう	本当かどうか迷う 疑問・疑念・疑惑
認	ニン みとめる	確かめる／そうだと受け入れる 確認・承認・認識	評	ヒョウ	良し悪しや価値を考え述べる 評価・評判・批評・評論

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
知	チ しる	知る／分かっている内容 知識・通知・知人	論	ロン	筋道を立てて述べる 論理・議論・論証
見	ケン みる	見る／ものの見方 発見・見解・意見	証	ショウ	確かめる／裏づける 証拠・証明・論証
考	コウ かんがえる	考える 考察・思考・参考	記	キ しるす	書き留める 記録・記事・記憶
思	シ おもう	思う／心に浮かべる 思考・思想・意思	聞	ブン きく	聞く／聞いて知る 新聞・伝聞・聞く
判	ハン	見分ける／決める 判断・判定・批判	言	ゲン ゴン いう	言う／述べること 言葉・発言・言論
解	カイ とく	解く／分かる／説明する 理解・解説・読解	意	イ	心の中の考えや気持ち 意味・意見・意思

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「注視・視線」の「視」に共通する働きはどれですか。
ア　聞いたことを書き留める　　イ　似たものを分けて置く
ウ　目を向けて見る　　エ　理由を順に説明する

(2)「観察」の説明として、最も適切なものはどれですか。
ア　対象をよく見て、様子や変化を調べる　　イ　得た資料から原因を考える
ウ　相手の考えに賛成する　　エ　良い点と問題点を述べる

(3)「認識」の意味として、最も近いものはどれですか。
ア　調べた順序を表にすること　　イ　同じ言葉を何度も書くこと
ウ　分からない点を質問すること　　エ　物事を理解し、そう捉えること

(4)「疑問」と「疑惑」の「疑」に共通する意味はどれですか。
ア　よくできた点をほめる　　イ　本当だろうかと思う
ウ　同じ形だと認める　　エ　内容を分かりやすく直す

(5)「評価」の「評」が表す働きはどれですか。
ア　見た順序を記録する　　イ　知らない言葉を調べる
ウ　価値や良し悪しを考える　　エ　同じ数値にそろえる

(6)「悟る」と「覚悟」に共通する「悟」の意味に近いものはどれですか。
ア　よく理解し、分かる　　イ　忘れないように書く
ウ　遠くから様子を見る　　エ　正しいか疑い続ける

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　判断　観察　視線　論証　知識　疑問　解説
視点　思考　悟る　認識　評価　考察　記憶

文	解答	文	解答
(1) 発表している生徒に、教室中の□□が集まった。		(8) 説明を聞いても、なぜそうなるのか□□が残った。	
(2) 同じ出来事でも、見る人の□□で捉え方が変わる。		(9) 作品の良さを、理由を挙げて□□する。	
(3) 植物の成長を毎日□□し、葉の数を記録した。		(10) 昔の出来事を、今でも鮮明な□□として覚えている。	
(4) 集めた資料をもとに、変化の原因を□□する。		(11) 難しい問題なので、□□を深める時間が必要だ。	
(5) この問題が重要だという□□を、全員で共有した。		(12) 情報が少ないまま、急いで□□してはいけない。	
(6) 言葉の意味を理解するには、漢字の□□も役に立つ。		(13) 分かりにくい仕組みを、図を使って□□した。	
(7) 失敗を繰り返し、準備の大切さを□□。		(14) 自分の主張の正しさを、証拠を挙げて□□する。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）A・B の活動を表す語の組合せを選びなさい。

A　毎朝、同じ位置から苗を見て、葉の数と色を記録した。
B　記録を読み、葉の色が変わった原因を考えた。

ア　A＝考察／B＝観察　　イ　A＝観察／B＝観察
ウ　A＝観察／B＝考察　　エ　A＝考察／B＝考察

（2）次の文の「知識」と「認識」の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

交通規則の知識は持っていたが、自分の歩き方にも危険があるという認識は十分でなかった。

ア　学んだ内容はあったが、自分にも関わる問題だという捉え方が弱かった。
イ　自分の危険には気づいていたが、学んだ内容をすべて忘れていた。
ウ　学んだ内容も、自分の危険への気づきも、十分だった。
エ　規則を学んでいなかったため、自分の行動を振り返れなかった。

（3）A・B に最も合う語の組合せを選びなさい。

A　合計が合わないのはなぜか、という問いが残った。
B　記録を都合よく書き換えたのではないか、という疑いが生まれた。

ア　A＝疑惑／B＝疑問　　イ　A＝疑問／B＝疑問
ウ　A＝疑惑／B＝疑惑　　エ　A＝疑問／B＝疑惑

（4）A・B の説明として、最も適切なものを選びなさい。

A　作品を、独創性や完成度を基準に評価する。
B　作品の良い点や問題点を、具体例を挙げて批評する。

ア　A は理由を述べ、B は作品の値段だけを決める。
イ　A は基準に照らして価値を考え、B は良い点や問題点を論じる。
ウ　A は作者の気持ちを想像し、B は作品の題名を説明する。
エ　A も B も、作品への不満を感情のままに伝える。

（5）「確認」を使い、何をどのように確かめたかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「見解」を使い、自分の見方と、それを支える理由が分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 警備員は画面を**チュウシ**し、不審な動きを見逃さなかった。	
(2) 呼吸を整え、自分の気持ちを静かに**イシキ**した。	
(3) 安全性という**カンテン**から、二つの案を比べた。	
(4) 困難な役目を引き受ける**カクゴ**を、静かに固めた。	
(5) 係員は煙のにおいを**サッチ**し、周囲を確かめた。	
(6) 説明を聞いても、記録の正確さへの**ギネン**が残った。	
(7) 全員の**ショウニン**を得て、計画を進めた。	
(8) おいしい店だという**ヒョウバン**を聞き、訪ねてみた。	
(9) 休校の**ツウチ**が、朝早く学校から届いた。	
(10) 結論だけでなく、そこへ至る**ロンリ**を確かめた。	
(11) 図書館の年表を**サンコウ**にして、発表資料を作った。	
(12) 新聞の**キジ**を読み、事実と意見を分けた。	
(13) 写真だけでは年代を**ハンテイ**できず、記録も調べた。	
(14) 同じ**コトバ**でも、場面によって受け取られ方は変わる。	
(15) 本人に確かめた事実と、人づての**デンブン**は分けて伝えたい。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 発見	(17) 意思	(18) 証明	(19) 新聞	(20) 読解

この回を終えたら もう一度確かめる

「観察」と「考察」を、それぞれ一つの具体例で説明してみましょう。記録に書かれたことと、自分がそこから考えたことも分けてみます。

七　文章の中で考えよう

数字の隣の手がかり

「B の道のほうが安全だね。」大地は、車の台数を見て表に丸を付けた。二つの通学路を比べた掲示物を作っているのだ。机の端では、使いかけの青い絵の具が乾き始めていた。悠人も同じ意見だったが、視線を日時の欄に移すと、気になる違いを発見した。

初めの観察記録

道	観察した日時	車	歩く人
A	平日 午前 7 時 50 分から 10 分間	18 台	32 人
B	日曜 午前 11 時から 10 分間	6 台	2 人

「A は登校の時間で、B は日曜日だ。これで比べられるかな。」
「でも、B は静かだって聞いたよ。」
悠人にもそんな評判の記憶はある。しかし、車の数を安全性の根拠にするなら、いつの数かが問題だ。班の意見を論証するには、日時の違いを説明しなければならない。

二人は記録を確認し、同じ平日の同じ時刻に観察し直すことにした。交通の知識があるだけでなく、何を比べているかを意識する必要がある。調べた条件も書き残そう。思い込みと記録の事実を分ける意味が、ようやく理解できた。

二つの係が同時に調べた再観察の記録

道	観察した日時	車	歩く人
A	同じ火曜 午前 7 時 50 分から 10 分間	15 台	35 人
B	同じ火曜 午前 7 時 50 分から 10 分間	17 台	10 人

「今度は、B の車が多い。」

大地は、初めの見解を残せないと悟った。それなら A が安全なのか。車の速さも、曲がり角の見通しも、まだ調べていない。歩く人の多さをどう評価するかも問題だ。車の台数だけを見る視点では、十分な判断はできない。

「B のほうが安全」という認識を支える証拠は、まだ足りない。一方、同じ時刻に調べて分かったことは言葉にして伝えたい。二人は青い絵の具を片付け、見出しに使う紙をもう一枚出した。

新しい見出しは「同じ時刻に調べた二つの道」。表の下には「次に調べること」として「車の速さ」「曲がり角の見通し」を書いた。大地が最初に付けた丸は、消さずに班のノートへ残した。あとで、考えがどう変わったかを説明できるように。残った疑問が、次の観察の手がかりになった。

本文と記録の数値は、この教材のために作った架空のものです。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と記録を根拠にして答えなさい。

（1）「物事の意味や内容が分かること」という意味の熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）「ショウコ」を漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「車の台数だけを見る視点」の「視点」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　得た記録を筋道立てて説明する手順。
イ　車の数に注目するという、ものの見方。
ウ　道を歩く人が立っている実際の位置。
エ　観察した結果が正しいか確かめること。

（4）再観察の記録から言えることとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　同じ時刻では A の車が少ないので、A の安全性が確かめられた。
イ　B は歩く人が少ないので、A より事故が起きやすいことが分かった。
ウ　同じ時刻では B の車が多いが、安全性にはほかの条件も関わる。
エ　最初と車の台数が違うので、初めの記録は書き間違いだと分かった。

（5）初めの記録だけでは、車の数を公平に比べられないのはなぜですか。観察した条件の違いと、その影響を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）安全性を比べるため、班が次に行う観察を提案しなさい。「条件」「根拠」を使い、何をどうそろえて調べ、判断にどう生かすかを 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第三回　見る 知る 考える

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　どちらも目を向けることに関わる。「注視」は注意を向けて見ること。

（2）ア　対象の様子や変化をよく見て調べるのが「観察」。
資料から原因などを考える「考察」と区別する。

（3）エ　物事を知り、どのようなものかと捉えること。知っている情報そのものを指す「知識」と焦点が異なる。

（4）イ　「疑」は、本当かどうかと思い迷うこと。「疑問」は分からない点への問い、「疑惑」は不正などを疑う気持ちに使われる。

（5）ウ　何を基準に良し悪しや価値を考えるかが「評価」に関わる。

（6）ア　「悟る」は深く理解すること。「覚悟」には、これから起こることを理解し、心を決める意味がある。

四　熟語を広げよう

（1）視線　（2）視点　（3）観察　（4）考察　（5）認識
（6）知識　（7）悟る　（8）疑問　（9）評価　（10）記憶
（11）思考　（12）判断　（13）解説　（14）論証

（3）は対象を調べる「観察」、（4）は資料から考える「考察」。（7）は送り仮名を含め「悟る」と書く。（14）「論証」は根拠を挙げ、筋道を立てて主張の正しさを示すこと。（10）「記憶」は、経験したことなどを覚えていることや、その内容をいう。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　A は対象の様子を調べる「観察」、B は得た資料から原因を考える「考察」。調べたことと、そこから考えたことを区別する。

（2）ア　「知識」は知っている内容。「認識」は物事をどう捉えているかということ。知識があっても、自分の行動と結びつけて捉えられない場合がある。

（3）エ　A は分からないことへの「疑問」。B は不正があったのではないかという「疑惑」。疑問があるだけで、不正があったことにはならない。

（4）イ　「評価」は基準に照らして価値や良し悪しを考えること。「批評」は対象の良い点や問題点を論じること。批評にも評価は含まれ、二つの働きは重なる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

集合時刻を勘違いしていないか、案内の手紙を開いて確認した。

☆自分で確かめる点　調べた対象と、確かめ方が具体的に分かるか。

（6）解答例

二つの記録で時刻が違うため、今は比較できないという見解を述べた。

☆自分で確かめる点　ある事柄についての見方として「見解」を使い、その理由を結びつけたか。

六　短文で使ってみよう

（1）注視　（2）意識　（3）観点　（4）覚悟　（5）察知
（6）疑念　（7）承認　（8）評判　（9）通知　（10）論理
（11）参考　（12）記事　（13）判定　（14）言葉　（15）伝聞
（16）はっけん　（17）いし　（18）しょうめい　（19）しんぶん　（20）どっかい

（15）「伝聞」は、人から聞いて知ることや、その内容。（17）「意思」は、何かをしようとする心の働き。「意志」と使い方が重なる場合もあるが、この問は示された「意思」の読みを答える。

七　文章の中で考えよう

（1）理解　記録の事実と思い込みを分けることの意味が、二人に分かったという場面。「理解できた」の「理解」を抜き出す。

（2）証拠　意見や判断が正しいと考えるための裏づけとなるもの。

（3）イ　ここでは、物を見る実際の位置ではなく、何に注目して考えるかという意味。アは説明の手順、エは確認の働きに近い。

（4）ウ　車はAが15台、Bが17台。ただし、速さや見通しは未調査で、安全性全体は決められない。アとイは数だけで安全性を決め、エは条件の違いを誤記と取り違えている。

七　記述問題の考え方

（5）　公平に比べられない理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

観察の曜日や時刻が違い、車の数の差が道の違いによるか分からず、通学時の状況を公平に比べられないから。

（5）別解例　53 字

Aは平日の登校時、Bは日曜の昼の記録で、車の数が違っても、道と観察した日時のどちらの影響か分からないから。

☆（5）自分で確かめる点

① Aは平日の登校時、Bは日曜の昼で、観察の曜日や時刻が異なることを示したか。

② 台数の差を道の違いによるものと決められないことを示したか。

③ 条件の違いと、比較の限界を理由として結びつけたか。

どちらも観察時間は10分間なので、「調べた時間の長さが違う」は合わない。「時間が違う」と書く場合は、時刻や曜日の違いを指すと分かるようにする。

（6）　次の観察の提案 70〜90 字

（6）解答例　79 字

同じ曜日・時刻・時間の長さという条件をそろえ、二つの道で車の速さと曲がり角の見通しを観察する。車の数だけでなく、歩く人が危険に気づけるかも判断する根拠にする。

（6）別解例　78 字

曜日や時刻などの条件をそろえ、両方の道の歩道の幅や曲がり角の見通しを調べる。得た記録を、車の数とともに、歩く人が危険を避けられるかを判断する根拠として使う。

☆（6）自分で確かめる点

①「条件」「根拠」を使い、両方の道でそろえる曜日・時刻などを具体的に示したか。

② 車の速さ、見通し、歩道の幅など、追加して調べる項目を示したか。

③ 調べたことを安全性の判断にどう生かすかを説明したか。

提案する項目は一つでもよい。本文にない項目でも、道を歩く人の安全と関係し、条件と調べ方が具体的なら認める。「もっと観察する」だけでは、何をどう調べるかが足りない。調べる前に結論を決めず、得られた記録を判断の根拠にする。

漢字から文章へ 第一冊

第四回

動く 進む 変わる

動く映像を作っているのに、犬を止めたままにする。
その短い間に、何が起こるのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

移	進	退	転
場所や状態がうつる	前へ進む	後ろへ下がる	向きや状態が変わる

変	促	抑	躍
形や状態が変わる	進むようううながす	勢いをおさえる	生き生きと動く

いっしょに覚える漢字

動	歩	走	行	来	去
起	止	沈	浮	倒	伸

この回で読むお話

動かさなかった場面

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
移	イ うつる うつす	場所や状態がうつる 移動・移転・移行	変	ヘン かわる かえる	形や状態が変わる 変化・変動・変更
進	シン すすむ	前へ進む／物事が進む 進行・進歩・前進	促	ソク うながす	進むようにうながす 促進・催促・促す
退	タイ しりぞく	後ろへ下がる／身を引く 後退・退場・退職	抑	ヨク おさえる	勢いや感情をおさえる 抑制・抑圧・抑える
転	テン ころがる ころぶ	向きや状態が変わる 転換・転倒・転校	躍	ヤク おどる	勢いよく動く／活発になる 躍動・飛躍・活躍

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
動	ドウ うごく	動く／動かす 運動・活動・動作	起	キ おきる	起きる／始まる 起動・起床・発起
歩	ホ あるく	歩く／進む 歩行・歩道・進歩	止	シ とまる とめる	動きがとまる 停止・中止・防止
走	ソウ はしる	走る 走行・競走・疾走	沈	チン しずむ	下へしずむ／静まる 沈下・沈黙・沈む
行	コウ いく おこなう	行く／行う 行動・進行・旅行	浮	フ うく	上や表面に現れる 浮上・浮力・浮かぶ
来	ライ くる	やって来る 来訪・未来・往来	倒	トウ たおれる	立っていたものがたおれる 転倒・倒壊・倒れる
去	キョ さる	その場から離れる 去来・過去・退去	伸	シン のびる のばす	長くなる／広がる 伸長・伸縮・伸びる

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「移動・移転」の「移」に共通する意味はどれですか。
ア　動きを途中で止める　　イ　場所が別の所へうつる
ウ　勢いを前より強くする　　エ　一つのものを二つに分ける

(2)「進行」と「後退」の説明として、最も適切なものはどれですか。
ア　どちらも、後ろへ下がることを表す　　イ　どちらも、速さが上がることを表す
ウ　前者は止まり、後者は動くことを表す　　エ　前者は進み、後者は後ろへ下がることを表す

(3)「交流を促進する」の「促」が表す働きはどれですか。
ア　進むように働きかける　　イ　もとの状態へ戻す
ウ　活動の結果を記録する　　エ　動きを完全に止める

(4)「怒りを抑制する」とは、どのようにすることですか。
ア　怒りの原因をすべて忘れる　　イ　怒りを周囲へ強くぶつける
ウ　怒りがそのまま出ないようおさえる　　エ　怒っている人から遠く離れる

(5)「話の展開が大きく飛躍した」の「躍」は、どんな意味に広がっていますか。
ア　話を最初から同じ順に戻す　　イ　細かな点を順に書き留める
ウ　話す人がその場に立ち止まる　　エ　段階を大きく越えて先へ進む

(6)「転倒」と「方針転換」の「転」に関わる意味はどれですか。
ア　長さが増す　　イ　向きや状態が変わる
ウ　同じ場所にとどまる　　エ　表面をきれいにする

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　停止　浮上　伸縮　移動　躍動　行動　沈下
抑制　来訪　倒壊　進行　変化　起動　去来

文	解答	文	解答
(1) 重い机を窓のそばへ□□した。		(8) 跳び回る動物の姿に、生命の□□を感じた。	
(2) 話し合いは予定どおりに□□している。		(9) 考えた案を実現するため、小さな□□を始めた。	
(3) 旅立つ朝、期待と不安が胸に□□した。		(10) パソコンを□□して、保存した写真を開いた。	
(4) 遠くからの客が工房を□□した。		(11) 機械が異音を立てたので、運転を□□した。	
(5) 去年と比べ、町の景色に大きな□□があった。		(12) 地面が少しずつ□□し、道路に段差ができた。	
(6) この素材はよく□□するので、体の動きに合わせやすい。		(13) 一度は消えた案が、会議で再び□□した。	
(7) 感情が表に出すぎないよう、自分の怒りを□□した。		(14) 激しい揺れで、古い塀が□□した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）A・B の「移動」「移行」が表す変わり方を選びなさい。

A　作業する机を、廊下から教室へ移動した。
B　出欠の記録を、紙から電子の仕組みへ移行した。

ア　A は場所、B は仕組みや状態が別へ移る。
イ　A は仕組み、B は場所が別へ移る。
ウ　A はその場で止まり、B は速さが上がる。
エ　A も B も、物を遠くへ運んでいる。

（2）A・B を表す語の組合せを選びなさい。

A　橋の工事が、予定の段階まで進んだ。
B　案内を増やし、地域での交流が進むよう働きかけた。

ア　A＝促進／B＝進行　　イ　A＝進行／B＝進行
ウ　A＝促進／B＝促進　　エ　A＝進行／B＝促進

（3）次の文から分かる「抑制」と「停止」の違いはどれですか。

水の使用を抑制するため、流量を小さくした。ただし、水の供給を停止したわけではない。

ア　水を止めたあと、元の流量に戻した。
イ　水を完全に止めず、使う量をおさえた。
ウ　水の量を増やし、流れる速さを上げた。
エ　抑制も停止も、ここでは全く同じ状態を指す。

（4）A・B の変化の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

A　季節とともに、木の葉の色が変化した。
B　会の目的を、販売から体験の提供へ転換した。

ア　A も B も、もとの状態をそのまま保った。
イ　A は速さ、B は距離だけが変わった。
ウ　A は状態が変わり、B は進む方針が切り替わった。
エ　A は人が決めた方針、B は自然の状態が変わった。

（5）「促進」を使い、何を進めるためにどう働きかけたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「転換」を使い、もとの方針と新しい方針が分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 駅前の書店は、来月となりの通りへ**イテン**する。	
(2) 材料の価格が大きく**ヘンドウ**し、予算を見直した。	
(3) 練習の成果が表れ、泳ぎ方が**シンポ**した。	
(4) 図書館から、本を返すように**サイソク**の連絡が届いた。	
(5) 演奏を終えた人が、拍手の中を**タイジョウ**した。	
(6) 物語の主人公は、不満を**ヨクアツ**したまま話し続けた。	
(7) 新しい発想によって、研究が大きく**ヒヤク**した。	
(8) 毎朝、軽い**ウンドウ**を続けている。	
(9) 休日も同じ時刻に**キショウ**し、朝食を作った。	
(10) 雨でぬれた**ホドウ**を、足元に気をつけて歩いた。	
(11) 強風のため、午後の公演は**チュウシ**になった。	
(12) 二人の選手が、最後の直線まで激しく**キョウソウ**した。	
(13) 問いかけのあと、部屋に短い**チンモク**が流れた。	
(14) 春休みに、家族で海辺の町を**リョコウ**した。	
(15) 実験では、液体中の物体に働く**フリョク**を測った。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 活躍	(17) 伸長	(18) 往来	(19) 未来	(20) 転倒

この回を終えたら もう一度確かめる

「進行」と「促進」の違いを、一つの出来事を使って説明してみましょう。「抑制」と「停止」も、同じことかどうか確かめます。

七　文章の中で考えよう

動かさなかった場面

「もっと大きく動かせば、勢いが出るよ。」

亮に促され、明里は紙の犬を前へ移動させた。水たまりを跳び越える短い映像を作っている。姿勢を少しずつ変えて写真を撮り、順につなぐのだ。机の下には、青い紙の切れ端が散っていた。

再生すると、犬は横へ滑っていった。歩く場面や走る場面はうまくいくのに、いちばん見せたい跳躍だけが軽い。脚を伸ばし、位置を遠くへ変えても同じだった。来週の発表まで、あと二日。進行表には、今日中に撮影を終えると書いてある。

「いったん撮影を止めよう。」
「今から止めたら、完成から後退しちゃう。」
亮は顔をしかめた。明里も、活躍する犬を早く見せたい。けれど、動きを増やすことばかり考えて、同じやり方を繰り返している気がした。

最初から写真を見直すと、犬が転倒しかけ、起こす前に撮った一枚があった。水たまりの手前で前脚が曲がり、身が少し沈んでいる。

「これ、跳ぶ前に踏ん張っているみたい。」
亮の声に、明里は画面を止めた。失敗だと思っていた一枚から、次の案が浮かんだ。

明里は方針を転換した。犬をすぐ前進させず、身を低くした姿をしばらく見せる。そこから脚を伸ばして跳び、向こう側へ着地する。止めた写真を並べる間、亮は先を急ぐ気持ちを抑えた。

続けて見ると、二人は画面をのぞき込んだ。「今度は、跳びそうだって待ってしまう。」移動する距離は増やしていない。それでも、止まった犬から次の動きへ移るとき、最初より強い躍動が感じられた。

最後に犬が水たまりを振り返り、画面の外へ去る場面にも、小さな間を置いてみた。長さを変えると、ためらっているようにも、何かを確かめているようにも見える。どこでも長く止めればよい、というわけではなさそうだ。

進行表の撮影終了の時刻は過ぎていた。二人は予定を組み直し、明日直す一か所を決めた。作業を停止して見直した時間が、作り方の変化につながった。帰る前にもう一度再生すると、亮が笑った。「待ってるね。犬も、見ているぼくらも。」

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）前に向かって進むことを表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）後ろへ下がるという意味の「コウタイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「躍動」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　同じ速さで、同じ方向へ動き続けること。
イ　動く距離を、前より長くすること。
ウ　生き生きとした勢いのある動き。
エ　写真をたくさん並べて保存すること。

（4）犬を止めた場面について、本文から分かることを選びなさい。

ア　どこを長く止めても、同じ勢いが生まれる。
イ　止める位置や長さにより、動きの印象が変わる。
ウ　犬が止まったので、物語もそこで終わった。
エ　止めた写真が増えるほど、移動する距離も伸びる。

（5）二人が犬を止めた場面を残したのはなぜですか。その場面で見る人に生まれる気持ちと、次の動きの見え方を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）犬の映像と二人の作業における「停止」は、それぞれどんな変化につながりましたか。「停止」「変化」を使い、二つを結んで 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第四回　動く 進む 変わる

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　人や物、施設などが、もとの場所から別の場所へうつる意味。

（2）エ　「進」は前へ進むこと、「退」は後ろへ下がること。ただし、作業の後退が、必ず悪い結果を生むとは限らない。

（3）ア　「促進」は、物事が進むようにうながすこと。物事そのものが進む「進行」と区別する。

（4）ウ　感情がなくなることではなく、その勢いや表し方をおさえることに着目する。

（5）エ　跳ぶ動きから、段階を大きく越えることへ意味が広がっている。「飛躍」は、論理のつながりが抜ける場合にも使う。

（6）イ　「転倒」は倒れる方向への変化、「転換」は方向や方針の切り替えを表す。

四　熟語を広げよう

（1）移動　（2）進行　（3）去来　（4）来訪　（5）変化

（6）伸縮　（7）抑制　（8）躍動　（9）行動　（10）起動

（11）停止　（12）沈下　（13）浮上　（14）倒壊

（3）「去来」は、行ったり来たりすること。期待や不安が心に浮かんでは消えることにも使う。（4）「来訪」は訪ねて来ること。（6）「伸縮」は伸びたり縮んだりすること。（13）「浮上」は、案などが再び話題になることにも使う。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　この文では、A は机の場所、B は記録する仕組みが変わる。いずれも「移る」という意味だが、何がどう変わるかに着目して捉え分ける。

（2）エ　A は物事そのものが進む「進行」、B は進むように働きかける「促進」。だれが何に働きかけるかを見る。

（3）イ　「抑制」は勢いや程度をおさえること。この文では水が流れ続けている。「停止」は動きが止まることを表す。

（4）ウ　「変化」は変わることを広く表し、「転換」は方向や方針を切り替えることに焦点を当てる。転換も、広く見れば変化に含まれる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

地域の交流を促進するため、初参加の人も話せる小さな会を開いた。

☆自分で確かめる点　進めたいことと、そのための具体的な働きかけがつながっているか。

（6）解答例

本を売る会から、好きな本を紹介し合う会へと方針を転換した。

☆自分で確かめる点　何から何へ切り替えたかが具体的に分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）移転　（2）変動　（3）進歩　（4）催促　（5）退場

（6）抑圧　（7）飛躍　（8）運動　（9）起床　（10）歩道

（11）中止　（12）競走　（13）沈黙　（14）旅行　（15）浮力

（16）かつやく　（17）しんちょう　（18）おうらい　（19）みらい　（20）てんとう

（12）は速さを競って走るので「競走」。「競争」は広く、同じ目的を目指して競い合うこと。（17）の「伸長」は長さや勢力などが伸びること。

七　文章の中で考えよう

（1）前進　犬をすぐ前へ進めるのでなく、身を低くした姿を先に見せる場面。「前進させず」の「前進」を抜き出す。

（2）後退　「後ろへ下がる」という指定に合う。「交代」「交替」は、人などが入れ替わること。

（3）ウ　ここでは、動きから感じられる、生き生きとした勢いをいう。距離や速さだけで決まるものではない。

（4）イ　最後の場面で、ためらいや確認など、止め方による見え方の違いが示される。アはいつでも同じとし、ウは物語の終わりと取り違え、エは距離が増えたとしている。

七　記述問題の考え方

（5）　止めた場面を残した理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

止まる場面によって見る人が次の動きを待つようになり、そこから跳ぶ犬の動きに、より強い勢いを感じるから。

（5）別解例　50 字

跳ぶ前に身を低くして止まる姿を見せると、見る人に次を待つ間が生まれ、その後の動きが力強く見えるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 見る人が、次に何が起こるかを待つようになることを示したか。

② その期待と、続く跳躍が力強く見えることを結んだか。

③ 移動距離や写真の枚数だけを理由にしていないか。

「動きを止めた方がよいから」だけでは、理由が循環する。「次を待つ気持ち」と「その後の動きの印象」がどうつながるかを書く。

（6）　二つの停止が生んだ変化 70〜90 字

（6）解答例　84 字

映像では犬の停止が次の動きを待つ間を作り、跳躍を力強く見せた。作業では撮影を止めて写真を見直したことで、動きを増やす方針から、止まる場面を生かす方針への変化が生まれた。

（6）別解例　82 字

撮影を停止して見直すと、失敗した写真から新しい案が浮かび、作り方が変化した。また、映像で犬を止めると、見る人が次の動きを待つようになり、続く跳躍の勢いが引き立った。

☆（6）自分で確かめる点

① 映像での停止が、次を待つ間や跳躍の印象を作ったことを書いたか。

② 作業での停止が、写真の見直しや方針の転換につながったことを書いたか。

③ 「停止」「変化」を使い、二つの出来事を区別して結びつけたか。

犬が止まった時間と、二人が撮影を止めた時間を区別する。「止まることも大切だ」という一般論だけでなく、本文で何が変わったかを説明する。

漢字から文章へ 第一冊

第五回

形と境目

同じ広さの読書スペースなのに、入りやすさが違う。
その違いは、どこから生まれるのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

域	境	限	幅
ある範囲や場所	ものごとのさかいめ	ここまでという区切り	横や物事の広がり

層	端	隅	奥
重なりや段階	もののはしや先	中心から離れたすみ	深く入ったところ

いっしょに覚える漢字

形	線	面	角	辺	側
内	外	間	区	積	構

この回で読むお話

同じ部屋に 違う境目

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
域	イキ	ある範囲や場所 地域・領域・区域	層	ソウ	重なり／段階や集まり 地層・階層・年齢層
境	キョウ さかい	さかいめ／まわりの状態 境界・境目・環境	端	タン はし	もののはしや先 先端・端末・極端
限	ゲン かぎる	ここまでという区切り 限界・制限・期限	隅	グウ すみ	中心から離れたすみ 片隅・四隅・隅々
幅	フク はば	横や物事の広がり 横幅・幅員・振幅	奥	オウ おく	深く入ったところ 奥行き・奥底・奥義

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
形	ケイ かたち	外から見た姿 形状・形式・図形	内	ナイ うち	ある範囲のうち 内部・内側・内容
線	セン	細く長いすじ 直線・曲線・境界線	外	ガイ そと	ある範囲のそと 外部・外側・除外
面	メン	広がった部分 表面・側面・面積	間	カン あいだ	物と物や、時と時のあいだ 空間・時間・間隔
角	カク かど	かど／二つの線が開く度合い 角度・三角・角	区	ク	分ける／分けた場所 区別・区分・区域
辺	ヘン あたり	まわり／もののはし 周辺・辺り・辺境	積	セキ つむ	重なる／広さや量 面積・体積・蓄積
側	ソク かわ	そば／一方のがわ 側面・内側・外側	構	コウ かまえる	組み立てる 構造・構成・構想

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「地域・領域・区域」の「域」に共通する意味はどれですか。
ア　ものの外側の形　　イ　時間の始まり
ウ　ある範囲や場所　　エ　人と人の意見の違い

(2)「境界」と「環境」の説明として、最も適切なものはどれですか。
ア　どちらも、場所の横幅だけを表す　　イ　前者はさかいめ、後者は周囲の条件や状態を表す
ウ　前者は周囲の条件、後者はさかいめを表す　　エ　どちらも、ものの先のとがった所を表す

(3)「限界」の意味として、最も近いものはどれですか。
ア　ものの中心から遠い場所　　イ　全体をいくつにも分ける方法
ウ　ものの重なりの一段ずつ　　エ　それ以上は進めないぎりぎりのところ

(4)「地層・階層」の「層」が表す見方に近いものはどれですか。
ア　いくつもの重なりや段階として捉える　　イ　細い一本の線として捉える
ウ　もののとがった先だけを見る　　エ　中心からの距離だけを測る

(5)「極端な考え」の「極端」は、どのような様子ですか。
ア　全体の真ん中に近い　　イ　少しだけ違いがある
ウ　普通の範囲から大きく外れている　　エ　まだどの立場にも決めていない

(6)「考えの幅が広がる」の「幅」は、どんな意味に広がっていますか。
ア　紙の横の長さが長くなる　　イ　考えられる範囲や種類が増える
ウ　考える時間が短くなる　　エ　考えの正しさが一つに決まる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　角度　表面　限界　片隅　地域　制限　図形
領域　地層　横幅　環境　奥行き　先端　内部

文	解答	文	解答
(1) 海沿いの□□に住む人々が、祭りを支えている。		(8) 崖に土や砂の□□が重なり、しま模様が見えた。	
(2) この研究は、医学と法律の二つの□□にまたがる。		(9) 細い針の□□に、小さな水滴が付いている。	
(3) 時計の□□を見て、歯車の動きを調べた。		(10) 教室の□□に、小さな本棚を置いた。	
(4) 照明と机を変え、学びやすい□□を整えた。		(11) 棚の横幅だけでなく、□□□も測った。	
(5) これ以上は増やせないという記憶容量の□□に達した。		(12) 三角形や四角形などの□□を紙に描いた。	
(6) 会場の参加人数を二十人に□□する。		(13) 池の□□に、夕方の空が映っていた。	
(7) 机の□□を測り、壁との間に収まるか調べた。		(14) 二本の線が開く□□を、分度器で測った。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）A・B の「地域」「領域」の説明として、最も適切なものを選びなさい。

A　雨の多い地域の暮らしを調べた。
B　研究の領域を、気象から建物の設計へ広げた。

ア　A も B も、土地を二つに分けた境目を指す。
イ　A は学問の分野、B は住んでいる土地を指す。
ウ　A は建物の外形、B はその内部を指す。
エ　A は土地のまとまり、B は研究が関わる範囲を指す。

（2）次の文の「境界」と「環境」は、何を表していますか。

学校と公園の境界に木を植え、両方で過ごす人にとって心地よい環境を作る。

ア　場所のさかいめと、人を取り巻く条件や状態。
イ　人の気持ちと、場所の広さの上限。
ウ　場所の周囲の条件と、二つの場所のさかいめ。
エ　ものの表面と、奥に重なった部分。

（3）A・B の「制限」「限界」の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

A　練習時間を一時間に制限した。
B　その機械で作れる大きさには限界がある。

ア　A も B も、必ず人が規則で決めた範囲である。
イ　A も B も、努力すればなくなる範囲である。
ウ　A は時間を決めておさえ、B は可能な大きさの上限を表す。
エ　A は可能な時間の上限、B は人が決めた作業時間を表す。

（4）次の文で「表面」と「深層」を分けているのはなぜですか。

表面には笑顔が見えたが、その言葉をよく聞くと、心の深層にある不安も感じられた。

ア　笑顔を、本当は存在しないものだと決めている。
イ　外に見える様子と、すぐには見えない内面を捉え分けている。
ウ　笑顔と不安は、同時には生まれないと決めている。
エ　相手の顔の形と、身体の奥行きを測り分けている。

（5）「境界」を使い、何と何を分ける境目かが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

（6）「構造」を使い、部分の組み合わせ方が分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 工事のため、立入禁止の**クイキ**が地図に示された。	
(2) 言葉の表面だけでなく、心の**シンソウ**にも目を向けた。	
(3) 定規を当て、二つの点を**チョクセン**で結んだ。	
(4) 新しい**タンマツ**に、学習用の資料を保存した。	
(5) 提出の**キゲン**を確かめ、余裕をもって仕上げた。	
(6) 額縁の**ヨスミ**が、直角になっているか調べた。	
(7) 道路の**フクイン**を、図面で確認した。	
(8) 胸の**オクソコ**にしまっていた思いを、初めて話した。	
(9) 出土した器の**ケイジョウ**を、図に記録した。	
(10) 建物の**ガイブ**からは、内部の様子が見えない。	
(11) 机の配置を変えると、教室の**クウカン**が広く感じられた。	
(12) 事実と推測を**クベツ**して、ノートに書いた。	
(13) 容器に入る水の**タイセキ**を求めた。	
(14) 建物の**ソクメン**に、細長い窓が並んでいる。	
(15) 文章の**コウセイ**を、書く前に考えた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 曲線	(17) 三角	(18) 辺境	(19) 内容	(20) 面積

この回を終えたら もう一度確かめる

「制限を決める」ことと「限界に達する」ことの違いを、一つずつ例にしてみましょう。扉の漢字にも戻り、場所の形を表す言葉を探します。

七　文章の中で考えよう

同じ部屋に 違う境目

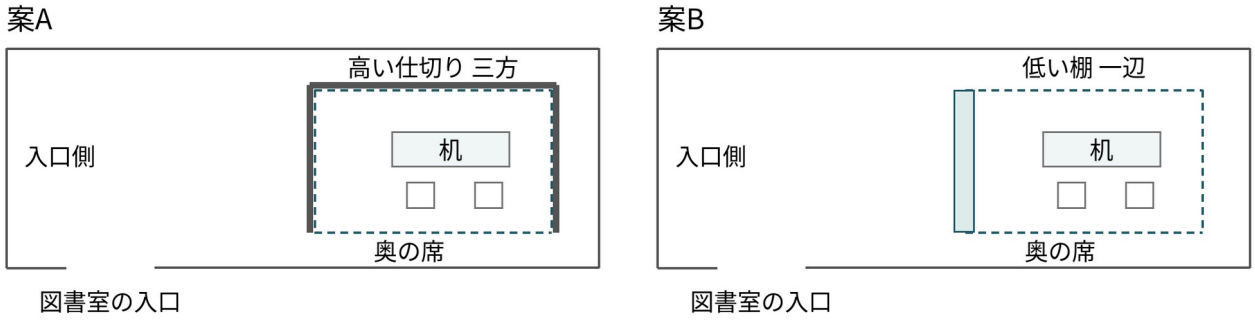
「ここは、入っていいの。」

初めて図書室に来た生徒が、仕切りの前で足を止めた。中の席は空いている。奈央は手招きしてから、入口側へ回ってみた。さっきまで見えていた机が、ここからは見えなかった。

本棚から離れた片隅に、静かに読める区域を作るつもりだった。床には長方形の境界線を引いてある。机の横幅や棚の奥行きを測り、図面を構成した。机の角を通路に出さず、棚の端から壁までの間隔も確かめた。

案 A は、三方に背の高い仕切りを置く構造だ。外側の視線が気にならず、落ち着けると思った。案 B では、同じ面積のまま、境目を作る物を変えてみる。

二つの配置案



点線は同じ広さの区域です。図は上から見た配置を表し、仕切りや棚の高さは文字で示しています。

案 A を使った人からは、「周りが見えなくて集中できる」という声があった。囲まれた席があるから図書室に来たくなった人もいる。一方、学年による利用の制限はないのに、決まった人だけの場所だと感じる人もいた。違う年齢層にも聞いたが、希望は一つにそろわない。

奈央は図面を見た。線の内と外を分けただけのつもりが、入りやすさまで変えていた。窓辺では、誰かがめくる本のページが、風にあおられて戻っていた。

次は案 B を試そう。低い棚を一辺に置き、ほかの辺は開ける。棚の側面が境目を示し、外から奥の席まで見渡せる。区域を広げなくても、内側の様子が見えれば、入ってよい場所だと伝わるかもしれない。

ただ、奥で読む人の落ち着きも保てるかは、まだ分からない。奈央は図面の余白に「入ってみたい人と、静かにいたい人の両方に聞く」と書いた。仕切りの有無だけでは決まらない。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と配置図を根拠にして答えなさい。

（1）物と物のあいだの隔たりを表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ある場所の周りを表す「シュウヘン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）棚の「奥行き」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　左右に広がる長さ。
イ　床から上へ伸びる高さ。
ウ　周りのものとのあいだ。
エ　手前から奥へ向かう深さ。

（4）配置図と本文の両方に合う説明を選びなさい。

ア　案 B は、区域そのものの面積を大きくしている。
イ　案 A は、図書室全体の入口を仕切りで閉じている。
ウ　区域の面積が同じでも、内外の見通しを変えられる。
エ　案 B は、境目を示すものをすべて取り除いている。

（5）奈央が案 B を試すことにしたのはなぜですか。案 A で起きたことと、案 B で変えたいことを結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）入りやすさと、静かに読みたい人の落ち着きを両立するには、どんな工夫が考えられますか。「境界」「構造」を使い、本文の二つの希望と自分の案を結んで 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第五回　形と境目

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　土地のまとまりだけでなく、研究などの範囲にも使われる。

（2）イ　「境」はさかいめにも、まわりの状態にも関わる。
一字の意味だけで熟語の意味を一つに決めない。

（3）エ　どこまでできるか、どこまで成り立つかという、ぎりぎりのところを表す。

（4）ア　「層」は重なりや段階に関わる。「年齢層」のように、似た条件を持つ人の集まりを指す使い方もある。

（5）ウ　「端」の、はしという意味から、普通の範囲を大きく越えた様子を考える。

（6）イ　ものの横の広がりから、考えられる範囲や種類の広がりへ意味が広がっている。

四　熟語を広げよう

（1）地域　（2）領域　（3）内部　（4）環境　（5）限界
（6）制限　（7）横幅　（8）地層　（9）先端　（10）片隅
（11）奥行き　（12）図形　（13）表面　（14）角度

（2）の「領域」は研究の範囲にも使う。（3）「内部」は内側の部分。（8）は土や砂などの重なりを表す「地層」。（11）は送り仮名も含め「奥行き」。（14）「角度」は二本の線などが開く度合い。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　「地域」は土地のまとまりに、「領域」は研究や活動の範囲にも使う。ただし、「領域」には場所の範囲を表す用法もある。

（2）ア　「境界」はどこからどこまでかというさかいめ。「環境」は周囲の条件や状態。この文では、境界に手を加えることが環境づくりにつながっている。

（3）ウ　「制限」は一定の範囲を定めておさえること。「限界」は可能な範囲のぎりぎりのところ。制限の値が、能力や性能の限界と同じとは限らない。

（4）イ　「表面」は外から見える部分、「深層」は奥にある見えにくい部分。この文では、笑顔も不安もあると捉えており、笑顔が偽物だとは決めていない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

公園と住宅地の境界には、低い木が一列に植えられている。

☆自分で確かめる点　分けられている二つのものや場所が分かるか。

（6）解答例

箱の内部を調べると、小さな部屋が二段に重なる構造だった。

☆自分で確かめる点　部分の組み合わせや関係が具体的に伝わるか。

六　短文で使ってみよう

（1）区域　（2）深層　（3）直線　（4）端末　（5）期限
（6）四隅　（7）幅員　（8）奥底　（9）形状　（10）外部
（11）空間　（12）区別　（13）体積　（14）側面　（15）構成
（16）きょくせん　（17）さんかく　（18）へんきょう　（19）ないよう　（20）めんせき

（6）は「四つのすみ」で「よすみ」。（7）の「幅員」は、道路や橋などの横幅のこと。（14）の「側面」は横の面で、物事の一つの面を指す場合もある。

七　文章の中で考えよう

（1）間隔　棚の端と壁のあいだが、どのくらい離れているかを確かめた場面。
（2）周辺　ある場所の周り。「辺」は、はしや周りを表す。
（3）エ　棚の手前から奥へ向かう深さ。アは横幅、イは高さ、ウは間隔に当たる。
（4）ウ　点線の区域と机の位置は同じ。変わるのは境目を作る物と、その高さや置き方である。アは面積、イは入口、エは低い棚を読み落としている。

七　記述問題の考え方

（5）　案 B を試す理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

高い仕切りで中が見えず入ってよいか迷う人がいたので、低い棚で内側の様子を見せ、入りやすくしたいから。

（5）別解例　55 字

案 A では空席や利用できることが外から分かりにくかったため、案 B で見通しをよくし、入るためらいを減らしたいから。

☆（5）自分で確かめる点

① 案 A で、中の様子や利用してよいかが分かりにくかったことを示したか。
② 案 B で見通しを変え、入りやすくする狙いを示したか。
③ 面積を増やすことや、学年制限をなくすことを理由にしていないか。

学年による制限は初めからない。「広くするため」だけでは、
面積を変えずに何を変えるかが伝わらない。

（6）　二つの希望を結ぶ工夫 70〜90 字

（6）解答例　86 字

入口側は低い棚で境界を示し、中の席が見える構造にする。奥の一部には高い仕切りを残し、静かに読む席を作る。入りやすさを保ちながら、囲まれた場所を好む人も席を選べるようにする。

（6）別解例　80 字

区域の境界は低い棚で示し、通路から奥まで見渡せる構造を試す。落ち着いて読む人のために、通路から離れた席を設け、話しながら本を選ぶ場所とは距離を取れるようにする。

☆（6）自分で確かめる点

①「境界」「構造」を使い、棚や仕切り、席などの置き方を具体的に示したか。
② 入ってみたい人に、中の様子や利用できることが伝わる工夫を示したか。
③ 静かに読みたい人の落ち着きにも配慮したか。

案 B をそのまま選ぶことだけを正答にはしない。案 A の一部を生かす、席を選べるようにするなど、二つの希望を踏まえた案を認める。仕切りを低くすれば必ず静かになる、とは本文から言えない。

漢字から文章へ 第一冊

第六回

関係を結ぶ

声とピアノがそろえば、うまくいくはずでした。
けれど、二人が思い描く終わりは違っていたようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

伴	接	結	絡
そばにいてともにする	ふれる つながる	むすぶ まとまる	からむ つながる

応	対	交	属
相手や状況にこたえる	向かい合う	まじわる 行き来する	ある集まりに入る

いっしょに覚える漢字

係	関	合	別	同	共
協	連	友	仲	隣	縁

この回で読むお話

最後の音を置く場所

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
伴	ハン バン ともなう	そばにいて、ともにする 伴走・同伴・伴奏	応	オウ	相手や状況にこたえる 応答・対応・反応
接	セツ	ふれる／つながる 接触・接続・接点	対	タイ	向かい合う 対話・対立・反対
結	ケツ むすぶ	むすぶ／まとまる 結合・結論・結果	交	コウ まじわる	まじわる／行き来する 交流・交差・交渉
絡	ラク からむ	からむ／つながる 連絡・脈絡・絡む	属	ゾク	集まりや種類に入る 所属・属性・金属

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
係	ケイ かかり	つながり／受け持つ役目 関係・係員・係	協	キョウ	力を合わせる 協力・協調・協議
関	カン かかわる	かかわる／つながる 関係・関心・関連	連	レン つらなる	つらなる／つながる 連絡・連続・関連
合	ゴウ あう	あう／あわせる 結合・合同・都合	友	ユウ とも	ともだち 友人・友情・親友
別	ベツ わかれる	分ける／はなれる 区別・別人・別離	仲	チュウ なか	人とのあいだ 仲間・仲裁・仲良し
同	ドウ おなじ	同じ／ともにする 同時・同意・共同	隣	リン となり	となり／となりあう 隣人・近隣・隣接
共	キョウ とも	ともに／同じように 共通・共同・共感	縁	エン ふち	つながり／もののふち 縁故・血縁・縁

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「同伴・伴走・伴奏」の「伴」に共通する意味はどれですか。
ア　そばにいて、ともにする　　イ　相手の動きを止める
ウ　一つのものを分ける　　エ　自分だけ先へ進む

(2)「接触」と「接続」の「接」に共通する意味はどれですか。
ア　遠く離す　　イ　別々に分ける
ウ　ふれる、つながる　　エ　前の状態へ戻す

(3)「結果」と「結論」の説明として、最も適切なものはどれですか。
ア　どちらも、考える前に決めた計画　　イ　結果は成り行き、結論は考えた答え
ウ　結果は考えた答え、結論は計画　　エ　どちらも、出来事の原因だけを指す

(4)「急な変更に対応する」とは、どのようにすることですか。
ア　変更があったことを忘れる　　イ　相手と全く同じ行動をする
ウ　変更には必ず反対する　　エ　変わった状況に合わせて手を打つ

(5)「交差」と「交流」の「交」に関わる意味はどれですか。
ア　一つの場所に積み重なる　　イ　もとの場所へ戻る
ウ　まじわる、行き来する　　エ　つながりを切って離す

(6)「合唱団に所属する」の「所属」は、どんな関係を表しますか。
ア　ある集まりの一員である　　イ　相手の隣に住んでいる
ウ　同じ人に一度だけ会った　　エ　短い言葉を交わした

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　隣人　同伴　交流　結論　協調　接近　反応
所属　対立　結果　接続　交差　区別　対話

文	解答	文	解答
(1) 友人の□□で、初めての会に参加した。		(8) 互いに歩調を合わせる□□性を、班で発揮した。	
(2) 船が、目的地の港に□□している。		(9) 光を当てたときに、材料にどんな□□が起こるか調べた。	
(3) パソコンとプリンターを正しく□□する。		(10) 互いの理由を知るため、向かい合って□□を重ねた。	
(4) 話し合いを重ね、一つの□□に達した。		(11) 二つの案が□□し、なかなか一つに決まらない。	
(5) 努力しても、望む□□が必ず出るとは限らない。		(12) 別の学校との□□を通し、新しい友人ができた。	
(6) 見た事実と考えたことを□□して記録した。		(13) 二本の道が、駅の前で□□している。	
(7) 隣の家に越してきた□□に、町の様子を伝えた。		(14) 姉は、地域の合唱団に□□している。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）文中の「関係」と「関連」は、それぞれどんなつながりに注目していますか。

編集部では、人間関係にも気を配りながら、記事の内容に関連する資料を集めた。

ア　前者は資料と記事、後者は人どうしのつながり。
イ　前者は人どうし、後者は資料と記事のつながり。
ウ　前者も後者も、必ず原因と結果のつながり。
エ　前者も後者も、物が直接ふれ合うつながり。

（2）A・B の「反応」と「対応」の違いを選びなさい。

A　突然の物音に反応して、思わず振り向いた。
B　客からの問い合わせに対応して、案内を送った。

ア　A も B も、相手と同じ行動をしている。
イ　A は状況に合わせた工夫、B は自然に起きた動きである。
ウ　A も B も、刺激を無視して動かなかったことを表す。
エ　A は刺激に起きた動き、B は相手に合わせた行動である。

（3）次の文で「対立」と「対話」が両立しているのはなぜですか。

二人の案は対立していたが、理由を確かめるために対話を続けた。

ア　案が合わなくても、向かい合って言葉を交わせるから。
イ　対話を始める前に、二人は同じ案に決めたから。
ウ　対立している間は、本当は対話とは呼べないから。
エ　話し続けたので、意見の違いは必ずなくなったから。

（4）「共通」と「共同」の使い方に合う説明を選びなさい。

好きな本は共通していないが、二人は共同で本の紹介会を開いた。

ア　好きな本が違うので、二人は別々の会を開いた。
イ　二人は同じ本が好きだが、それを隠している。
ウ　同じ本が好きでなくても、一緒に活動はできる。
エ　一緒に会を開いたので、好きな本も同じになった。

（5）「対応」を使い、起きた状況と、それに合わせた行動を一文にしなさい。（20〜40 字）

（6）「共通」を使い、比べる二つのものと、その同じ点を一文にしなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 長距離走では、友人が選手の横で**バンソウ**した。	
(2) 呼びかけにすぐ**オウトウ**があり、声の主が分かった。	
(3) 展示品に直接**セッショク**しないよう、柵を置いた。	
(4) 提案に**ハンタイ**する理由も、最後まで聞いた。	
(5) 二つの部品を強く**ケツゴウ**し、一つの枠にした。	
(6) 借りる日程について、担当者と**コウショウ**した。	
(7) 色や形などの**ゾクセイ**で、一覧を分けた。	
(8) 地域の歴史に**カンシン**を持つ人が、講座に集まった。	
(9) 小さな成功を**レンゾク**させ、自信をつけた。	
(10) 二つの学校が**ゴウドウ**で発表会を開いた。	
(11) 久しぶりに会った**ユウジン**と、近況を語り合った。	
(12) 同じ目標を目指す**ナカマ**と、意見を交わした。	
(13) 二人は**キョウドウ**で、町の古い写真を整理した。	
(14) その人は、親類の**エンコ**を通じて工房を紹介された。	
(15) 入口の**カカリイン**に、会場までの道を尋ねた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 関係	(17) 別離	(18) 同意	(19) 協力	(20) 隣接

この回を終えたら もう一度確かめる

「意見が対立していたが、対話を続けた」という場面を、自分の言葉で説明してみましょう。違うことと、一緒にできないことが同じかも考えます。

七　文章の中で考えよう

最後の音を置く場所

凛のピアノが終わったあと、陽の声だけが残った。二人は顔を見合わせた。「ここで終わりじゃなかったの。」凛は鍵盤から手を離した。

来週、陽が短い詩を朗読し、凛が伴奏する。去年、図書係を一緒にした縁で組むことになった。放送委員会に所属する陽は、最初の一行を読んだあとに少し間を置く。その間に、凛は暗く沈むような最後の和音を弾いたのだった。

発表で読む短い詩

雨は、まだやまない。
それでも、窓を開けた。
遠くの歌が聞こえた。

前からの友人で、静かな曲が好きだという共通点もある。親しい関係だから、すぐに協力できると思っていた。

「同じ速さで読んでくれたら、合わせられるよ。」
陽は譜面台の紙を見た。「速さのことだけじゃないと思う。」

隣の練習室へ移り、二人は意見を交わした。凛は、雨がやまない場面を最後の音で表したかった。陽は、そのあとにも窓を開ける行動が続くと思っていた。同じ詩の、別々の場所を終わりとして聞いていたのだ。

「その音だと、窓を開ける前に話が閉じたように聞こえる。」凛はもう一度詩を見た。「それでも」が雨の場面と次の行動を結んでいる。三行の脈絡をたどると、一行目の気分だけでは曲を結べなかった。

対話のあとも、一つの結論にはすぐ進まない。表現の接点を探して、陽は「それでも」を早め、凛は和音を遅らせた。今度は声と音が重なりすぎた。仲間に録音を聞いてもらうと、「最後の言葉を、もう少し待って聞きたい」という反応が返ってきた。

次の練習で、凛は陽の息を吸う動きを見た。まだ声が続く。朗読の間への対応を、音を増やすことだけで考えなくなった。陽も最後の声の余韻が消えるまで、顔を上げずに待った。

欠席や予定の変更は、連絡して確かめる。でも、声を待つ長さは予定表だけでは決められない。帰り際、陽が「最後の音、そこなら歌の続きを聞いている感じがする」と言った。凛はうなずき、次の練習でも、その場所を確かめたくなった。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）話などの前後の意味のつながりを表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）朗読に合わせてピアノを弾く意味の「バンソウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「朗読の間への対応」とは、ここでは何をすることですか。

ア　朗読の一行を、ピアノと同じ速さで歌うこと。
イ　声が止まったら、必ず曲全体を終えること。
ウ　相手の読み方に合わせ、音の置き方を工夫すること。
エ　声と音が同時に出ないよう、二人を離すこと。

（4）詩の「それでも」が表す、前後のつながりを選びなさい。

ア　雨がやんだことが、窓を開ける原因になっている。
イ　雨が続く中で、窓を開ける行動が意外なものとして続く。
ウ　窓を開けたために、雨が降り始めたと分かる。
エ　雨の場面と窓を開ける行動には、つながりがない。

（5）陽が、一行目のあとで曲を終えてほしくなかったのはなぜですか。詩の言葉のつながりと、音が作る印象を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）二人は、声とピアノをどのように結び直しましたか。「対話」「共同」を使い、話し合いで分かったことと、練習で変えたことを結び、70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第六回　関係を結ぶ

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　人と一緒に行く、一緒に走る、歌などに合わせて演奏するという関わり方を比べる。

（2）ウ　ふれ合うことや、つながることに関わる。

「接点」は、接する所や考えの共通する点にも使う。

（3）イ　「結」は、むすぶ、まとまることに関わる。出来事の成り行きと、判断をまとめた答えを捉え分ける。

（4）エ　この場合は、変わった状況に合わせて、必要な行動を取ること。

（5）ウ　道がまじわることや、人などが行き来して関わることに着目する。

（6）ア　合唱団という集まりに入っていることを表す。「属する」の「ゾク」を確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）同伴　（2）接近　（3）接続　（4）結論　（5）結果

（6）区別　（7）隣人　（8）協調　（9）反応　（10）対話

（11）対立　（12）交流　（13）交差　（14）所属

（6）「区別」は違いを認めて分けること。（7）「隣人」は隣に住む人などを指す。（8）「協調」は互いに調子を合わせて協力すること。ここでは「協調性」という語になる。（9）「反応」は光に対して材料に起こった変化を表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　この文では、「人間関係」は人どうしの関わり、「関連する資料」は記事と内容上のつながりがある資料を指す。二語の意味は重なり、いつでも別々の対象だけに使うわけではない。

（2）エ　ここでは、A は物音を受けて起きた動き、B は必要に応じて取った行動に焦点がある。「反応」がいつでも無意識、「対応」がいつでも十分に考えた行動と決まるわけではない。

（3）ア　「対立」は立場や意見が合わないこと、「対話」は向かい合って言葉を交わすこと。意見が違うまま、理由を知るために対話することもできる。

（4）ウ　「共通」は同じ点があること、「共同」は一緒に行うこと。この文では、本の好みが同じでなくても、一緒に会を開いている。

五　自分で書く問題

（5）解答例

会場が急に変更されたので、入口に案内係を増やして対応した。

☆自分で確かめる点　起きたことと、それに合わせた具体的な行動がつながっているか。

（6）解答例

二つの町には、川の水を大切に使って暮らすという共通点がある。

☆自分で確かめる点　比べる対象と、その両方にある同じ点が具体的に伝わるか。

六　短文で使ってみよう

（1）伴走　（2）応答　（3）接触　（4）反対　（5）結合

（6）交渉　（7）属性　（8）関心　（9）連続　（10）合同

（11）友人　（12）仲間　（13）共同　（14）縁故　（15）係員

（16）かんけい　（17）べつり　（18）どうい　（19）きょうりょく　（20）りんせつ

（1）は一緒に走る「伴走」。歌や朗読などに合わせて演奏する「伴奏」とは、意味が異なる。（14）の「縁故」は、人や土地とのつながりを表す。

七　文章の中で考えよう

（1）脈絡　三行を別々に読むのではなく、「それでも」が前後をどうつなぐかをたどっている。

（2）伴奏　声に合わせて演奏すること。「伴走」は一緒に走ることで、この場面には合わない。

（3）ウ　相手の間や声の続きに応じ、音の置き方を工夫すること。同じ速さや同時に出すことだけでは決まらない。

（4）イ　雨が続いているのに窓を開ける、というつながり。アは雨がやんだとし、ウは原因と順序を取り違え、エは前後の関係を切ってしまっている。

七　記述問題の考え方

（5）　一行目で終えてほしくない理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

雨の場面で話も閉じたように聞こえ、「それでも」のあとに続く、窓を開けて歌を聞く行動が伝わりにくくなるから。

（5）別解例　54 字

詩では雨がやまなくても次の行動が続くのに、最初の一行で曲が終わると、そのつながりが切れたように聞こえるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 「それでも」のあとにも、窓を開ける行動や歌を聞く場面が続くことを示したか。

② 一行目で曲が終わると、話まで閉じたように聞こえることを示したか。

③ 詩のつながりと、音の終わりが作る印象を結びつけたか。

「陽がもっとゆっくり読みたいから」では、なぜ終わってほしくないかが足りない。二人のずれは、単に速さが違うことだけではない。

（6）　声とピアノを結び直す過程 70〜90 字

（6）解答例　86 字

対話で、詩の終わりを二人が別々に捉えていたと分かった。録音を聞き直し、凛は陽の息を見て音を置き、陽も最後の声の余韻を待つようにし、互いの表現を受けて共同で仕上げようとした。

（6）別解例　84 字

二人は対話で、同じ詩でも終わりの捉え方が違うと知った。声と音をただ同時に出すのでなく、録音を聞き、相手の息や言葉の余韻を待ちながら、共同で作品を仕上げる練習へと変えた。

☆（6）自分で確かめる点

① 「対話」「共同」を使い、二人の終わりの捉え方が違ったことを示したか。

② 録音を聞く、息を見る、声の余韻を待つなどの具体的な練習を示したか。

③ 話し合いで分かった違いと、表現の変え方を結びつけたか。

「話し合って仲良く協力した」だけでは、何が変わったかが分からない。二人の考えがすべて同じになったと書く必要はなく、試しながら結び直していることを捉える。

漢字から文章へ 第一冊

第七回

強さと弱さ

しっかり包んだはずの鳥が、箱の中で動きます。
もっとかたくすれば、うまくいくのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

硬	軟	堅	柔
かたい こわばる	やわらかい	しっかりしている	しなやかに変わる

剛	弱	耐	崩
強くたくましい	力が足りない	こらえる	形がくずれる

いっしょに覚える漢字

強	力	勢	激	緩	厳
固	粗	細	厚	薄	傾

この回で読むお話

鳥を運ぶ箱

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
硬	コウ かたい	かたい／こわばる 硬化・硬直・硬質	剛	ゴウ	強く、たくましい 剛健・剛直・金剛
軟	ナン やわらかい	やわらかい 軟化・軟弱・柔軟	弱	ジャク よわい	力が足りない 弱点・弱気・薄弱
堅	ケン かたい	しっかりしている 堅実・堅固・堅持	耐	タイ たえる	こらえる／持ちこたえる 忍耐・耐久・耐える
柔	ジュウ ニュウ やわらかい	やわらかい／しなやか 柔軟・柔和・柔道	崩	ホウ くずれる	形や状態がくずれる 崩壊・崩落・崩れる

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
強	キョウ つよい	つよい／力がある 強力・強調・強制	固	コ かたい	かたい／動かない 固定・固有・固体
力	リョク ちから	はたらき／ちから 努力・能力・勢力	粗	ソ あらい	あらい／こまかくない 粗雑・粗大・粗い
勢	セイ いきおい	いきおい／物事の様子 勢力・情勢・勢い	細	サイ ほそい	ほそい／こまかい 細部・細心・詳細
激	ゲキ はげしい	はげしい／強く動かす 激変・激励・刺激	厚	コウ あつい	あつい／手あつい 厚紙・厚意・重厚
緩	カン ゆるい	ゆるい／やわらぐ 緩和・緩急・緩む	薄	ハク うすい	うすい／少ない 薄紙・薄弱・希薄
厳	ゲン きびしい	きびしい／おごそか 厳格・厳重・厳しい	傾	ケイ かたむく	かたむく／一方へ寄る 傾斜・傾向・傾く

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「硬化・硬直」の「硬」に関わる意味はどれですか。
ア　しなやかに動く　　イ　かたくなる、こわばる
ウ　細かく分ける　　エ　厚さがなくなる

(2)「堅実な計画」とは、どんな計画ですか。
ア　必ず一番になる計画　　イ　何も変えない計画
ウ　思いつきだけの計画　　エ　無理を避けた確かな計画

(3)「柔軟な考え方」の説明として適切なものはどれですか。
ア　状況に応じて見方を変える　　イ　相手の意見を必ず断る
ウ　自分の考えを全く持たない　　エ　どんな約束も忘れる

(4)「剛健な体」と「弱点」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、細かい形を指す　　イ　前者は弱さ、後者は強さ
ウ　前者はたくましさ、後者は弱い所　　エ　どちらも、変化の速さを指す

(5)「耐久性」の「耐」が表す働きはどれですか。
ア　遠くへ運ぶ　　イ　長く使うことにたえる
ウ　表面を細かくする　　エ　急に力を強める

(6)「崩壊」と「崩落」に共通する意味はどれですか。
ア　形を整える　　イ　上へ持ち上げる
ウ　しっかり結ぶ　　エ　形がくずれる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　傾斜　勢力　硬化　忍耐　細部　緩和　剛健
粗大　軟化　厳格　崩壊　弱点　堅実　激変

文	解答	文	解答
(1) 乾くにつれ、粘土が□□してかたくなった。		(8) 積んだ空き箱の山が□□し、床に散らばった。	
(2) 話を聞き、相手の態度が少しずつ□□した。		(9) 市の案内で、机などの□□ごみの出し方を調べた。	
(3) 無理に借金を増やさず、□□な経営を続けた。		(10) 二つの集団の□□が、ほぼ同じになった。	
(4) 屋根に□□があり、雨水が流れ落ちる。		(11) 町の景色が短期間で□□し、道に迷った。	
(5) 物語の武将は、□□な体の持ち主だった。		(12) 話し合いが進み、対立の厳しさが□□した。	
(6) 自分の苦手な所を、次に補うべき□□とした。		(13) 競技では、全員に□□な規則が適用された。	
(7) 長い待ち時間には、□□が必要だった。		(14) 図の大枠だけでなく、小さな□□まで見直した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）A・B の「かたい」の表し方として適切なものを選びなさい。

A　この石は、金づちでも簡単には割れない。
B　このチームは守りがしっかりしていて、点を取られにくい。

ア　A は硬い、B は堅い。
イ　A は堅い、B は硬い。
ウ　どちらも、厚いと書く。
エ　どちらも、細いと書く。

（2）「柔軟」と「軟弱」は、この文で何を表していますか。

この土地の地盤は軟弱なので、計画を柔軟に見直す必要がある。

ア　どちらも、計画が頼りないこと。
イ　柔軟は地盤、軟弱は計画の強さ。
ウ　柔軟は見直すしなやかさ、軟弱は地盤の弱さ。
エ　どちらも、全く変えないこと。

（3）A・B の行為に合う語の組合せを選びなさい。

A　参加は自由だが、約束の大切さを繰り返し伝えた。
B　断っている人にも、必ず参加するよう無理に命じた。

ア　A＝強制／B＝強調　　イ　A＝強調／B＝強制
ウ　A＝強制／B＝強制　　エ　A＝強調／B＝強調

（4）「緩和」と「緩慢」の使い方に合う説明を選びなさい。

混雑は緩和したが、窓口の作業はまだ緩慢だった。

ア　混雑も作業も、前より激しくなった。
イ　混雑は残り、作業だけが速くなった。
ウ　混雑も作業も、すべてなくなった。
エ　混雑はやわらいだが、作業はのろかった。

（5）「柔軟」を使い、状況に応じて何を変えたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「強調」を使い、大切な点をどう目立たせたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 緊張で体が**コウチョク**し、足が動かなかった。	
(2) 小説の主人公は、曲がったことを嫌う**ゴウチョク**な人物だ。	
(3) 雨上がりの**ナンジャク**な地盤を、専門家が調べた。	
(4) 一度の失敗で**ヨワキ**になり、声が小さくなった。	
(5) 石で組まれた門は、見た目にも**ケンゴ**だった。	
(6) 繰り返し使ったときの**タイキュウ**性を調べた。	
(7) 祖母は**ニュウワ**な表情で、二人の話を聞いた。	
(8) 物語では、崖の**ホウラク**で道がふさがれた。	
(9) 工作では、小さくても**キョウリョク**な磁石を使った。	
(10) 毎日の**ドリョク**を、短い日記に記録した。	
(11) 複数の新聞を読み、世界の**ジョウセイ**を調べた。	
(12) 工作では、光を通す白い**ウスガミ**を窓の飾りに使った。	
(13) 助けようとしてくれた相手の**コウイ**に感謝した。	
(14) 朗読では、声の強弱や速さの**カンキュウ**を工夫した。	
(15) 入場券は、紛失しないよう**ゲンジュウ**に管理した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 薄弱	(17) 固体	(18) 粗雑	(19) 傾向	(20) 刺激

この回を終えたら もう一度確かめる

「強い」と言うとき、何に耐え、何を守る強さなのかも説明してみましょう。

七　文章の中で考えよう

鳥を運ぶ箱

　健の袖には、乾いた粘土が白く残っていた。展示会へ運ぶ鳥を、さっきまで直していたのだ。紙粘土の鳥は手のひらに乗るほど小さい。細い翼の先と、羽の粗い模様だけは、何度も作り直した。普段は剛健な人物ばかり描く健の、初めての鳥だった。

　紬が薄い紙を丸め始めると、健は硬い板の箱を持ってきた。
「外から力を受けても、これなら堅固だろう。」

　空いた所をそのままにして持ち上げると、鳥が片側へ傾いた。箱の形は崩れないのに、中は動く。慌てて置いた健は、つい翼を指で支えた。

　今度は厚紙を折り、周りへ押し込んだ。これで固定できると思ったが、紙の角が翼の先に当たった。「動かさないだけでは、守ったことにならないね。」紬はその角を外した。

　柔らかく丸めた紙を、底と横から胴に沿わせる。翼には触れないようにする。ひもも締めすぎず、詰め物がずれない所で結んだ。二人で静かに箱を持ち替えると、鳥は片側へ寄らなかった。

　健が紙を増やそうとすると、紬が止めた。「もっと詰めると、また翼に当たるよ。」柔軟な紙でも、詰め方によっては弱点を作る。細部を確かめ、一か所だけ緩めた。外側は形を保ち、内側は鳥の形に合わせて支える。

　先生は運ぶ約束を厳しく確認した。勢いよく持ち上げず、激しく揺すらず、段差の前では止まること。箱を工夫しても、どんな扱いにも耐えるわけではない。健は、早く見せたい気持ちを抑えて廊下を歩いた。

　展示台へ置くと、照明の下で翼の影が伸びた。
「箱は少し弱くなったのかな。」
紬はほどいたひもを見た。「ひもは緩くした。でも、鳥は前より動かなかったよ。」

　健は、空の箱ではなく鳥の翼を見た。箱の強さばかり考えていたときには、そこを十分に見ていなかった。紬が丸めた紙を広げかけたので、「帰りにも使おう」と言った。ひもと紙を入れた箱は、鳥の隣で待つことになった。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）決まった位置から動かないようにすることを表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本文で最初に詰めた「アツガミ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「柔軟な紙」の「柔軟」は、ここでは何を表していますか。

ア　紙を何枚も重ねて厚くすること。
イ　力を加えても形が変わらないこと。
ウ　鳥の形に合わせて変形するやわらかさ。
エ　どんな詰め方でも鳥を傷つけない性質。

（4）二人の工夫について、本文から分かることを選びなさい。

ア　箱が硬ければ、中の鳥も動かなくなる。
イ　外側と内側には、違う働きを持たせた。
ウ　柔らかな紙なら、どこに詰めてもよい。
エ　ひもを緩めたので、鳥は壊れてしまった。

（5）紬が「動かさないだけでは、守ったことにならない」と言ったのはなぜですか。鳥と詰め物の様子を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）最後に健が箱ではなく鳥の翼を見たことには、どんな意味があると考えられますか。「強さ」「弱点」を使い、箱作りの変化を踏まえて 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第七回　強さと弱さ

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　「硬化」はかたくなること。
「硬直」は、体や考えなどがこわばり、柔軟に動かなくなること。

（2）エ　「堅実」は、手堅く確かであること。
確かに進めることと、大きな成功が保証されることは違う。

（3）ア　しなやかさが、物の性質から考え方にも広がっている。
判断せず何でも受け入れることではない。

（4）ウ　「剛健」は強くたくましいこと。「弱点」は、弱いところや不十分な点をいう。

（5）イ　繰り返し使うことや、時間の経過などに持ちこたえることに関わる。

（6）エ　「崩壊」は形や仕組みがくずれること。「崩落」は、くずれて落ちることに焦点がある。

四　熟語を広げよう

（1）硬化　（2）軟化　（3）堅実　（4）傾斜　（5）剛健
（6）弱点　（7）忍耐　（8）崩壊　（9）粗大　（10）勢力
（11）激変　（12）緩和　（13）厳格　（14）細部

（2）は態度がやわらぐ「軟化」。（4）「傾斜」は斜めに傾いていること。（9）「粗大」は粗く大きいこと。（12）「緩和」は厳しさがやわらぐことを表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　この文では、石の性質には「硬い」、確かな守りには「堅い」が合う。「堅い材木」のような用例もあり、物と考えという区分だけですべて決めることはできない。

（2）ウ　「柔軟」は、状況に合わせて変えられるしなやかさ。「軟弱」は、弱くしっかりしていないこと。この文では、それぞれ異なる対象に使っている。

（3）イ　A は大切さを目立たせる「強調」、B は相手の意思にかかわらず従わせる「強制」。強く伝えることがすべて強制になるわけではない。

（4）エ　「緩和」は厳しさなどがやわらぐこと。「緩慢」は動きなどがのろいこと。どちらも「緩」を使うが、表している内容は同じではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

急に雨が降ったので、遊ぶ場所を柔軟に変えて室内で楽しんだ。

☆自分で確かめる点　起きた状況と、変えた行動や考えがつながっているか。

（6）解答例

集合時刻を見落とさないよう、案内の数字を太字にして強調した。

☆自分で確かめる点　大切に伝えたい点と、目立たせた方法が具体的に分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）硬直　（2）剛直　（3）軟弱　（4）弱気　（5）堅固
（6）耐久　（7）柔和　（8）崩落　（9）強力　（10）努力
（11）情勢　（12）薄紙　（13）厚意　（14）緩急　（15）厳重
（16）はくじゃく　（17）こたい　（18）そざつ　（19）けいこう　（20）しげき

（12）は薄い紙を表す「薄紙」。（13）の「厚意」は、思いやりのある気持ち。「行為」は行いの意味で、この文には合わない。

七　文章の中で考えよう

（1）固定　健は、鳥を決まった位置から動かないようにしようとした。ただし、その方法が翼を守れるかは別に確かめる必要があった。

（2）厚紙　厚みのある紙。この場面では、その角が細い翼に当たっている。

（3）ウ　紙が鳥の形に合わせて変形できるやわらかさ。詰めすぎれば翼に当たるため、柔軟という性質だけで守れるとは決まらない。

（4）イ　外側の箱は形を保ち、内側の紙は鳥の形に合わせて胴を支える。紙の量や場所にも条件があり、扱い方の注意も残っている。

七　記述問題の考え方

（5）　動かさないだけでは足りない理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

鳥を動かさないために厚紙を強く詰めても、その角が細い翼に当たり、守りたい鳥を傷つけるおそれがあるから。

（5）別解例　51 字

箱の中で鳥の動きを止めようとして押し込んだ厚紙が、鳥の翼に当たり、かえって壊れやすい所を圧迫するから。

☆（5）自分で確かめる点

① 動きを止めるために、厚紙を詰めたことを示したか。

② その紙の角が、細い翼に当たったことを示したか。

③ 動かないことと、鳥が守られることを区別したか。

本文では鳥は壊れていない。「壊したから」と断定せず、翼に角が当たる危うさを説明する。

（6）　翼に向けた視線の意味 70〜90 字

（6）解答例　86 字

健は、箱やひもを硬く強くすることより、鳥の弱点である細い翼を守ることに目を向けた。外側で形を保ち、内側は鳥に合わせて支えるという、運ぶ目的に応じた強さを考えるようになった。

（6）別解例　87 字

最初は硬い箱と強い固定を求めたが、最後は鳥の翼という弱点が守られるかを確かめた。部分ごとに役割を変え、必要な所を緩めることも、鳥を無事に運ぶ強さになると気づいたと考えられる。

☆（6）自分で確かめる点

①「強さ」「弱点」を使い、視線が鳥の翼へ向いたことを説明したか。

② 最初の考えと、最後の確かめ方の違いを示したか。

③ 外側と内側の役割、または緩める工夫を根拠にしたか。

「柔らかいほうが常に強い」という結論にはしない。見方の変化は、何を運び、どこを守るのかという目的と結びつける。

漢字から文章へ 第一冊

第八回

水と流れ

ろ紙を通すと、水の濁りが減りました。
それで、何もない水に戻ったのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

流	漂	沸	漏
ながれる	ただよう	わき立つ	外へもれる

濁	潤	滴	泌
にごる	うるおう	小さなしずく	液がしみ出る

いっしょに覚える漢字

水	河	海	波	湖	泉
湯	油	液	溶	洗	清

この回で読むお話

透明になったあとで

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
流	リュウ ながれる	ながれる／広まる 流水・流行・流動	濁	ダク にごる	にごる／すっきりしない 濁流・濁音・混濁
漂	ヒョウ ただよう	ただよう／流される 漂流・漂着・漂う	潤	ジュン うるおう	水分などで満たされる 潤滑・潤色・潤う
沸	フツ わく	液体がわき立つ 沸騰・沸点・沸く	滴	テキ しずく	しずく／少しずつ落ちる 水滴・滴下・滴る
漏	ロウ もれる	すきまからもれる 漏水・漏電・漏出	泌	ヒツ ヒ	液体がしみ出る 分泌・泌尿器

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
水	スイ みず	みず 水面・水分・水流	湯	トウ ゆ	温めた水 熱湯・湯気・湯船
河	カ かわ	かわ／大きな川 河川・河口・運河	油	ユ あぶら	あぶら 石油・油絵・油断
海	カイ うみ	うみ 海辺・海岸・海洋	液	エキ	流れる性質のあるもの 液体・溶液・血液
波	ハ なみ	なみ／広がる動き 波音・波長・余波	溶	ヨウ とける	とけて、まじる 溶解・溶液・溶ける
湖	コ みずうみ	みずうみ 湖畔・湖面・湖水	洗	セン あらう	あらう／よごれを落とす 洗浄・洗面・洗う
泉	セン いずみ	わき出る水 温泉・源泉・泉水	清	セイ きよい	すんでいる／きれい 清流・清潔・清らか

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「流水」と「流行」の「流」に関わる意味はどれですか。
ア　かたく止まる　　イ　深く沈める
ウ　ながれる、広まる　　エ　細かく切る

(2)「漂流」から「漂着」へ変わると、何が加わりますか。
ア　岸などに着くこと　　イ　水を熱すること
ウ　水が透明になること　　エ　もとの場所に戻ること

(3)「沸騰」と「沸点」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、水がもれること　　イ　前者は温度、後者は動き
ウ　どちらも、水滴の大きさ　　エ　前者はわくこと、後者はその温度

(4)「漏水」と「漏電」の「漏」が表すことはどれですか。
ア　中へ集める　　イ　本来の通り道などからもれる
ウ　高く積み上げる　　エ　色を白くする

(5)「潤滑」の意味として適切なものはどれですか。
ア　水を外へもらす　　イ　ものを白くにごらせる
ウ　すべりをよくし、動きをなめらかにする　　エ　水をすべて蒸発させる

(6)「水滴」と「分泌」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、水を熱すること　　イ　前者は濁り、後者は透明さ
ウ　前者は大波、後者は海岸　　エ　前者はしずく、後者は体内などへ液を出すこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　海岸　潤滑　沸点　混濁　流行　漏水　清流
分泌　流水　水滴　漂流　漏電　濁流　沸騰

文	解答	文	解答
(1) 水路では、止まらず続く□□の音が聞こえた。		(8) 劇中の工場では、□□を調べて送電を止めた。	
(2) その歌が町で□□し、あちこちで歌われた。		(9) 大雨のあと、川には泥を含む□□が見えた。	
(3) 小舟は沖で何日も□□し続けた。		(10) 透明だった液体が白く□□した。	
(4) 打ち寄せる波を眺めながら、□□に沿って歩いた。		(11) 歯車のすべりをよくする□□用の油をさした。	
(5) 熱した液体が□□し、泡が立ち続けた。		(12) 冷たいコップの外側に細かな□□がついた。	
(6) 液体の種類と条件をそろえ、□□を比べた。		(13) 図には、汗をつくり出す□□の仕組みが描かれた。	
(7) 水道管の破損で□□し、床がぬれた。		(14) 山道から、底まで澄んだ□□を眺めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）A・B の「流行」と「流動」が表すことを選びなさい。

A　短い動画の中で、新しい言い方が流行した。
B　担当者は固定せず、必要に応じて部署の間を流動した。

ア　A は広まること、B は移り動くこと。
イ　A は移り動くこと、B は広まること。
ウ　どちらも、一人がずっと動かないこと。
エ　どちらも、水が透明になること。

（2）次の文に合う説明を選びなさい。

海上を漂流していた箱が、翌朝、島に漂着した。

ア　箱は、島から海へ流れ出した。
イ　箱は、海上で沈んで見えなくなった。
ウ　箱は、流されたあと島に着いた。
エ　箱は、最初から島に置かれていた。

（3）「濁る」と「汚れる」の使い方に合う説明を選びなさい。

水は透明さを失って濁り、作業着には泥がついて汚れた。

ア　水も服も、必ず同じ物質でできている。
イ　前者は透明さ、後者は服についたよごれに注目している。
ウ　前者はよごれ、後者は水の流れる速さだけを指す。
エ　濁ったものには、よごれが含まれることはない。

（4）A・B の「潤う」が表すこととして適切なものを選びなさい。

A　雨で、乾いていた畑が潤った。
B　来客が増え、町の商店の収入も増して潤った。

ア　A も B も、何かが外へ漏れた。
イ　A も B も、透明さを失った。
ウ　A は利益、B は水分で満たされた。
エ　A は水分、B は利益で満たされた。

（5）「漂着」を使い、何がどこへ流れ着いたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「潤う」を使い、何によって満たされたかが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 地域の間で、人口が**リュウドウ**している様子を調べた。	
(2) 「が」は、濁点をつけて表す**ダクオン**の一つだ。	
(3) 白い布の**ヒョウハク**前後の色を、写真で比べた。	
(4) 実話に大げさな話を足して**ジュンショク**した。	
(5) 係の人は、液を一滴ずつ**テキカ**して量を調節した。	
(6) 物語では、容器から液体が**ロウシュツ**した。	
(7) 風がやみ、湖の**スイメン**に山が映った。	
(8) 地図を見ながら、町を通る**カセン**をたどった。	
(9) 実験では、二種類の**エキタイ**を別々の容器に入れた。	
(10) 水に入れた食塩が**ヨウカイ**する様子を見た。	
(11) 朝の**コハン**を歩き、鳥の声を聞いた。	
(12) 旅館の案内で、近くの**オンセン**を調べた。	
(13) 朝、**センメン**を済ませて、鏡の前で髪を整えた。	
(14) やかんに入っているのは、沸かしたばかりの**ネットウ**だ。	
(15) エネルギーの資料で、**セキユ**の利用を調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 海辺	(17) 波長	(18) 湯気	(19) 洗浄	(20) 分泌

この回を終えたら もう一度確かめる

水の様子を表す言葉を使い、見たことと、そこから考えたことを分けて説明してみましょう。

七　文章の中で考えよう

透明になったあとで

科学館の「一滴の旅」で、瑛は写真を選んでいた。泉から始まる流れが河川や湖を通り、海へつながる。波を漂う木片や、川岸に漂着した枝も写っている。新聞の記事には、いちばん澄んだ水を載せたい。ノートに写真の番号を書いた。

隣の台で、係の人が三つの容器を見せていた。同じ水を取り分け、A には何も加えず、B には食塩、C には少量の土を加えた。B は粒が見えなくなるまで混ぜてある。それぞれを同じ種類のろ紙に通し、下の容器に液体を集めた。

展示での観察記録

記号	水に加えたもの	通す前	通した後
A	何も加えない	透明	透明
B	食塩を溶かす	透明	透明
C	少量の土を混ぜる	濁る	濁りが減る

「濁りが減ったら、何もない水に戻るのかな。」

係の人は B を指した。B は、通す前から透明だった。通した後の液を小皿に取り分けて熱すと、沸騰した液から水分が減っていく。瑛は皿を見つめた。やがて、白い食塩の粒が残った。

C の濁りが減ったのは見えた。でも、B では見えなくなった食塩が残っていた。見える濁りを減らすことと、溶けたものを取り除くことは、同じではないらしい。瑛は、表の「透明」の下に短い線を引いた。

奥には汗の分泌や、乾いた土が水で潤う展示もあった。暮らしの水をたどる図には、使った湯、皿を洗った水、油の混じった水が別々に描かれている。漏れた水の受け皿には、小さな水滴が残っていた。瑛が追いつくのを待っていた母は、順路の矢印を見ていた。

瑛は写真の横に「きれいな水」と書きかけて止まった。「透明な水」なら見た様子を表せる。「清らかな流れ」には、眺めた自分の気持ちも入る。けれど、この写真だけで、何が含まれるかまでは決められない。

帰る前に、最初の写真へ戻った。川の上流には何があるのだろう。途中で、どんな水が加わったのだろう。写真の番号はそのままにして、説明を書く場所を少し広く空けた。一滴がここへ来るまでの流れを、前より長く想像していた。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と観察記録を根拠にして答えなさい。

（1）物に含まれる水を表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）波が立つときに聞こえる「ナミオト」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「水滴」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　水の小さなしずく。
イ　海へ向かう大きな流れ。
ウ　液体が激しくわくこと。
エ　土の混じった水の色。

（4）観察記録と本文の両方から分かることを選びなさい。

ア　透明な液体には、何も溶けていない。
イ　C の土も B の食塩も、すべて取り除けた。
ウ　ろ紙に通した液体は、必ず同じ成分になる。
エ　透明な B にも、ろ紙を通った後に食塩が残っていた。

（5）瑛が、濁りが減っても「何もない水に戻る」とは言えないと考えたのはなぜですか。B の結果を根拠に、45〜55 字で説明しなさい。

（6）瑛が写真に添える説明を考えなさい。「濁り」「溶ける」を使い、展示の結果と、写真だけでは言い切れないことを結んで 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第八回　水と流れ

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　水の流れだけでなく、言葉や服装などが広まることにも使う。

（2）ア　「漂流」は流されること、「漂着」は流されたものが岸などに着くこと。漂着先が出発地とは限らない。

（3）エ　「沸騰」は液体がさかんにわくこと。「沸点」は沸騰する温度で、条件によって変わる。

（4）イ　「漏水」は水がもれること。「漏電」は電気が本来の回路以外へ流れること。もれる対象を確かめる。

（5）ウ　「潤滑」は、すべりや動きをなめらかにすること。比喩的に、人間関係などにも使われる。

（6）エ　「滴」は小さなしずく。「分泌」は、生物が必要な液などをつくり、
体内や体外へ出すことをいう。

四　熟語を広げよう

（1）流水　（2）流行　（3）漂流　（4）海岸　（5）沸騰
（6）沸点　（7）漏水　（8）漏電　（9）濁流　（10）混濁
（11）潤滑　（12）水滴　（13）分泌　（14）清流

（3）は流されている「漂流」、（4）は海と陸が接する所を表す「海岸」。（13）の「分泌」は、液体が外から漏れることとは区別する。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　A はある言い方が広くはやること、B は人員が固定されず動くことを表す。「流」の意味が、異なる場面へ広がっている。

（2）ウ　流される途中と、流された先に着くことを、二つの語で捉えている。「漂着」は漂流した先の到着を表し、出発地へ戻る意味は含まない。

（3）イ　この文では、水の透明さと、服に泥がついたことを捉え分ける。濁りが汚れと関わる場合もあるが、二語はどの文でも同じように置き換えられるわけではない。

（4）エ　「潤う」は水分だけでなく、利益などで豊かになることにも使う。「湿る」は水気を帯びる意味で、この B の代わりにはならない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

遠くの海から流れてきた木箱が、朝の砂浜に漂着していた。

☆自分で確かめる点　流されてきた物と、たどり着いた場所が分かるか。

（6）解答例

久しぶりの雨で乾いた庭が潤い、土の色が少し濃くなった。

☆自分で確かめる点　水分や利益など、何によって満たされたかが伝わるか。

六　短文で使ってみよう

（1）流動　（2）濁音　（3）漂白　（4）潤色　（5）滴下
（6）漏出　（7）水面　（8）河川　（9）液体　（10）溶解
（11）湖畔　（12）温泉　（13）洗面　（14）熱湯　（15）石油
（16）うみべ　（17）はちょう　（18）ゆげ　（19）せんじょう　（20）ぶんぴつ／ぶんぴ

（10）は物質が水などにとける「溶解」。
（20）の「分泌」は「ぶんぴつ」「ぶんぴ」の両方を認める。

七　文章の中で考えよう

（1）水分　Bの液を熱し、その中の水が減っていく場面。
「水分が減っていく」の「水分」を抜き出す。
（2）波音　波が立ったり、岸に寄せたりするときの音。「波長」は読みの課題で確かめる別の熟語。
（3）ア　受け皿に残った、小さな水のしずくを指す。
（4）エ　表ではBは前後とも透明。さらに、通した後の液を熱すると食塩が残った。透明さだけでは、溶けているものの有無は決まらない。

七　記述問題の考え方

（5）　見えなくても残っていたもの 45〜55 字

（5）解答例　49 字

ろ紙に通した後も透明なBを熱すると食塩が残り、濁りがなくても、水に溶けたものは残ると分かったから。

（5）別解例　53 字

Bはろ紙を通す前後とも透明なのに、後の液を熱すと食塩が現れ、見た目だけでは含まれるものを決められないから。

☆（5）自分で確かめる点

① Bがろ紙に通した後も透明だったことを示したか。
② その液を熱すると食塩が残ったことを根拠にしたか。
③ 透明さと、含まれる物質の有無を区別したか。

表の「透明」だけでは、食塩が残ったことまで確かめられない。本文の加熱後の結果と結びつける。

（6）　写真に添える説明 70〜90 字

（6）解答例　84 字

展示では濁りが減っても、食塩が溶けると透明なまま残ることが分かった。この写真も、水の澄んだ様子は伝えるが、含まれるものまでは分からず、どこを通って来た水かも確かめたい。

（6）別解例　84 字

ろ紙で見える濁りを減らせても、食塩のように水に溶けるものは残る場合がある。写真の水が透明だからといって、何も含まれないとは言えず、流れてきた経路などを調べる必要がある。

☆（6）自分で確かめる点

①「濁り」「溶ける」を使い、見える濁りと溶けた物質を分けたか。
② 展示の結果を、写真の読み取りの限界と結びつけたか。
③ 写真に写らないことを、根拠なく断定していないか。

透明な水を危険な水と決めつける必要もない。
「写真だけで何が言え、何がまだ分からないか」を説明する。

漢字から文章へ 第一冊

第九回

残す 失う

話の合間にある、十二秒の空白。
短く整えようとした私は、そこで手を止めました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

失	亡	滅	没
うしなう	命がなくなる	消えてなくなる	しずむ 深く入る

忘	保	存	捨
記憶からはなれる	守り、たもつ	ある 残っている	選ばず手放す

いっしょに覚える漢字

留	消	離	喪	廃	命
死	生	老	久	永	末

この回で読むお話

十二秒の空白

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
失	シツ うしなう	なくす／うまくいかない 失敗・失望・喪失	忘	ボウ わすれる	記憶にとどめなくなる 忘却・忘年・忘れる
亡	ボウ モウ ない	なくなる／命がなくなる 死亡・亡命・亡者	保	ホ たもつ	守る／そのままたもつ 保存・保護・保留
滅	メツ ほろびる	ほろびる／消えてなくなる 滅亡・消滅・壊滅	存	ソン ゾン	ある／残っている 存在・存続・保存
没	ボツ	しずむ／深く入りこむ 沈没・没頭・没落	捨	シャ すてる	手放す／取り上げない 取捨・捨象・捨てる

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
留	リュウ とめる	とどまる／とどめる 保留・留守・留学	死	シ しぬ	いのちがなくなる 死亡・死角・生死
消	ショウ きえる	きえる／なくす 消失・消去・消滅	生	セイ いきる	いきる／うまれる 生活・生命・再生
離	リ はなれる	はなれる／分ける 分離・距離・離別	老	ロウ おいる	年をとる／古くなる 老人・老化・老朽
喪	ソウ も	うしなう／死をいたむ 喪失・喪中・喪服	久	キュウ ひさしい	長く続く 持久・永久・久しぶり
廃	ハイ すたれる	やめる／使われなくなる 廃止・廃棄・荒廃	永	エイ ながい	長く続く／いつまでも 永遠・永久・永続
命	メイ いのち	いのち／いいつけ 生命・寿命・命令	末	マツ すえ	おわり／先の部分 末尾・結末・年末

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

（1）「失敗」と「失望」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は成り行き、後者は時刻　　イ　どちらも、必ず物をなくすこと
ウ　どちらも、国を離れること　　エ　前者はうまくいかないこと、後者は落胆

（2）「滅亡」と「消滅」の「滅」に関わる意味はどれですか。
ア　高く積み重なる　　イ　ほろびる、なくなる
ウ　しっかり保つ　　エ　よく思い出す

（3）「没頭」の「没」は、どんな意味へ広がっていますか。
ア　深く入りこむ　　イ　高く飛び上がる
ウ　原本を写す　　エ　意見を分ける

（4）「保存」と「存続」に共通する意味はどれですか。
ア　相手を遠ざける　　イ　すべてを忘れる
ウ　なくならず残る　　エ　すぐに使い切る

（5）「資料を取捨する」とは、何をすることですか。
ア　すべての資料を写す　　イ　取り上げるものと外すものを選ぶ
ウ　資料を順に読み上げる　　エ　何も選ばず全部残す

（6）「忘却」と「喪失」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、国がなくなること　　イ　前者は保存、後者は再生
ウ　どちらも、全く同じ使い方　　エ　前者は忘れること、後者は何かを失うこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　没頭　存続　失望　喪失　永久　沈没　取捨
存在　滅亡　離別　消失　亡命　失敗　忘却

文	解答	文	解答
（1）初めの計画は□□したが、 方法を変えて続けた。		（8）進学を機に故郷を離れ、 家族との□□を惜しんだ。	
（2）期待が大きかった分、 結果を知って深く□□した。		（9）地図には、今も□□する 古い道を記した。	
（3）物語の人物は迫害を逃れ、 他国へ□□した。		（10）利用者が協力し、 小さな店の□□を支えた。	
（4）小説では、その王国は 長い争いの末に□□した。		（11）展示の目的に合わせ、 写真を□□した。	
（5）模型の船は、水が入り ついに□□した。		（12）この時を□□に残したいと、 家族そろって写真を撮った。	
（6）弟は読書に□□し、 呼びかけにも気づかなかった。		（13）画面に残っていた色が 薄れ、やがて□□した。	
（7）時がたち、その約束は 人々から□□された。		（14）親友との別れに、 深い□□感を覚えた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）次の文の「失敗」と「失望」を説明したものを選びなさい。

実験は失敗したが、次に試すことが見えたので、私は失望しなかった。

ア　実験はうまくいかなかったが、落胆はしなかった。
イ　実験は成功したが、深く落胆した。
ウ　失望しなかったので、実験も成功した。
エ　失敗したので、次に試すことはなくなった。

（2）「保存」と「保留」の違いとして、この文に合うものを選びなさい。

手紙は箱に保存したが、展示するかの判断は保留した。

ア　手紙も判断も、すべて捨てた。
イ　手紙は捨て、展示はすぐ決めた。
ウ　手紙は残し、展示の判断は先へ延ばした。
エ　展示を決めたので、手紙も書き直した。

（3）「喪失」と「忘却」を、この文ではどう捉え分けていますか。

友人と離れた喪失感は残り、その人を忘却したわけではなかった。

ア　相手を忘れたので、寂しさもなくなった。
イ　離れた寂しさがあっても、相手の記憶は残った。
ウ　記憶が残るなら、喪失感は生じない。
エ　どちらも、物が壊れたことだけを表す。

（4）「消失」と「消滅」について、適切な説明を選びなさい。

写真の画像が消失した。／町からその慣習が消滅した。

ア　消失は写真だけ、消滅は生物だけに使う。
イ　消失した画像は、必ず後から見つかる。
ウ　消滅した慣習は、必ず同じ形で戻る。
エ　どちらもなくなることを表し、対象や文脈も確かめる。

（5）「保留」を使い、何の判断をなぜ先へ延ばしたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「保存」を使い、何をどう残したか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 一年の苦労をねぎらう**ボウネン**会が開かれた。	
(2) 物語の年表には、王の誕生と**シボウ**の年が記された。	
(3) 古い壁画を**ホゴ**するため、覆いを設けた。	
(4) 小説では、古い慣習が町から**ショウメツ**した。	
(5) 一つの情報に**イゾン**せず、別の記録も確かめた。	
(6) 物語では、栄えた家が争いを機に**ボツラク**した。	
(7) 細部をいったん**シャショウ**し、全体の形を考えた。	
(8) 配達が来るので、午後は家を**ルス**にしなかった。	
(9) 柱の陰が**シカク**となり、入口が見えなかった。	
(10) 不要な図形を選び、画面から**ショウキョ**した。	
(11) 祖父を亡くした年、母は**モチュウ**の知らせを書いた。	
(12) 長く走り続ける競技では、**ジキュウ**力も問われる。	
(13) 架空の町では、古い制度が**ハイシ**された。	
(14) 時計の電池が**ジュミョウ**を迎え、交換することにした。	
(15) その土地の**セイカツ**の様子を、写真で記録した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 生命	(17) 老化	(18) 永遠	(19) 生死	(20) 分離

この回を終えたら もう一度確かめる

残す対象と、残す方法を分けて考えてみましょう。今すぐの判断を保留することもできます。

七　文章の中で考えよう

十二秒の空白

話の進まない十二秒を消そうとしたとき、母が足を止めた。

週末、私は祖父の声の録音を整理していた。祖父が亡くなって五年になる。古い端末の音を、家族が聞けるように保存し直すのだ。ファイル名は「旅人の話」。物語だけを抜き出せば、探しやすくなると思った。

旅人が、滅びた国を離れて歩く話だった。命を助けた小鳥に、今度は助けられる。編集に没頭し、読み間違いや、同じ文を繰り返した所を外した。末尾まで再生すると、ずいぶん聞きやすい。

途中には、話が進まない十二秒があった。小さな物音と祖父の息だけが聞こえる。「空白」と名を付け、そこも外そうとしたのだった。
「今の所、もう一度。」
母が言った。

音を大きくすると、かちゃりと何かが置かれ、遠くで子どもが笑った。祖父が「熱いから、まだ待てよ」と言う。

「その湯飲み、覚えてる。」母は、祖父が茶を運ぶとき、いつも受け皿を鳴らしたことを話した。笑っていたのは、幼い私だったらしい。本を読んでもらったことしか覚えていなかった私は、もう一度音を戻した。

録音した家は老朽化し、今はもうない。取り壊したとき、割れた湯飲みも廃棄した。それなのに、外そうとした物音から、母の知っている部屋が戻ってきた。久しぶりに思い出した低い窓の向こうには、いつも洗濯物が揺れていた。

祖父の死による喪失が、録音で消えるわけではない。声が残っていても、同じ時間をもう一度過ごすことはできない。それでも、物語の筋を聞くのとは別の仕方で、祖父の生活を感じられた。

「全部を毎回聞くのは、長いよね。」
そこで元の録音は別に保ち、話だけの版も作った。元の録音には「お茶の音、十二秒」という目印を付ける。その音をどう扱うかは、いったん保留にした。どちらか一つを残して、もう一つを捨てるしかないと思っていたのは私だった。

永久に忘れないため、と言い切るのは少し違う。忘却を止められるかは分からない。ただ、次に聞いた家族が、私の気づかなかった何かを見つけるかもしれない。「空白」という名前を消し、私はもう一度、十二秒を再生した。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）建物などが古くなって傷むことを表す熟語を、本文から漢字三字で抜き出しなさい。

（2）文や話の終わりの部分を表す「マツビ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「没頭」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　物を水の中に落とすこと。
イ　離れた人を思い出すこと。
ウ　物事に深く集中すること。
エ　何もせずに待ち続けること。

（4）「空白」という名前を最後に消した理由として、最も適切なものを選びなさい。

ア　話が進まない時間にも、暮らしの手がかりがあると気づいたから。
イ　十二秒の音だけで、物語の結末が変わったから。
ウ　母が、元の録音をすべて捨てるように命じたから。
エ　物音には価値がなく、編集も失敗したから。

（5）母が十二秒をもう一度聞きたかったのはなぜですか。音と母の記憶を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）「私」は、何をどう残すかについて、どのように考え直しましたか。「保存」「捨てる」を使い、十二秒の発見と、その後の方法を結んで 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第九回　残す 失う

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　「失敗」は物事がうまくいかないこと。「失望」は期待が外れてがっかりすること。出来事と気持ちを捉え分ける。

（2）イ　「滅」は、ほろびる、消えてなくなることに関わる。

（3）ア　水の中に沈むという意味から、物事に深く集中することにも使う。

（4）ウ　「保存」は保って残すこと。
「存続」はなくならず続いていること、またはそのまま残すこと。

（5）イ　必要や目的に応じて、取るものと捨てるものを選ぶ。
古いという理由だけで外すことではない。

（6）エ　「忘却」は忘れ去ること。「喪失」は物や地位、感覚などを失うこと。記憶を失う場合など、意味が重なることもある。

四　熟語を広げよう

（1）失敗　（2）失望　（3）亡命　（4）滅亡　（5）沈没
（6）没頭　（7）忘却　（8）離別　（9）存在　（10）存続
（11）取捨　（12）永久　（13）消失　（14）喪失

（8）「離別」は別れて離れること。（12）「永久」はいつまでも長く続くこと。この文では願いとして使っている。（14）「喪失感」は大切なものを失った感覚をいう。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　出来事がうまくいかないことと、それをどう受け止めるかは別。失敗があっても、必ず失望するとは限らない。

（2）ウ　手紙を保って残すことと、展示するかをまだ決めないことを分けている。判断を保留している間に、資料を保存することもできる。

（3）イ　この文の「喪失感」は別れによる感覚、「忘却」は忘れ去ること。相手を覚えていることと、離れた寂しさがあることは両立する。

（4）エ　二語はともに、消えてなくなることを表し、意味が重なる。「消失なら存在は必ず残る」などと一律に分けず、何がどのようになくなったかを読む。

五　自分で書く問題

（5）解答例

資料の年代がまだ分からないので、展示するかの判断を保留した。

☆自分で確かめる点　判断の対象と、まだ決めなかった理由がつながっているか。

（6）解答例

祖母から届いた手紙を、日付の順に並べて箱の中に保存した。

☆自分で確かめる点　残す対象と、保って残すための具体的な行動が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）忘年　（2）死亡　（3）保護　（4）消滅　（5）依存
（6）没落　（7）捨象　（8）留守　（9）死角　（10）消去
（11）喪中　（12）持久　（13）廃止　（14）寿命　（15）生活
（16）せいめい　（17）ろうか　（18）えいえん　（19）せいし　（20）ぶんり

（5）は「依存」。「いそん」と読むこともある。（7）の「捨象」は、目的に合わせてある面を取り上げず、ほかの面に注目すること。

七　文章の中で考えよう

（1）老朽化　祖父の家が古くなり、傷んだことを表す。「老朽化し」の「老朽化」を抜き出す。家は今はもうない。

（2）末尾　文章や話などの終わりの部分。「末」は終わりや先の部分を表す。

（3）ウ　編集の作業に深く集中していたこと。

（4）ア　物語の内容だけを基準にすると、茶の音や笑い声が持つ意味を見落とす。録音が祖父の不在を埋め尽くした、という話ではない。

七　記述問題の考え方

（5）　母が聞き直したかった理由 45〜55 字

（5）解答例　49 字

湯飲みの受け皿の音や祖父の声に、かつて一緒に過ごした部屋や、茶を運ぶ祖父の暮らしを思い出したから。

（5）別解例　52 字

物語の合間の音から、祖父が受け皿を鳴らして茶を運んだことや、幼い子がいた部屋の記憶が呼び起こされたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 受け皿の音や祖父の声など、十二秒の具体的な手がかりを示したか。

② 母の知っていた祖父や部屋の記憶と結びつけたか。

③ 物語の筋を確認するため、と取り違えていないか。

聞こえた音を列挙するだけでなく、その音が母にどんな記憶を呼び戻したかを書く。

（6）　残すものと方法の考え直し 70〜90 字

（6）解答例　88 字

最初は物語以外を捨てるつもりだったが、十二秒にも祖父の暮らしの記憶があると気づいた。元の録音を保存し、聞きやすい版と音の目印も作ることで、残す内容と聞く方法を分けて考え直した。

（6）別解例　85 字

不要と思った十二秒に、家族の記憶を呼ぶ音があると知り、物語だけを残して他を捨てる考えを改めた。元の録音は保存し、短い版も作って、聞きやすさと別の発見の余地をともに残した。

☆（6）自分で確かめる点

①「保存」「捨てる」を使い、最初の考えと変化を示したか。

② 十二秒に、暮らしや記憶の手がかりを見つけたことを示したか。

③ 元の録音、短い版、目印など、残す方法の工夫を含めたか。

何でも永久に保存すべきだと一般化しない。この家族が今回見つけた意味と、選んだ方法を説明する。

漢字から文章へ 第一冊

第十回

言葉を整える

取材の記事が、すっきり読みやすくなりました。
けれど、話した人は少し首をかしげています。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

述	訳	訂	削
言葉でのべる	言葉を移す わけ	誤りなどを直す	けずり取る

詞	句	諭	謄
ことば	まとまったことば	分かるように話す	そのまま写す

いっしょに覚える漢字

文	字	名	題	書	話
声	音	答	問	説	表

この回で読むお話

時計屋のたぶん

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
述	ジュツ のべる	考えや内容を言葉で示す 記述・陳述・前述	詞	シ	ことば／言葉の種類 名詞・動詞・歌詞
訳	ヤク わけ	別の言語で伝える／事情 翻訳・通訳・訳語	句	ク	ひとまとまりの言葉 語句・句点・俳句
訂	テイ	誤りなどを直す 訂正・改訂・校訂	諭	ユ さとす	分かるように言い聞かせる 説諭・教諭・諭す
削	サク けずる	けずる／部分を除く 削除・削減・添削	謄	トウ	原本の内容を書き写す 謄写・謄本

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
文	ブン ふみ	書き表した言葉 文章・本文・作文	声	セイ こえ	人や動物が出す音 音声・声量・発声
字	ジ	文字／書いたしるし 文字・漢字・字形	音	オン おと	耳に聞こえるもの 音読・発音・音声
名	メイ な	ものや人の呼び名 名称・題名・名詞	答	トウ こたえる	問いにこたえる 答案・解答・応答
題	ダイ	表題／取り組む問題 題名・問題・課題	問	モン とう	たずねる／確かめる 質問・疑問・問題
書	ショ かく	書く／書いたもの 書写・読書・文書	説	セツ とく	分かるようにのべる 説明・説得・小説
話	ワ はなす	言葉で伝え合う 会話・話題・対話	表	ヒョウ あらわす	外に示す／おもて 表現・発表・表面

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「記述・陳述」の「述」に共通する働きはどれですか。
ア　言葉で内容を示す　　イ　原本どおりに写す
ウ　言葉を削り取る　　エ　言葉の種類を分ける

(2)「翻訳」と「通訳」に共通する働きはどれですか。
ア　同じ内容を必ず短くする　　イ　漢字をひらがなにする
ウ　意味を別の言語で伝える　　エ　発音を大きくする

(3)「訂正」と「改訂」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は写すこと、後者は削ること　　イ　前者は誤りを直し、後者は内容などを改める
ウ　どちらも、声だけを変えること　　エ　どちらも、元の文を必ず捨てること

(4)「削除」と「削減」の違いとして適切なものはどれですか。
ア　前者は増やし、後者は写す　　イ　前者は読むこと、後者は書くこと
ウ　どちらも、理由を説明すること　　エ　前者は取り除き、後者は量を減らす

(5)「歌詞」と「語句」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は音の高さ、後者は声量　　イ　どちらも、文字の数だけを指す
ウ　前者は歌の言葉、後者は語や句　　エ　どちらも、題名だけを指す

(6)「謄本」とは、どんな文書ですか。
ア　原本の内容を全部写した文書　　イ　原本の要点だけを選んだ文書
ウ　原本と反対の意見を書いた文書　　エ　外国語に訳した文書

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　謄本　題名　誤字　音声　書写　語句　記述
表記　説諭　話題　訳語　名詞　答案　削除

文	解答	文	解答
(1) 観察した事実を、ノートに□□した。		(8) 原本の全文を写した□□と、原本を照合した。	
(2) 外国語の言葉に合う日本語の□□を考えた。		(9) 作品の表紙に、内容を表す□□を大きく掲げた。	
(3) 印刷前に文字を確かめ、□□を見つけて直した。		(10) 字の形や筆づかいを見て、手本の詩を□□した。	
(4) 不要な一文を、文書から□□した。		(11) 新聞の記事が、朝の会話の□□になった。	
(5)「机」「時」は、ものや事柄を表す□□だ。		(12) 文字だけでなく、録音した□□でも伝えた。	
(6) 分かりにくい□□に線を引き、言い換えを考えた。		(13) 試験の終了後、記入した□□を提出した。	
(7) 危険な行動をした生徒を、先生が落ち着いて□□した。		(14) 同じ地名の漢字と仮名の□□を、一覧で確認した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「記述」と「説明」は、この文でどう関わっていますか。

観察結果を記述し、その結果になった理由も文章で説明した。

ア　書いた結果が理由の説明を支えている。
イ　説明は声でしかできないため、文はなかった。
ウ　記述したので、理由はすべて省かれた。
エ　二つの行為は、同時にはできない。

（2）A・B の行為に合う語の組合せを選びなさい。

A　案内の誤った時刻を正しい時刻に直した。
B　先生が、生徒の作文に語を加えたり削ったりした。

ア　A＝添削／B＝訂正　　イ　A＝削減／B＝翻訳
ウ　A＝訂正／B＝添削　　エ　A＝翻訳／B＝削減

（3）「削除」と「省略」の使い方に合う説明を選びなさい。

重なる一文を削除し、ここでは不要な途中の計算を省略して示した。

ア　削除した文は、必ず別の言語に訳された。
イ　文を取り除き、途中の計算は示さなかった。
ウ　省略した計算は、誤りだと確定した。
エ　削除も省略も、すべて書き足す意味だ。

（4）「題名」と「課題」を、この文ではどう捉え分けていますか。

作品の題名は決まったが、結末をどう書くかが課題として残った。

ア　作品は完成し、直す所はなくなった。
イ　題名も結末も、どちらも消した。
ウ　作品の名前は、まだ決まっていない。
エ　作品の名は決まり、取り組む問題は残った。

（5）「訂正」を使い、何の誤りをどう直したか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「表現」を使い、伝える内容と方法が分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 「走る」は、人の動作を表す**ドウシ**だ。	
(2) 会議では、外国語の発言を日本語に**ツウヤク**した。	
(3) 古い案内書の内容を見直し、**カイテイ**版を作った。	
(4) 使わない工程を省き、作業時間を**サクゲン**した。	
(5) 祖父の古い日記の全文を、保存用に**トウシャ**した。	
(6) 短い**ブンショウ**でも、主語と述語を確かめた。	
(7) 詩を声に出して**オンドク**し、調子を味わった。	
(8) 新しい施設の**メイショウ**を、公募で決めた。	
(9) 問題集で、計算の**カイトウ**と途中の式を確かめた。	
(10) 一つの**モンダイ**を、複数の方法で解いた。	
(11) 電車を待つ間に、少し**ドクショ**した。	
(12) 理由を丁寧に述べ、相手を**セットク**した。	
(13) 二人の**カイワ**を聞き、互いの考えを知った。	
(14) 調査した結果を、図も使って**ハッピョウ**した。	
(15) 五・七・五の音を基本に、**ハイク**を作った。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 文字	(17) 質問	(18) 声量	(19) 句点	(20) 前述

この回を終えたら もう一度確かめる

短くした前後で、誰の考えか、どこまで確かなのかが変わっていないかを確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

時計屋のたぶん

取材の録音を止めても、美月の耳には時計の音が残った。

学校新聞の記事を書くため、時計店を訪ねた。棚では大きな時計も小さな時計も動いているのに、入口の一台だけ針が止まっていた。美月が見ていると、店主は「それは、まだ預かったばかり」と言った。

「新しい時計を買わずに、古い時計を直すのはなぜですか。」
質問をすると、店主は少し考えた。「たぶん、昔の音を聞きたいんだと思う。持ち主全員に聞いたわけじゃないけれど。」修理の終わった時計を、耳に近づけた客がいたという。家族の部屋にあった物も、旅先で買った物も来る。見た目だけではなさそうだ、と述べた。

机には、先代の修理帳の謄写本があった。原本を傷めないよう、全文を書き写したものだ。品の名称と、預かった人の名が並ぶ。美月は許しを得て表紙を撮った。帳面の角には、何度も開いた跡がついていた。

学校で録音を聞き、題名を「古い時計を直す理由」とした。重なる語句を削除し、長い文を二つに分ける。間違えた開店年も訂正した。名詞が続く所を直すと、文字数も減り、読みやすくなった。ところが、店主に原稿を見せると、一文で手が止まった。

原稿の一文

店主は、客はみな昔の音を聞くために時計を直す、と話した。

「みんなの答えを知っているわけではないんだ。」

美月は迷いのある言い方を弱いと思い、「たぶん」「思う」を外していた。音声を戻すと、店主は自分の見た客の話をしている。その想像を、客全員に確かめた事実へ変えていた。

顧問の先生は「誰の考えを伝えるのか、確かめてごらん」と穏やかに諭した。説明を整えるうちに、確かさまで変えていたのだ。外国語に翻訳するとしても、その幅は勝手に消せない。美月は「みな」を外し、推測を示す表現を戻した。

最後に録音を聞くと、「たぶん」の前の短い間が気になった。店主は、時計を耳に寄せた客の顔を思い出していたのかもしれない。それは記事の事実には加えず、取材ノートへ書き留めた。写真には止まった入口の時計も写っていた。次に訪ねたら、あの音も聞けるだろうか。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）原本の全文を書き写した本を表す語を、本文から漢字三字で抜き出しなさい。

（2）ある言語の意味を別の言語で伝える「ホンヤク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「訂正」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　言葉を必ず短くすること。
イ　誤っていた内容を正しく直すこと。
ウ　録音の音量を大きくすること。
エ　外国語を日本語へ移すこと。

（4）取材時の発言と原稿の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　原稿では、店主の推測が客全員の理由のようになった。
イ　原稿では、店主が昔の音を嫌うことになった。
ウ　取材時から、客全員への調査結果が示されていた。
エ　原稿は、店主の発言を一字も変えずに写していた。

（5）美月が「たぶん」「思う」を残そうと考えたのはなぜですか。店主の知っている範囲と結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）「原稿の一文」をどう直すとよいですか。修正例と理由を合わせて書きなさい。「表現」「話し手」を使い、全体を 70〜90 字にしなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　言葉を整える

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　考えや事実などを言葉で表す働き。「記述」は書き記すことに焦点がある。

（2）ウ　一つの言語で表された意味を、別の言語で伝えること。
字や音を置き換えるだけとは限らない。

（3）イ　「訂正」は誤りを正すこと。「改訂」は書物や文書などの内容を改めること。改訂の中で訂正を行うこともある。

（4）エ　「削除」は対象を取り除くこと。「削減」は量や数などを減らすこと。

（5）ウ　「詞」「句」はどちらも言葉に関わる。「語句」は語や句、ひとまとまりの言葉をいう。

（6）ア　「謄」は書き写す働き。「謄本」は原本の内容を全部そのまま写し取った文書をいう。

四　熟語を広げよう

（1）記述　（2）訳語　（3）誤字　（4）削除　（5）名詞
（6）語句　（7）説諭　（8）謄本　（9）題名　（10）書写
（11）話題　（12）音声　（13）答案　（14）表記

（3）「誤字」は誤った文字。（8）は原本の全文を写した「謄本」。（10）「書写」は字形や筆づかいにも注意して写すこと。（14）「表記」は、文字や記号で書き表すことや、その書き方。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　「記述」は書き表すこと、「説明」は相手に分かるように述べること。説明を文章で記述することもでき、二語は必ず別の作業になるわけではない。

（2）ウ　誤りを正すAには「訂正」、他の人の文章に加除などを行って直すBには「添削」が合う。添削では訂正も行われる。助言があることだけを二語の違いにはしない。

（3）イ　二語はともに部分を取り除いたり省いたりする場面で使い、意味が重なる。この文では、取り除く対象と示さない部分を具体的に読む。

（4）エ　「題名」は作品などの名前。「課題」は取り組むべき事柄や問題。題名を決めること自体が課題になる場合もある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

案内にある開始時刻が違っていたので、九時から十時へ訂正した。

☆自分で確かめる点　誤っていた点と、正しく直した内容が伝わるか。

（6）解答例

祖母への感謝を、言葉だけでなく、一枚の絵でも表現した。

☆自分で確かめる点　伝える内容と、言葉・絵・音などの示し方が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）動詞　（2）通訳　（3）改訂　（4）削減　（5）謄写
（6）文章　（7）音読　（8）名称　（9）解答　（10）問題
（11）読書　（12）説得　（13）会話　（14）発表　（15）俳句
（16）もじ　（17）しつもん　（18）せいりょう　（19）くてん　（20）ぜんじゅつ

（5）は書き写す「謄写」。（9）は問題を解いて答える「解答」。問い合わせに返事をする場合の「回答」と、文脈を確かめて捉え分ける。

七　文章の中で考えよう

（1）謄写本　「謄」は書き写すこと。本文では原本の全文を写したものと説明されている。

（2）翻訳　日本語の語を外国語に移す場合も、推測や確かさの度合いを保つ必要がある。

（3）イ　本文では、誤って書いた開店年を正しく直している。

（4）ア　発言には「たぶん」「思う」「全員に聞いたわけではない」という範囲がある。原稿は「みな」と言い切り、その範囲を変えている。

七　記述問題の考え方

（5）　推測を示す言葉を残す理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

店主は客全員に理由を聞いたのではなく、見た様子から想像しており、その考えを確かな事実として伝えないため。

（5）別解例　50 字

店主の答えは一部の客を見て考えた推測なので、客全員の理由を確認した事実であるかのように変えないため。

☆（5）自分で確かめる点

① 店主は、客全員に理由を聞いたわけではないことを示したか。

② 客の様子から考えた推測であることを示したか。

③ 言葉を消すと確かさや範囲が変わることを説明したか。

「元の発言を一字も変えてはいけないから」とはしない。意味や判断の範囲を保てば、言い方を整えることはできる。

（6）　原稿の修正と理由 70〜90 字

（6）解答例　81 字

店主は「たぶん、昔の音を聞きたいんだと思う」と話した、と直す。「みな」を外し、推測を示す表現を残すことで、話し手が客全員の理由を確認したかのように伝わるのを防ぐ。

（6）別解例　77 字

店主は、昔の音を聞きたくて時計を直す客もいるのだろうと考えている、と直す。話し手の推測を示す表現を残し、客全員に確かめた結果であるかのような断定を避ける。

☆（6）自分で確かめる点

①「表現」「話し手」を使い、修正例と理由の両方を書いたか。

② 客全員についての断定を外し、推測を示す言い方を残したか。

③ 元の発言にない、客の具体的な理由を加えていないか。

修正文は一つに決まらない。「みな」を外すだけでは、店主の推測が確定した事実のように読める場合があるため、確かさを示す言葉も見直す。

漢字から文章へ 第一冊

第十一回

学ぶ 試す 伸ばす

一度目は四分で完成。三度目は十一分。
時間が延びたら、前より下手になったのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

習	練	試	験
くり返し身につける	くり返し力を高める	ためす	実際に確かめる

励	努	成	達
はげます はげむ	力を尽くす	できあがる 育つ	ある所まで届く

いっしょに覚える漢字

学	教	育	校	師	課
業	策	案	功	研	究

この回で読むお話

手本を閉じた日

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
習	シュウ ならう	くり返して身につける 学習・習慣・復習	励	レイ はげむ	はげます／力を尽くす 激励・奨励・励行
練	レン ねる	くり返す／内容を整える 練習・熟練・練る	努	ド つとめる	力を尽くす 努力・努める
試	シ ためす	ためす／こころみる 試行・試作・試験	成	セイ なる	できあがる／育つ 成功・成長・完成
験	ケン	実際に確かめる／しるし 経験・実験・試験	達	タツ	ある所まで届く 達成・到達・上達

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
学	ガク まなぶ	知識や力を身につける 学習・学校・学問	業	ギョウ ゴウ	仕事／なすこと 授業・作業・卒業
教	キョウ おしえる	おしえる／伝える 教育・教室・教師	策	サク	方法／はかりごと 対策・方策・政策
育	イク そだつ	育つ／育てる 育成・教育・体育	案	アン	考えた内容／下書き 提案・答案・案内
校	コウ	学ぶ所／比べて確かめる 学校・校舎・校正	功	コウ	よい結果／てがら 成功・功績・功労
師	シ	教える人／手本となる人 教師・師弟・師匠	研	ケン とぐ	とぐ／深く調べる 研究・研修・研ぐ
課	カ	取り組むこと／区切り 課題・課程・日課	究	キュウ きわめる	深くきわめる 研究・究明・探究

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「習慣」と「復習」の「習」に関わる働きはどれですか。
ア　一度だけ見て忘れる　　イ　くり返して身につける
ウ　相手の記録を消す　　エ　物を高く積む

(2)「案を練る」とは、どのようにすることですか。
ア　案を全く読まない　　イ　必ず別の人の案にする
ウ　案をそのまま捨てる　　エ　内容を検討し、よく整える

(3)「試行」と「試作」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は試すこと、後者は試しに作ること　　イ　前者は完成、後者は結果の記録
ウ　どちらも、本番だけを行うこと　　エ　どちらも、全く同じ結果になること

(4)「経験」と「実験」の「験」に関わる働きはどれですか。
ア　見ないまま決める　　イ　長く保存する
ウ　実際に行い、確かめる　　エ　外国語に直す

(5)「激励」と「努力」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、他人を叱ること　　イ　前者は励ますこと、後者は力を尽くすこと
ウ　前者は結果、後者は過去の記録　　エ　どちらも、何もしないこと

(6)「到達」と「達成」の「達」に共通する意味はどれですか。
ア　途中で元へ戻る　　イ　大きさが小さくなる
ウ　やり方をすべて忘れる　　エ　ある場所や目標まで届く

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　努力　教育　方策　成長　学力　激励　師弟
研究　成功　復習　達成　試験　日課　練習

文	解答	文	解答
(1) 学んで身につけた□□を、点数以外の方法でも確かめた。		(8) 不安そうな選手を、仲間が声をかけて□□した。	
(2) 昨日習った内容を、ノートを開いて□□した。		(9) 目的に向かって力を尽くす□□を、地道に続けた。	
(3) 本番に備え、同じ曲の演奏の□□を重ねた。		(10) 直した装置は、初めての試運転に□□した。	
(4) 技を教える先生と弟子が、□□で作品を展示した。		(11) 去年より身長も伸び、自分の□□を実感した。	
(5) 水のむだを減らすため、具体的な□□を考えた。		(12) 目標だった百冊の読書をついに□□した。	
(6) 全校の生徒が、同じ学力□□を受けた。		(13) 毎朝の音読を、一日の□□として続けた。	
(7) 子どもの力を育てる□□のあり方を話し合った。		(14) 古い資料を照合して、町の歴史の□□を進めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「学習」と「練習」の関わりとして、この文に合う説明を選びなさい。

英語の学習では、文の仕組みを調べ、発音の練習も繰り返した。

ア　学習は知識だけなので、発音を含まない。
イ　練習すれば、言葉の意味は必ず分かる。
ウ　学習の中に、技能を高める練習も含まれる。
エ　練習は、学習がすべて終わるまでできない。

（2）A・B に合う語の組合せを選びなさい。

A　受付の新しい手順を、今日だけためしに行った。
B　持ちやすさを確かめるため、新しい形の持ち手を作った。

ア　A＝試行／B＝試作　　イ　A＝試作／B＝試行
ウ　A＝成功／B＝達成　　エ　A＝達成／B＝成功

（3）「努力」と「成果」は、この文でどう関わっていますか。

毎日努力したが、期待した成果がすぐに出たわけではなかった。

ア　成果が遅れたので、何もしていなかった。
イ　力を尽くす行いと、得られる結果には違いがある。
ウ　努力と成果は、必ず同じ時刻に生じる。
エ　成果が出なければ、努力という語は使えない。

（4）次の文の「成功」と「達成」に合う説明を選びなさい。

試作機は動作に成功したが、百台を作るという目標は、まだ達成していない。

ア　試作機も、まだ動いていない。
イ　百台作ったので、試作は不要になった。
ウ　二つの語があるので、文は矛盾している。
エ　一台はうまく動いたが、生産数の目標には届かない。

（5）「試行」を使い、確かめたいことと試した方法を一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「課題」を使い、次に取り組みたい具体的な点を一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 毎朝、昨日のノートを開く**シュウカン**がついた。	
(2) 町の図書館は、子どもの読書を**ショウレイ**している。	
(3) 長年の経験を持つ**ジュクレン**の職人が、手順を見せた。	
(4) 新しい形の袋を**シサク**し、持ちやすさを比べた。	
(5) 何度も直した作品が、ようやく**カンセイ**した。	
(6) 条件をそろえて**ジッケン**し、結果を記録した。	
(7) 登山隊は、夕方に目的地へ**トウタツ**した。	
(8) 地域の**ガッコウ**で、作品の展示会が開かれた。	
(9) 次の担い手を**イクセイ**するため、講座を続けた。	
(10) 係の人が、入口から展示室まで**アンナイ**した。	
(11) 古い**コウシャ**の写真を、年代順に並べた。	
(12) 新しい担当者は、三日間の**ケンシュウ**を受けた。	
(13) その学校の教育**カテイ**を、案内書で確かめた。	
(14) 故障の原因を**キュウメイ**するため、記録を調べた。	
(15) 国語の**ジュギョウ**で、二つの解答を比べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 教科	(17) 教師	(18) 作業	(19) 対策	(20) 功績

この回を終えたら もう一度確かめる

できたかどうかを比べるとき、時間や回数だけでなく、どんな助けや条件があったかも確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

手本を閉じた日

「今日は、鳥にならない。」

綾は折りかけの紙を開いた。昨日は四分で完成したのに、一人で折ると九分たっても翼ができない。先生が紙を裏返してくれた所から、先が分からなくなった。机には、昨日の一羽が立っている。あの成功は何だったのだろう。少し曲がったくちばしまで得意だったのに、今はその鳥を見るのも嫌だった。

祖母が育った町では、祭りに紙の鳥を飾る。学校の体験授業で折り方を習い、綾も持ち帰ったのだ。「もう自分で作れる」と思った四分を、ノートに大きく書いていた。

次の授業で相談すると、教師はその横に「手本あり、助けあり」と書いた。熟練した先生の手を見て、同じ形にしていたことを、綾は思い出した。
「一人で作るという目標は、まだ試していなかったね。」
責める声ではなかった。綾は、開いた紙をもう一度取り出した。

練習案を変えよう。分からなくなった形を絵に残し、前後の折り目を比べる。紙の向きを変えた所には目印をつける。速く先へ進む代わりに、戻って確かめることも上達の方策にした。

綾のノートの記録

記録	折ったときの条件	時間	結果
A	手本を見て、途中で教師の助けも受ける	4分	完成
B	手本を閉じ、一人で折る	9分	途中
C	手本を閉じ、迷った所は自分で戻って確かめる	11分	完成

三回目の試行では、迷った所まで戻って折り直した。十一分で、最後まで一人で作れた。友達は「前より遅いね」と言いかけ、条件の欄を読んだ。「今度は、自分で直したんだ。」綾は、時間の横に小さな丸を付けた。

課題は「四分に戻す」ではなく、「迷ったとき、どこへ戻ればよいか分かる」にしよう。時間だけなら後退に見えた記録に、別の成長があった。励まされたからこそ、うまくいかなかった経験も消さずに置けた。

次は日を空けて、同じ鳥を作ってみる。努力した回数だけでなく、どんな条件で何をできたかを確かめたい。ノートの題は「折り方の研究」。紙の鳥を二羽並べると、くちばしは別々の方を向いていた。開き直した紙も、そのそばへ置いた。

七　文章の中で考えよう 問い

本文とノートの記録を根拠にして答えなさい。

（1）技能などが前よりよくなることを表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）実際に見たり行ったりして得たことを表す「ケイケン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「試行」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　過去の記録をすべて消すこと。
イ　相手の意見をそのまま写すこと。
ウ　ものを遠くへ運ぶこと。
エ　ためしに実際に行ってみること。

（4）記録から分かることとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　C は A より遅いので、できることも必ず減った。
イ　C では、自分で迷った所を確かめて完成した。
ウ　A は、一人で最後まで作れた記録である。
エ　C で完成したので、今後も毎回必ず作れる。

（5）綾が十一分の記録にも成長を見つけたのはなぜですか。四分のときとの条件の違いを踏まえ、45〜55 字で説明しなさい。

（6）綾の努力の仕方は、どのように変わりましたか。「試行」「成長」を使い、初めの判断と、練習・記録の変化を結んで 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十一回　学ぶ 試す 伸ばす

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　「習慣」は繰り返して身についた行い。「復習」は習ったことを再び学ぶこと。

（2）エ　「練」は繰り返して力を高めることだけでなく、考えや内容を十分に整えることにも使う。

（3）ア　「試」はためす働き。「試作」は、試しに作って確かめることに焦点がある。

（4）ウ　「経験」は実際に見たり行ったりすること。
「実験」は、条件を整えて行い、確かめること。

（5）イ　相手を励ますことと、自分が目的に向けて力を尽くすことを捉え分ける。

（6）エ　「到達」は場所や段階などに達すること。「達成」は目標などを成し遂げること。

四　熟語を広げよう

（1）学力　（2）復習　（3）練習　（4）師弟　（5）方策
（6）試験　（7）教育　（8）激励　（9）努力　（10）成功
（11）成長　（12）達成　（13）日課　（14）研究

（1）「学力」は学んで身につけた知識や技能などの力。（4）「師弟」は先生と弟子。（5）「方策」は目的のための方法。（7）「教育」は人の知識や能力などを育てること。（13）「日課」は毎日行う決まった仕事や習慣。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　「学習」は知識や技能などを学び身につけること。「練習」は繰り返して技能などを高めること。知識と動作で完全に分けず、含まれる関係も読む。

（2）ア　A は手順を試す「試行」、B は物を試しに作る「試作」。試作した物を使って新しい方法を試行する場合もある。

（3）イ　「努力」は目的に向けて力を尽くすこと。「成果」は成し遂げた結果や得られたもの。行いと結果を分けて読む。

（4）エ　試した動作がうまくいくことと、生産数の目標に届くことを分けている。同じ目標の実現を成功とも達成とも呼べる場合はある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

待ち時間が減るか確かめるため、受付の新しい順番を試行した。

☆自分で確かめる点　試す方法と、確かめたいことがつながっているか。

（6）解答例

発表の録音を聞き、文の終わりまで明瞭に話すことを課題にした。

☆自分で確かめる点　単に苦手というだけでなく、取り組む対象を具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）習慣　（2）奨励　（3）熟練　（4）試作　（5）完成
（6）実験　（7）到達　（8）学校　（9）育成　（10）案内
（11）校舎　（12）研修　（13）課程　（14）究明　（15）授業
（16）きょうか　（17）きょうし　（18）さぎょう　（19）たいさく　（20）こうせき

（13）は、一定の順序で学ぶ内容をまとめた「課程」。（14）は、原因などを明らかにする「究明」。「究」は、深くきわめる働きに関わる。

七　文章の中で考えよう

（1）上達　技能などが前よりよくなること。「上達の方策」とある。ここでは速さだけでなく、自分で確かめられる力にも目を向けている。

（2）経験　完成したことだけでなく、途中で迷ったことも含む。

（3）エ　手本なしで折る方法を、実際に試している。

（4）イ　C は自分で戻って完成した記録。A と条件が異なり、時間の長さだけで優劣は決まらない。一回の完成で安定した力まで証明されたわけではない。

七　記述問題の考え方

（5）　十一分にも成長を見つけた理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

四分のときは手本と教師の助けがあったが、十一分では、迷った所に自分で戻って確かめ、一人で完成できたから。

（5）別解例　51 字

前は手本を見て先生に助けられていたのに対し、今度は時間が延びても、自分で折り直して完成まで進めたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 四分のときは、手本や教師の助けがあったことを示したか。

② 十一分では、自分で迷った所を確かめて完成したことを示したか。

③ 時間だけでなく、できた条件の違いを結びつけたか。

単に「諦めず頑張ったから」とせず、どの部分を自分でできるようになったかを説明する。

（6）　練習と記録の変化 70〜90 字

（6）解答例　84 字

初めは速く完成すればよいと考えたが、試行を通じ、迷った形を記録して前後を比べ、自分で戻る練習へ変えた。時間だけでなく、助けの有無や自分で直せた点も記し、成長を確かめた。

（6）別解例　84 字

四分の成功だけを基準にせず、手本なしで折る試行から、迷う場所を調べて戻ることを課題にした。条件と結果を共に記録し、速さだけでは見えない、自分で確かめる力の成長を捉えた。

☆（6）自分で確かめる点

①「試行」「成長」を使い、初めの時間中心の判断を示したか。

② 迷った形の記録、前後の比較、戻る練習などを具体的に含めたか。

③ 助けの有無や、自分でできたことも確かめる変化を示したか。

繰り返せば必ず成功する、という説明にはしない。試すことで何を知り、次に何を変えたかを捉える。

漢字から文章へ 第一冊

第十二回

一日の暮らし

今日は父が家にいます。
でも、昼の食卓の席は空いたままでした。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

暮	飯	鍋	衣
日々を過ごす	炊いた米 食べ物	煮炊きする道具	身にまとうもの
履	眠	忙	暇
はく 歩んできた道	ねむる	用事が多い	用事のない時間

いっしょに覚える漢字

朝	昼	夜	家	室	机
席	床	服	靴	住	食

この回で読むお話

昼の空席

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
暮	ボ くれる くらす	日がくれる／日々を過ごす 日暮れ・暮色・暮らし	履	リ はく	足につける／歩んだ道 履物・履歴・履修
飯	ハン めし	炊いた米／食事 炊飯・夕飯・飯店	眠	ミン ねむる	ねむる／ねむい 睡眠・安眠・不眠
鍋	なべ	食べ物を煮炊きする器 土鍋・鍋物・鍋料理	忙	ボウ いそがしい	用事が多い／あわただしい 多忙・繁忙・忙しい
衣	イ ころも	身にまとうもの 衣服・衣類・衣食住	暇	カ ひま	用事のない時間／休み 余暇・休暇・暇

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
朝	チョウ あさ	一日のはじめのころ 朝食・早朝・朝日	席	セキ	座る場所／集まる場 座席・出席・欠席
昼	チュウ ひる	日の出ているころ 昼食・昼間・昼休み	床	ショウ ゆか とこ	足もと／寝る場所 床下・床面・病床
夜	ヤ よる よ	日の暮れたあとのころ 夜間・深夜・夜空	服	フク	着るもの／身につける 衣服・制服・服装
家	カ いえ	住む建物／その集まり 家族・家庭・家屋	靴	くつ	足につけて外を歩くもの 靴下・革靴・靴音
室	シツ	へや／仕切った所 教室・室内・個室	住	ジュウ すむ	住む／とどまる 住所・住居・住民
机	キ つくえ	物を置いて作業する台 机上・学習机・机	食	ショク たべる	食べる／食べ物 食事・食卓・食欲

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「日暮れ」と「暮らし」の「暮」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、食事の回数だけを指す　　イ　前者は朝、後者は住む建物
ウ　前者は日がくれること、後者は日々を過ごすこと　　エ　どちらも、靴をはくこと

(2)「炊飯」と「衣食住」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は米を炊くこと、後者は生活の基本　　イ　前者は寝ること、後者は夕方の空
ウ　どちらも、家を建てること　　エ　どちらも、夜の時間だけを指す

(3)「履物」と「履歴」の「履」は、どう使われていますか。
ア　どちらも、食べ物の温かさ　　イ　前者は記録、後者は足につける物
ウ　どちらも、眠る場所　　エ　前者は足につける物、後者は歩んだ記録

(4)「安眠」と「不眠」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は多忙、後者は余暇　　イ　前者は安らかに眠ること、後者は眠れないこと
ウ　どちらも、必ず昼間に寝ること　　エ　どちらも、眠る場所の広さ

(5)「多忙」の意味として適切なものはどれですか。
ア　使う道具が多い　　イ　住む部屋が広い
ウ　用事が多く、忙しい　　エ　長い休みがある

(6)「余暇」と「休暇」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、家にいる時間すべて　　イ　前者は昼、後者は夜だけ
ウ　どちらも、眠れないこと　　エ　前者は自由な時間、後者は仕事などの休み

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　衣食住　休暇　履歴　夕飯　不眠　土鍋　昼食
就寝　衣服　日暮れ　深夜　炊飯　欠席　履物

文	解答	文	解答
(1) 家族で同じ食卓を囲み、正午ごろに□□をとった。		(8) 玄関では、靴などの□□をそろえた。	
(2) 日が沈み、町が暗くなる□□□のころに帰った。		(9) 学業や仕事の歩みを、□□として書いた。	
(3) 米の量と水の量を確かめ、鍋で□□した。		(10) 明日の準備を済ませ、夜十時に□□した。	
(4) 夜、家族がそろって温かい□□を食べた。		(11) 小説には、眠りたくても眠れない□□の夜が描かれた。	
(5) 土で作られた□□を、食卓の真ん中に置いた。		(12) 日付が変わるほどの□□まで、明かりがついていた。	
(6) 冬に着る□□を、たんすから取り出した。		(13) その日の会に行けないと、主催者へ□□を伝えた。	
(7) 着る・食べる・住むをまとめて□□□という。		(14) 会社に申請した三日間の□□で、旅に出かけた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「暮らし」と「生活」について、適切な説明を選びなさい。

祖母は町での暮らしを語り、昔の生活道具も見せてくれた。

ア　暮らしは人、生活は道具だけに使う。
イ　二語は意味が重なり、同じ日常を指す場合もある。
ウ　暮らしは過去、生活は未来だけに使う。
エ　二語が同じ文にあると、必ず矛盾する。

（2）「衣服」と「服装」は、この文で何を表していますか。

濡れた衣服を着替え、式典に合う服装を整えた。

ア　前者は着る物、後者は身につけた様子や組合せ。
イ　前者は履歴、後者は自由な時間。
ウ　前者は食べ物、後者は部屋の配置。
エ　どちらも、靴の大きさだけを指す。

（3）「履歴」と「経歴」の使い方として適切なものを選びなさい。

端末の検索履歴を見返した。／教師としての経歴を聞いた。

ア　経歴は、端末にしか使えない。
イ　履歴は、人の歩みには使えない。
ウ　前者は操作の記録、後者は人の歩みを表している。
エ　二語は、どの文でも必ず入れ替えられる。

（4）「余暇」と「休暇」の関係として、この文に合う説明を選びなさい。

休暇を取ったが、家の用事が重なり、自由に使える余暇は少なかった。

ア　休暇があれば、すべて自由に使える。
イ　家の用事は、必ず仕事の休暇を取り消す。
ウ　休暇と余暇は、常に同じ長さになる。
エ　仕事を休んでも、自由な時間が多いとは限らない。

（5）「暮らし」を使い、日々の具体的な営みが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

（6）「余暇」を使い、自由な時間に何をしたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 日が沈み、町は青い**ボショク**に包まれた。	
(2) 来年度は、歴史学の講義を**リシュウ**する予定だ。	
(3) 旅先の**ハンテン**で、温かい麺料理を食べた。	
(4) 小説の結末では、主人公が久しぶりに**アンミン**できた。	
(5) 冬の夜、家族で温かい**ナベモノ**を囲んだ。	
(6) 年末は、店の**ハンボウ**期に当たる。	
(7) 季節が変わったので、たんすの**イルイ**を入れ替えた。	
(8) 作業のあと、汚れた**ユカメン**を布で拭いた。	
(9) 旅の日記には、宿で食べた**チョウショク**も記した。	
(10) 物語の生徒たちは、学校の**セイフク**で駅に集まった。	
(11) 休日は**カゾク**で食卓を囲んだ。	
(12) 冷えないよう、厚手の**クツシタ**をはいた。	
(13) 放課後の**キョウシツ**に、夕日が差し込んだ。	
(14) 計画はまだ**キジョウ**の案で、実行していない。	
(15) 一週間の**ショクジ**の内容を、日記に記録した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 昼夜	(17) 夜間	(18) 座席	(19) 床下	(20) 住民

この回を終えたら もう一度確かめる

家にいることと、自由に過ごせることは同じでしょうか。人物の動作や、置かれた物を手がかりに考えてみましょう。

七　文章の中で考えよう

昼の空席

父の席にも、今日は駒を並べた。土曜日の朝、父は家にいた。私は学校で借りた二人用のゲームを机に広げた。いつもは帰宅の時刻が合わず、続きをする相手がいない。昼飯のあとならできるだろう。箱のふたを食卓の横へ立てかけた。

けれど、父は寝室で眠っていた。机の端のメモには「五時半に帰宅。昼すぎまで寝ます。ご飯は鍋に」とある。玄関には大きな作業靴がそろっていた。昨夜、私が眠るころ、その靴を履いて父は仕事へ出たのだった。

戸にかけた手を戻した。二人とも家にいる昼が、父には夜からの続きなのだ。駒を箱に戻して鍋のふたを開けると、ご飯の表面に浅い線がある。二人分を分けやすくしたのだろう。

食器を洗い、ぬれた床を拭いた。椅子の背には乾いた衣服が畳んである。自分の服を運ぶと、その下から父の仕事着が出てきた。住み慣れた家なのに、私が寝たり学校へ行ったりしている間の動きが見えてきた。食卓に残った駒を一つ拾うと、端の塗料が少しはげていた。

午後、寝室の戸が開いた。
「今日は忙しいの。」
父は夕方からまた仕事だと言い、鍋の残りを確かめて夕飯の下ごしらえを始めた。私が箱を持ち上げると、「ご飯を食べたら、少しできるよ」と言った。

日暮れ前、父は自分の席に座った。朝から並べていた駒を、今度は二人で動かす。父は考えながら、ときどき時計を見た。続きを急いで終わらせる代わりに、私は今の駒の位置を紙に写した。

支度をする父の横で、鍋のふたを洗って伏せた。「明日は暇？」と聞きかけて、「次はいつ、一緒にできそう」と聞き直す。父は予定を見て、日曜の夕方ならと答えた。

出かけたあとの室内で、私は食卓を拭いた。席はまた空いている。でも、昼に見たときと同じ空席には思えなかった。駒の位置の紙に「日曜、夕方」と書き、父のメモの隣に置いた。塗料のはげた駒は、次も私が使おう。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）父が仕事へ行くときに履く靴を表す語を、本文から漢字三字で抜き出しなさい。

（2）眠ることを表す「スイミン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「暇」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　足につけて歩く物。
イ　自由に使える時間があること。
ウ　家の中にいることのすべて。
エ　衣服を着替えること。

（4）最後に「次はいつ、一緒にできそう」と聞き直したことから、何が読み取れますか。

ア　父が家にいる日なら、いつでも遊べると思った。
イ　もう父とゲームをするつもりがなくなった。
ウ　父と自分の都合が重なる時間を確かめようとした。
エ　父の仕事の予定を、すべて決めようとした。

（5）「私」が父を起こさず、ゲームの駒を箱に入れたのはなぜですか。メモと前夜の父の行動を根拠に、45〜55 字で説明しなさい。

（6）「父は家にいる」ということの受け止め方は、初めと終わりでどう変わりましたか。「暮らし」「時間」を使い、具体的な描写を根拠に 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十二回　一日の暮らし

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　「暮」は日がくれることと、日々を過ごすことに関わる。熟語や送り仮名によって表す内容を確かめる。

（2）ア　「炊飯」は米を炊くこと。
「衣食住」は着ること、食べること、住むことという生活の基本を表す。

（3）エ　「履物」は足につける物。
「履歴」はこれまでに歩んだ経歴や、行われたことの記録に関わる。

（4）イ　「眠」は眠ること。「安」「不」が加わることで、その眠りの様子や可否を表す。

（5）ウ　「忙」は用事が多く、あわただしいことに関わる。人の忙しさは、その人がいる場所だけでは分からない。

（6）エ　「余暇」は用事などの合間に自由に使える時間。「休暇」は、仕事や学校などを一定期間休むことをいう。

四　熟語を広げよう

（1）昼食　（2）日暮れ　（3）炊飯　（4）夕飯　（5）土鍋
（6）衣服　（7）衣食住　（8）履物　（9）履歴　（10）就寝
（11）不眠　（12）深夜　（13）欠席　（14）休暇

（1）「昼食」は昼の食事。（2）「日暮れ」は送り仮名も含める。（7）「衣食住」は漢字三字。
（10）「就寝」は寝ること。（12）「深夜」は夜ふけ。
（13）「欠席」は出るはずの会などに出ないこと。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　どちらも日々を過ごすことに関わる。「暮らし」は日々の営みの実感を含む場面でも使うが、いつも「生活」と明確に分けられるわけではない。

（2）ア　「衣服」は着る物そのもの。「服装」は身につけている物の様子や組合せを表す。何を着たかと、どんな装いかを捉え分ける。

（3）ウ　この文では、端末に残った操作の記録と、人の仕事の歩みを分けている。「履歴」も学業や仕事の歩みを表すことがあり、意味は重なる。

（4）エ　仕事などを休む期間と、自由に使える時間は同じではない。休みの間にも、家事や休息などの予定があることを読む。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖父は毎朝庭の草木に水をやり、静かな町での暮らしを楽しんだ。

☆自分で確かめる点　食事、仕事、休息など、日々の過ごし方が具体的に伝わるか。

（6）解答例

家の用事を終えたあとの余暇に、窓辺で好きな物語を読んだ。

☆自分で確かめる点　用事などから離れて、自由に過ごした内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）暮色　（2）履修　（3）飯店　（4）安眠　（5）鍋物
（6）繁忙　（7）衣類　（8）床面　（9）朝食　（10）制服
（11）家族　（12）靴下　（13）教室　（14）机上　（15）食事

（16）ちゅうや　（17）やかん　（18）ざせき　（19）ゆかした　（20）じゅうみん

（1）「暮色」は日が暮れるころの薄暗い様子。（8）「床面」は床の表面。（14）「机上」は机の上から、実行していない計画などにも使う。（16）「昼夜」は昼と夜。

七　文章の中で考えよう

（1）作業靴　玄関にそろっていた、仕事へ履いていく靴。「作業靴」の三字を抜き出す。その靴で前夜に出かけたことが、父の時間を知る手がかりにもなる。

（2）睡眠　「眠」は眠ることに関わる字。

（3）イ　ここでは、一緒に遊ぶために使える時間があるかを聞こうとしている。家にいるという場所の情報だけでは決まらない。

（4）ウ　初めは家にいれば遊べると期待したが、最後は父の予定も確かめている。遊びを諦めたのではなく、続きを残して次の時間を決めている。

七　記述問題の考え方

（5）　昼に父を起こさなかった理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

父は前夜に仕事へ出て、朝五時半に帰宅し昼すぎまで寝ると書いていたので、今は遊ぶより休む時間だと分かったから。

（5）別解例　54 字

自分が眠った夜に仕事へ出た父が、朝帰宅して眠る予定だとメモで知り、同じ昼でも父には休息が必要だと考えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 前夜に父が仕事へ出たことを根拠にしたか。

② メモの帰宅時刻や、昼すぎまで寝る予定を根拠にしたか。

③ 同じ昼でも、父には休む時間であると結びつけたか。

「父がゲームを嫌がるから」など、本文にない気持ちを足さない。行動とメモから分かる時間のずれを説明する。

（6）　家にいる父の見え方の変化 70〜90 字

（6）解答例　88 字

初めは父が家にいれば遊べると思ったが、メモや靴、用意されたご飯から、夜の仕事と休息が続く暮らしに気づいた。最後は父の時間も確かめ、二人の都合が重なるときに続きをしようと考えた。

（6）別解例　88 字

父が家にいる昼を自分と同じ自由な時間だと考えたが、仕事の靴や食事の用意から、自分とは異なる暮らしの流れを知った。最後には家にいるかだけで決めず、予定を聞いて一緒の時間を選んだ。

☆（6）自分で確かめる点

①「暮らし」「時間」を使い、初めの期待を示したか。

② メモ、靴、ご飯、衣服などの具体的な描写を根拠にしたか。

③ 父の予定も確かめ、一緒に過ごす時間を選ぶ変化を示したか。

空席をどう感じたかには、複数の読みがあり得る。父の不在を責める話や、遊ぶのを完全に諦める話にせず、本文の動作を根拠に説明する。

漢字から文章へ 第一冊

第十三回

身体と感覚

ひと口のスープを、どう伝えましょう。
「おいしい」と書く前に、少し待ってみました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

膚	腰	膝	肘
体の表面	体の中ほど	足の曲がる所	腕の曲がる所

胸	腹	舌	匂
胸 思いの内	腹 心の内の案	味わう 話す	におい 気配

いっしょに覚える漢字

身	体	顔	目	耳	鼻
口	手	足	肌	骨	血

この回で読むお話

ひと口を言葉にする

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
膚	フ	体の表面をおおうもの 皮膚・肌膚・皮膚感覚	胸	キョウ むね	体の前面上部／心の中 胸中・胸囲・胸痛・胸
腰	ヨウ こし	体の中央／物事に向かう姿勢 腰痛・腰掛け・本腰・中腰	腹	フク はら	体の前面下部／心の中の考え 腹部・空腹・腹案・腹
膝	シツ ひざ	足の曲がる部分 膝下・膝頭・膝小僧	舌	ゼツ した	口の中の器官／話し方 舌先・弁舌・毒舌・舌
肘	チュウ ひじ	腕の曲がる部分 肘掛け・肘打ち・肘	匂	におう	におい／気配 匂い・匂う・匂わせる

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
身	シン み	からだ／自分 身体・身近・自身	口	コウ くち	くち 口調・入口・出口
体	タイ からだ	からだ／まとまり 体調・体験・体力	手	シュ て	て／方法 手足・手段・相手
顔	ガン かお	かお 顔色・笑顔・顔面	足	ソク あし	あし／足りる 足元・不足・遠足
目	モク め	め／見る点 目線・注目・目的	肌	はだ	はだ 肌寒い・肌身・肌
耳	ジ みみ	みみ 耳元・耳目・耳	骨	コツ ほね	ほね／中心 骨格・骨折・骨子
鼻	ビ はな	はな 鼻音・鼻先・鼻血	血	ケツ ち	ち 血液・血縁・出血

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「皮膚」と「肌」の関係として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、体の内側の骨だけを指す　　イ　体の表面に関わり、指すものが重なる
ウ　前者は心、後者は姿勢だけを指す　　エ　どちらも、味を感じる部分を指す

(2)「腰を上げる」を「行動を始める」の意味で使った文はどれですか。
ア　腰の高さまで水につかった　　イ　椅子に腰を深くかけた
ウ　先延ばしにした仕事に、ようやく腰を上げた　　エ　腰の位置を、ひもで測った

(3)「膝」と「肘」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は足、後者は腕の曲がる部分　　イ　前者は腕、後者は足の曲がる部分
ウ　どちらも、心の中にある案　　エ　どちらも、話し方の調子

(4)「胸中」と「腹案」に共通することはどれですか。
ア　どちらも、食事の量を表す　　イ　どちらも、体の大きさを測る
ウ　どちらも、表面の色を表す　　エ　体の部分を表す字で、内にある思いや案を表す

(5)「舌先だけの約束」の意味として適切なものはどれですか。
ア　小さな声で交わした約束　　イ　口で言うだけで、実行する気のない約束
ウ　食事をしながら決めた約束　　エ　紙に書いて残した約束

(6)「計画の変更を匂わせた」の説明として適切なものはどれですか。
ア　変更を取り消して、もとへ戻した　　イ　変更を全員に明確に発表した
ウ　変更がありそうだと、それとなく感じさせた　　エ　変更の理由をすべて詳しく語った

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　骨子　満腹　肘掛け　毒舌　皮膚　口数　胸元
体調　匂い　弁舌　腰痛　顔色　腰掛け　腹案

文	解答	文	解答
(1) 体の表面をおおう□□の構造を図で見た。		(8) 豊かな□□をふるい、聞き手に考えを伝えた。	
(2) 長く同じ姿勢で座り、□□を感じて休んだ。		(9) 相手を傷つけるような辛らつな□□を控えた。	
(3) 休憩用の□□□を、木の下に置いて座った。		(10) 台所から、焼きたてのパンの□□が届いた。	
(4) 椅子の□□□に、左右の腕をそっと置いた。		(11) 熱や疲れの有無など、今日の□□を確かめた。	
(5) 冷たい風が入らないよう、上着の□□を閉じた。		(12) 青ざめた□□を見て、大丈夫かと声をかけた。	
(6) 心の中で用意していた□□を、会議で提案した。		(13) 緊張していたのか、いつもより□□が少なかった。	
(7) 十分に食事をとり、□□になって箸を置いた。		(14) 話の細部を書く前に、大まかな□□を組み立てた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「身体」と「体」について適切なものを選びなさい。

身体を動かす。／体を動かす。

ア　前者は心だけ、後者は手足だけを指す。
イ　前者は人、後者は動物にしか使えない。
ウ　この二文は、同じ動作を表すことができる。
エ　二つの語が同じ意味になる場面はない。

（2）「胸中」と「腹案」は、この文で何を表していますか。

胸中の迷いを話す前に、問題を解くための腹案を紙に書いた。

ア　前者は内にある思い、後者は用意した案。
イ　前者は声の大きさ、後者は食べ物の量。
ウ　前者は計画の完成、後者は迷いだけ。
エ　どちらも、体の外から測れる長さ。

（3）「口調」と「弁舌」の関係として適切なものを選びなさい。

彼女は穏やかな口調だったが、巧みな弁舌で反対意見にも答えた。

ア　穏やかな口調なら、説明する力は弱い。
イ　弁舌が巧みなら、必ず大きな声で話す。
ウ　二語とも、話した時間の長さを表す。
エ　話す調子と、説明する力は別々に捉えられる。

（4）「骨子」と「詳細」の関係として適切なものを選びなさい。

発表の骨子には賛成だが、実施する日付などの詳細は決め直したい。

ア　詳細を直すなら、骨子も必ず全部捨てる。
イ　大まかな組み立てを保ち、細部を直すことはできる。
ウ　骨子と詳細は、いつでも全く同じ内容を指す。
エ　骨子は日付だけ、詳細は結論だけを指す。

（5）「胸中」を使い、内に抱く思いが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

（6）「匂わせる」を使い、何かをそれとなく伝える場面を一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 服を作るため、胸の周りの**キョウイ**を測った。	
(2) 課題に**ホンゴシ**を入れ、資料を読み直した。	
(3) 転んだ拍子に**ヒザガシラ**が地面に触れた。	
(4) 実行する気のない**シタサキ**だけの約束はしない。	
(5) 町の図書館は、私たちに**ミヂカ**な学びの場だ。	
(6) 物語では、子犬が扉のすき間へ**ハナサキ**を近づけた。	
(7) 陶芸を初めて**タイケン**し、土に触れた。	
(8) 長い旅のあと、**テアシ**を伸ばして休んだ。	
(9) 暗い道では、**アシモト**を照らして歩いた。	
(10) 絵の中では、人の**ハダ**の色も一人ずつ異なっている。	
(11) 建物の**コッカク**となる柱を組み立てた。	
(12) 仮面が、役者の**ガンメン**をすっぽり覆った。	
(13) 新しい作品に、多くの人の**チュウモク**が集まった。	
(14) 各地の**ジモク**を集める大きな発表だった。	
(15) 病院では、採った**ケツエキ**を調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 顔立ち	(17) 目線	(18) 耳元	(19) 鼻血	(20) 血縁

この回を終えたら もう一度確かめる

顔つきや動作は手がかりになります。その人が何を感じているかまで、すぐに決めてよいでしょうか。

七　文章の中で考えよう

ひと口を言葉にする

まだ飲んでいないスープを、晴菜は「温かくて、おいしい」と書いた。料理教室で紹介文を任され、よい言葉を探していたのだ。ふたを開ける前から、鼻に野菜の匂いが届く。空腹で腹が鳴りそうだった。隣の直が「もう味、分かったの」と笑い、晴菜は書いた一行の上に手を置いた。

低い棚から器を取り、中腰から立ち上がる。膝を伸ばし、肘の上まで袖をまくった。腕の皮膚に湯気が触れ、肌の上だけ別の温度がのるようだった。体を少し引いて器を持つと、足の裏には床の冷たさが残った。

味見のできる温度まで待ち、口にひとさじ運んだ。それでも晴菜には熱さが先に立ち、舌のどこで味を探せばよいのか分からない。眉を寄せると、直が「苦手な味？」と聞いた。急いで首を振り、顔に血が上る。耳まで熱かった。
「嫌いかどうかじゃなくて、まだ熱いんだと思う。」

「じゃあ、あとでまた飲んでみようか。」
直の口調が少し変わった。

先生は、鶏の骨と野菜から作ったスープだと話した。晴菜は器を置き、窓の外へ目を向けた。庭の枝に洗った布巾が揺れている。上手な紹介文を書こうと力を入れていた胸が、ゆっくりほどける気がした。

少しして飲むと、今度は甘みが分かった。その奥には、苦手な草のような香りもある。「全部おいしい」と書けば簡単だが、感じているものが消えてしまう。直は自分の器から飲み、「この香り、好きだな」と言った。晴菜は合わせず、もうひと口確かめた。

メモには「最初は熱さで味が分からなかった。少し冷めると甘みがした。あとに残る香りは、私は少し苦手」と書いた。紹介文には長すぎる。どこを短くするかは、これから考えよう。

帰り際、空いた器が重ねられていく。晴菜は「温かくて、おいしい」の一行を消し、下のメモを読んだ。身体に起きたことを、まだ言い切れないところも含めて書いてみる。折った紙をかばんに入れると、直が明日の献立を聞きに戻っていった。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）腹が減っている状態を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）話し方の調子を表す「クチョウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「顔に血が上り」が表す晴菜の様子として、最も適切なものを選びなさい。

ア　スープの材料を、すべて思い出した。
イ　味が分からないと言った直に、怒り続けている。
ウ　誤解を急いで解こうとして、顔が熱くなった。
エ　教室を出て、冷たい空気に触れた。

（4）直の「じゃあ、あとでまた飲んでみようか」から、何が読み取れますか。

ア　顔つきだけで苦手だと決めず、晴菜の言葉を受けて提案を変えた。
イ　晴菜が嫌いだと言ったので、飲むのをやめさせようとした。
ウ　同じスープなら、全員が同じ感想を持つはずだと考えた。
エ　材料が分かるまで、味見はできないと決めた。

（5）晴菜が「全部おいしい」と書かなかったのはなぜですか。少し冷めてから分かったことと、直の感想も踏まえ、45〜55 字で説明しなさい。

（6）初めの一行から最後のメモへ、晴菜の書き方はどう変わりましたか。「身体」「言葉」を使い、具体的な内容を含めて 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十三回　身体と感覚

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　どちらも体の表面に関わる。「肌」には、表面の手触りやきめに目を向ける使い方もある。

（2）ウ　体を動かすことから、行動に取りかかる意味でも使う。文全体で確かめる。

（3）ア　「膝」は足、「肘」は腕の曲がる部分。字形の似たところだけで判断しない。

（4）エ　「胸中」は心の中の思い、「腹案」は内に持っている案。身体の部分を表す字が、考えや気持ちにも使われる。

（5）イ　「舌先」は実際の舌の先のほか、口先だけであることにも使う。

（6）ウ　ここでは実際のにおいではなく、はっきり述べずに気配を感じさせる意味。

四　熟語を広げよう

（1）皮膚　（2）腰痛　（3）腰掛け　（4）肘掛け　（5）胸元

（6）腹案　（7）満腹　（8）弁舌　（9）毒舌　（10）匂い

（11）体調　（12）顔色　（13）口数　（14）骨子

（3）「腰掛け」は腰をかけて座る物。（4）「肘掛け」、（10）「匂い」も送り仮名を含める。（5）「胸元」は胸の辺り。（7）「満腹」は十分に食べて腹が満ちること。

（13）「口数」は話す言葉の多さ。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　この文では同じからだの動きを表せる。「身体」はやや改まった言い方でも使うが、意味を常に二分することはできない。

（2）ア　迷いという思いと、問題を解くための案を分けている。「胸中」には案に関わる思いが含まれる場合もある。

（3）エ　穏やかであることと、説明が巧みであることは両立する。
語がどの面に着目するかを考える。

（4）イ　全体の大まかな組み立てと、細かな内容を捉え分ける。細部の修正が、必ず全体の否定になるわけではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

再会を喜びながらも、友人の胸中には別れの日への不安が残った。

☆自分で確かめる点　心の中の思いが具体的に伝わるか。体の大きさだけの説明になっていないか。

（6）解答例

先生は来週の予定を話す中で、新しい企画の始まりを匂わせた。

☆自分で確かめる点　はっきり発表せず、何がありそうだと感じさせたかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）胸囲　（2）本腰　（3）膝頭　（4）舌先　（5）身近

（6）鼻先　（7）体験　（8）手足　（9）足元　（10）肌

（11）骨格　（12）顔面　（13）注目　（14）耳目　（15）血液

（16）かおだち　（17）めせん　（18）みみもと　（19）はなぢ　（20）けつえん

（6）「鼻先」は鼻の先。（10）は「肌」。人の肌を一つの色に固定する説明ではない。（14）「耳目」は耳と目から、世間の注意や注目も表す。（19）「鼻血」は「はなぢ」。

七　文章の中で考えよう

（1）空腹　冒頭の、腹が鳴りそうなほどの状態を表す。

（2）口調　何を言ったかという内容と、どのような調子で言ったかを分けて読む。

（3）ウ　直に「苦手な味？」と聞かれ、熱さが先に立つのだと急いで伝えている。材料や体調について、本文にない原因を足さない。

（4）ア　眉を寄せた動作だけでは、苦手かどうかは分からない。直は晴菜の説明を聞き、時間をおいて飲む提案に変えている。

七　記述問題の考え方

（5）　一つの感想にまとめなかった理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

甘みは感じたが、あとに残る香りは自分には苦手で、直が好きと言ったことに合わせると、その違いが消えるから。

（5）別解例　52 字

少し冷めたスープには甘みと苦手な香りの両方があり、直と同じ感想にすると、自分の感じたことが残らないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 甘みと、苦手な香りの両方を示したか。

② 直はその香りを好きだと感じたことに触れたか。

③ 一つの評価にまとめると、自分の感じ方が消えると結びつけたか。

「おいしい」という言葉が常に悪いのではない。この場面で何を表しきれないかを説明する。

（6）　感じることと書くことの変化 70〜90 字

（6）解答例　82 字

初めは飲む前に用意した言葉で紹介しようとしたが、最後は身体で感じた熱さや甘み、苦手な香りを、時間による変化とともに書いた。他人に合わせず、言い切れないことも残した。

（6）別解例　84 字

最初は「温かくて、おいしい」という言葉を先に置いたが、味見で身体に起きたことへ目を向け、熱さで味が分からない時間や、苦手な香りも書いた。評価より、自分の感覚を確かめた。

☆（6）自分で確かめる点

①「身体」「言葉」を使い、飲む前の一行に触れたか。

② 熱さ、甘み、香りなど、メモの具体的な内容を示したか。

③ 他人に合わせず、分からないことも含めて書く変化を示したか。

味の好みがよい方へ変わった、という話にはしない。最後にも苦手な香りは残っている。

漢字から文章へ 第一冊

第十四回

場所と道

向こう岸に、会場の門が見えています。
いちばん早く着く道は、どれでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

路	途	径	峠
通る道	道の途中 用い方	細い道 円を横切る線	山道の頂き 山場

岸	畔	郊	廊
水ぎわの土地	水のほとり 田のあぜ	町の周り	建物の通路

いっしょに覚える漢字

道	橋	駅	町	村	都
庭	門	場	所	地	方

この回で読むお話

南門までの十八分

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
路	ロ -じ	人や物が通る道 道路・路地・進路・経路	岸	ガン きし	水ぎわの土地 海岸・岸辺・沿岸・対岸
途	ト	途中の道／目的へ向かう道 途中・途上・前途・用途	畔	ハン あぜ ほとり	水辺／田のあぜ 湖畔・河畔・畔
径	ケイ	細い道／まっすぐ通る線 小径・直径・半径・径路	郊	コウ	町の外側・周辺 郊外・近郊・郊野
峠	とうげ	山道の高い所／物事の山場 峠道・峠・峠を越す	廊	ロウ	建物の通路／細長い建物 廊下・回廊・画廊

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
道	ドウ みち	みち 道路・道筋・通学路	庭	テイ にわ	にわ 庭園・校庭・中庭
橋	キョウ はし	はし 橋上・鉄橋・橋渡し	門	モン かど	もん 正門・校門・門前
駅	エキ	えき 駅前・駅舎・終着駅	場	ジョウ ば	ところ 場所・会場・立場
町	チョウ まち	まち 町内・市町村・町並み	所	ショ ところ	ところ 住所・場所・近所
村	ソン むら	むら 村落・村人・市町村	地	チ	ち／ところ 地面・地域・土地
都	ト みやこ	みやこ／大きな町 都市・都会・都心	方	ホウ かた	むき／やりかた 方向・地方・方法

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「道路」「路地」「進路」に共通する「路」の意味はどれですか。
ア　人や物が向かい、通る道　　イ　建物の外を囲う壁
ウ　水の深さを測る線　　エ　目的を果たした後の結果

(2)「途中」と「用途」の「途」は、どう使われていますか。
ア　どちらも、山の最も高い所　　イ　前者は金額、後者は距離
ウ　前者は進む最中、後者は用い方　　エ　どちらも、建物の正面

(3)「直径」の説明として適切なものはどれですか。
ア　円の中心から円周までの線分　　イ　円の周りを一周した長さ
ウ　円の外に引いたまっすぐな線　　エ　円の中心を通り、円周の二点を結ぶ線分

(4)「作業は峠を越した」の意味はどれですか。
ア　作業を始める場所を決めた　　イ　作業の最も大変な段階を過ぎた
ウ　山頂でしか作業できなくなった　　エ　作業を途中で取りやめた

(5)「対岸」と「湖畔」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は町の中心、後者は郊外　　イ　どちらも、水の中ほど
ウ　前者は向こう岸、後者は湖のほとり　　エ　どちらも、山の頂きだけを表す

(6)「廊下」と「回廊」に共通する意味はどれですか。
ア　建物などに設けた通路　　イ　町を囲む山々
ウ　川の流れの速さ　　エ　移動にかかった時間

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　対岸　廊下　進路　町並み　道路　途中　海岸
前途　駅前　路地　峠道　路線　郊外　直径

文	解答	文	解答
(1) 車や人が通る広い□□に、街灯が並んだ。		(8) 山の頂きを越える細い□□を、ゆっくり登った。	
(2) 建物の間の細い□□を抜け、表通りに出た。		(9) 海と陸の接する□□に、波が打ち寄せた。	
(3) 卒業後に進む学校などの□□を、先生と相談した。		(10) 川をはさんだ□□に、赤い屋根の家が見えた。	
(4) 鉄道の各□□を、案内図では色で区別している。		(11) 古い家が連なる□□□を、写真に残した。	
(5) 会場へ向かう□□で、友人にばったり会った。		(12) 町の中心から離れた□□には、畑が広がる。	
(6) 新生活を始める友人の明るい□□を願った。		(13) 教室と教室をつなぐ□□に、足音が響いた。	
(7) 円の中心を通り、端と端を結ぶ線分を□□という。		(14) 列車を降り、□□のバス乗り場へ向かった。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「道路」と「路地」の関係として適切なものを選びなさい。

大きな道路から、家と家の間の細い路地へ入った。

ア　道路は必ず車専用で、人は通れない。
イ　通る道という点で重なるが、この文は道の規模や周囲を分けている。
ウ　路地には、必ず行き止まりがある。
エ　路地とは、町の外側の地域だけをいう。

（2）「途中」と「途上」について適切なものを選びなさい。

帰る途中で会った。／帰る途上で会った。

ア　前者は到着後、後者は出発前を表す。
イ　前者は徒歩、後者は電車にしか使えない。
ウ　後者を使うと、会った場所が山に変わる。
エ　この二文は、同じ帰り道での出来事を表せる。

（3）「岸辺」と「湖畔」の説明として適切なものを選びなさい。

川の岸辺を歩いた。／湖畔の宿に泊まった。

ア　岸辺は水ぎわを広く表し、湖畔は湖のほとりを表す。
イ　岸辺は川だけ、湖畔は海だけに使う。
ウ　岸辺と湖畔は、どちらも山道の頂きを表す。
エ　湖畔と書けば、宿の値段も分かる。

（4）「場所」と「立場」は、この文で何を表していますか。

初めて来る人の立場から、案内板を置く場所を選んだ。

ア　前者は金額、後者は方角。
イ　どちらも、地図上の一点だけ。
ウ　前者は実際に置く所、後者は人の状況や視点。
エ　前者は案内板、後者は駅そのもの。

（5）「経路」を使い、どこを通りどこへ向かうか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「立場」を使い、誰の視点で何を考えたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 夕方の**キシベ**を、波の音を聞きながら歩いた。	
(2) この計画は、まだ検討の**トジョウ**にある。	
(3) 川沿いの**カハン**に、桜が並んでいた。	
(4) 林の中の細い**ショウケイ**をたどった。	
(5) 市の**キンコウ**には、畑が多く残る。	
(6) 中庭を囲む**カイロウ**を歩いた。	
(7) 会場への**ミチスジ**を、順に説明した。	
(8) 古い屋敷の**テイエン**を見学した。	
(9) 列車は長い**テッキョウ**を渡った。	
(10) 改築された**エキシャ**には木が使われている。	
(11) 手紙に、今住んでいる家の**ジュウショ**を書いた。	
(12) 山間の小さな**ソンラク**を訪ねた。	
(13) 人口の多い**トシ**の交通について調べた。	
(14) 校舎の正面にある**セイモン**で待ち合わせた。	
(15) 演奏会の**カイジョウ**には、椅子が並んでいた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 校門	(17) 場所	(18) 地域	(19) 方向	(20) 市町村

この回を終えたら もう一度確かめる

目的地が見えることと、そこへ入れることは同じでしょうか。所要時間以外の条件も読んでみましょう。

七　文章の中で考えよう

南門までの十八分

電話の向こうで、車輪が石に当たる音がした。「もう会場が見えるよ。」駅前の従兄が言う。大きなチェロのケースを持ち、都会から来たところだ。初めての場所を一人で歩いている。湖の対岸には音楽祭の旗が見える。玲は「橋を渡れば、すぐ」と言いかけ、廊下の掲示へ目を戻した。

会場は町の郊外にある昔の村役場だ。庭へ続く北門と、受付のある南門がある。いつもは北門から入るので、案内の紙にもその道を書いた。けれど、今日は舞台の準備で北門を閉じる。さっき掲示を読んだのに、頭の中ではいつもの道を歩いていた。

駅から会場への道を調べたメモ

道	通る所	徒歩の目安	当日の条件
A	小径 → 階段のある橋 → 北門	12 分	北門は閉鎖
B	湖畔の道 → 広い橋 → 南門	18 分	段差なし
C	峠道 → 石段 → 南門	15 分	急な坂と石段

メモの十二分だけを見れば、A を選びたくなる。小径の先の門に着いても、今日は入れないのだ。峠道を通る C なら南門へ着くが、急な坂と石段がある。従兄はケースを安定して運びたいと言っていた。B の十八分の横に、玲は指を置いた。

「駅を出て右へ。岸に沿って進んで、二つ目の広い橋を渡って。」
「湖の方へ行くんだね。」
途中で従兄が確かめた。玲は窓からその方を見る。地図の上の方向だけでなく、今見えている物からも説明できる。南門までの経路を伝え直した。

路地の入口へ迎えに出ると、従兄が広い橋を渡ってきた。風に押されて、ケースのひもが上着へ当たっている。二人で南門の受付へ向かった。庭の奥では北門の前に照明の機材が並び、閉じた門の向こうを人が通っていた。

「見えていたのに、あっちからは入れなかったんだ。」

従兄が笑った。玲は案内の「駅から十二分」を消し、「南門まで、湖畔の道で十八分。段差なし」と書いた。最短という言葉は足さない。次に来る人にも、何を持ってくるか聞いておこう。

道と所要時間は、この物語のために設定したものです。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と道のメモを根拠にして答えなさい。

（1）湖のほとりを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ある方角や、そちらの地域を表す「ホウメン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「対岸」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　駅の正面にある道路。
イ　湖をはさんだ向こう側の岸。
ウ　川に架かっている橋の上。
エ　町の外側にある山道。

（4）玲が B を案内した判断として、最も適切なものを選びなさい。

ア　A より六分長いので、すべての人にとって最適だ。
イ　C は南門へ着かないので、B 以外に道はない。
ウ　会場が見える A なら入れるが、景色のよい B を選んだ。
エ　当日入れる門と、ケースを安定して運ぶ希望の両方を満たす。

（5）「橋を渡れば、すぐ」とだけ伝えなくてよかったのはなぜですか。玲のいつもの道と当日の状況を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）最後の案内は、初めの「駅から十二分」より、従兄に何を伝えられますか。「経路」「条件」を使い、本文に即して 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十四回　場所と道

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　実際の道だけでなく、これから進む方向や将来の道にも使う。

（2）ウ　「途中」は進む最中。「用途」は何に用いるかを表す。含まれる字だけで、熟語全体を道の話と決めない。

（3）エ　「径」は細い道のほか、円の中心を通る線などにも関わる。「半径」と区別する。

（4）イ　実際の山道から、物事の頂点や山場を表す使い方へ広がっている。

（5）ウ　「対岸」は水をはさんだ向こう側の岸。「湖畔」は湖のほとりで、見ている人との向かい合いは条件ではない。

（6）ア　「廊」は通路や、通路のような細長い建物に関わる。「画廊」は絵を展示する場所をいう。

四　熟語を広げよう

（1）道路　（2）路地　（3）進路　（4）路線　（5）途中

（6）前途　（7）直径　（8）峠道　（9）海岸　（10）対岸

（11）町並み　（12）郊外　（13）廊下　（14）駅前

（3）「進路」は将来に進む道にも使う。（4）「路線」は鉄道やバスなどの運行する道筋。（9）「海岸」は海の水ぎわ、（10）「対岸」は水をはさんだ向こう岸。

（11）「町並み」は送り仮名を含む三字。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　「道路」は通る道を広く指す。「路地」は建物の間などの細い道。この文では、その道の様子の違いに着目する。

（2）エ　どちらも目的地へ向かう間を表せる。「途上」は改まった言い方でも使うが、道中の出来事を常に二分するわけではない。

（3）ア　「湖畔」には湖という情報が含まれる。「岸辺」は川、湖、海などの水ぎわに使う。

（4）ウ　設問では「場所」「立場」の順に尋ねている。文に出る順と取り違えず、置く所と、見る人の視点を分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

駅から川沿いを進み、二つ目の橋を渡る経路で会場へ向かった。

☆自分で確かめる点　出発地や目的地、通る所などから、具体的な道筋が分かるか。

（6）解答例

初めて町を訪れる人の立場で、案内図の目印を選び直した。

☆自分で確かめる点　地図上の場所ではなく、人の置かれた状況や視点を表せているか。

六　短文で使ってみよう

（1）岸辺　（2）途上　（3）河畔　（4）小径　（5）近郊

（6）回廊　（7）道筋　（8）庭園　（9）鉄橋　（10）駅舎

（11）住所　（12）村落　（13）都市　（14）正門　（15）会場

（16）こうもん　（17）ばしょ　（18）ちいき　（19）ほうこう　（20）しちょうそん

（4）「小径」は細い道。「小道」とも書けるが、ここでは配当の「径」を使う。（6）「回廊」は建物や中庭などを巡る通路。

七　文章の中で考えよう

（1）湖畔　「湖畔の道」の、湖のほとりという意味。

（2）方面　ある方角や、そちらに当たる地域。「方向」「経路」など、近い場面で使う別の語とも捉え分ける。

（3）イ　駅側と、会場のある側が湖をはさんでいる。単に駅の正面という意味ではない。

（4）エ　A は門が閉鎖され、C には急な坂と石段がある。B は南門へ段差なく行ける。「すべての人に最適」とまでは言えない。

七　記述問題の考え方

（5）　いつもの案内を見直した理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

玲が普段使う橋の先の北門は当日閉鎖され、渡っても会場に入れず、大きなケースを運ぶ従兄を迷わせるから。

（5）別解例　54 字

橋を渡った先の北門は普段と違って閉じており、大きなケースを持つ従兄には、南門へ着く道を伝える必要があるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 玲は普段、北門から入ることを示したか。

② 当日は北門が閉じ、橋を渡るだけでは入れないと示したか。

③ 従兄の状況に合う案内が必要だと結びつけたか。

会場が見えないからではない。見えていても、そこに入れるとは限らない点を読む。

（6）　書き直した案内に加わったこと 70〜90 字

（6）解答例　86 字

初めは時間だけだったが、最後は湖畔を通って南門へ着く経路と、十八分かかり段差がない条件を示した。入れる門と、大きなケースを安定して運びたい従兄の希望を合わせて確かめられる。

（6）別解例　88 字

最後の案内には、目的地の南門、湖畔を通る経路、十八分と段差なしという条件がある。初めの十二分だけでは分からなかった入口と道の様子が分かり、従兄は自分の荷物に合う道か判断できる。

☆（6）自分で確かめる点

①「経路」「条件」を使い、初めは時間だけだったと捉えたか。

② 南門、湖畔、十八分、段差なしの具体的な情報を示したか。

③ 当日の入口と、荷物を運ぶ人の希望に結びつけたか。

短い道を選ぶこと自体が誤りなのではない。誰が、何を持ち、いつ入るかで案内を確かめる。

漢字から文章へ 第一冊

第十五回

整える 直す 守る

古い道具箱を、きれいに直す仕事です。
この青い跡も、消してよいのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

汚	乱	整	散
よごれる	まとまりがなくなる	そろえる ととのえる	ばらばらになる

破	壊	修	補
やぶれる こわれる	こわす こわれる	なおす 学ぶ	足りない所をおぎなう

いっしょに覚える漢字

潔	純	雑	混	荒	磨
掃	拭	塗	替	除	片

この回で読むお話

青い引き出し

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
汚	オ よごれる よごす	よごれる／きたなくなる 汚れ・汚す・汚染・汚点	破	ハ やぶる	やぶれる／こわれる 破る・破れる・破損・破片
乱	ラン みだれる	みだれる／まとまりがなくなる 乱れる・混乱・乱雑・乱暴	壊	カイ こわす	こわれる／こわす 壊れる・壊す・破壊・崩壊
整	セイ ととのえる	そろえる／きちんとする 整える・整理・整頓・調整	修	シュウ おさめる	なおす／学び身につける 修理・修復・修正・研修
散	サン ちる	ちらばる／ばらばらになる 散る・散らす・散乱・分散	補	ホ おぎなう	足りないものをおぎなう 補う・補足・補修・補助

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
潔	ケツ いさぎよい	けがれがない／いさぎよい 清潔・潔白・不潔	掃	ソウ はく	はいてきれいにする 掃く・掃除・清掃
純	ジュン	まじりけがない 純粋・純白・純情	拭	ショク ふく ぬぐう	ふいて取りのぞく 拭く・払拭
雑	ザツ	まじる／まとまりがない 雑音・雑草・雑誌	塗	ト ぬる	表面にぬる 塗る・塗装・塗料
混	コン まじる	まじり合う 混じる・混合・混乱	替	タイ かえる	入れかえる 替える・交替・代替
荒	コウ あらす	あれる／手入れされていない 荒れる・荒野・荒地	除	ジョ のぞく	取りのぞく 除く・除外・掃除
磨	マ みがく	みがく／表面をきれいにする 磨く・研磨・歯磨き	片	ヘン かた-	一部／整理する 片づけ・破片・片側

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「汚染」と「汚点」に共通する「汚」の意味はどれですか。
ア　不足した分を足す　　イ　形をそろえて並べる
ウ　よごれる けがれる　　エ　学んで身につける

(2)「混乱」と「散乱」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は入り乱れること、後者は散らばること　　イ　前者は清潔、後者は純粋であること
ウ　どちらも、必ず紙が床に落ちること　　エ　どちらも、破れを直すこと

(3)「調整」の例として適切なものはどれですか。
ア　壊れた破片を、数えずに捨てる　　イ　足りない説明を、一文だけ加える
ウ　窓の汚れを、布で拭き取る　　エ　全員の予定を見て、日程を合わせる

(4)「破損」と「破片」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、直すための方法　　イ　前者はこわれること、後者はこわれたかけら
ウ　前者はかけら、後者は道具の名前　　エ　どちらも、よごれの付いた布

(5)「修理」と「研修」の「修」は、どう使われていますか。
ア　どちらも、表面を塗ること　　イ　どちらも、足りない材料の量
ウ　前者はなおすこと、後者は学び身につけること　　エ　前者は散らすこと、後者はこわすこと

(6)「補足」と「補助」に共通する意味はどれですか。
ア　足りないところをおぎなう　　イ　古いものをすべて捨てる
ウ　同じ場所へ物を集める　　エ　表面を削って光らせる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　破片　修復　整理　汚点　分散　破壊　整頓
乱雑　補充　破損　汚染　修理　散乱　混乱

文	解答	文	解答
(1) 有害なものによる水の□□を防ぐ取組を続ける。		(8) 一か所への集中を避け、人数を三会場に□□した。	
(2) 不正が明らかになり、経歴に□□を残した。		(9) 輸送中の衝撃で、箱の角に□□が生じた。	
(3) 指示が食い違い、現場は何をすべきか□□した。		(10) 割れた皿の小さな□□を、丁寧に拾った。	
(4) 机の上が□□で、どこに何があるか分からない。		(11) 物語では、巨大な怪獣が町の建物を□□した。	
(5) 考えを項目ごとに□□して、文章にまとめた。		(12) 動かない時計を店に預け、□□してもらった。	
(6) 道具を決めた位置に並べ、棚を□□した。		(13) 破れた古い絵を、元の状態に近づけるよう□□した。	
(7) 風で書類が床一面に□□し、拾い集めた。		(14) 用紙が少なくなったので、棚に新しい束を□□した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「汚れ」と「汚染」は、この文で何を表していますか。

机の汚れを拭き取ったあと、有害物質による川の汚染について調べた。

ア　汚れは必ず無害で、汚染は必ず目に見える。
イ　どちらも、机の傷だけを表す。
ウ　机も川も、布で拭けば同じように解決する。
エ　前者は机のよごれ、後者は有害物質で川がよごれること。

（2）「整理」と「整頓」について適切なものを選びなさい。

資料を必要なものと不要なものに整理し、残す資料を棚に整頓した。

ア　どちらも、内容を見ずに捨てること。
イ　前者は分けて整えること、後者はきちんと並べること。
ウ　整理した物は、整頓してはいけない。
エ　二語が同じ作業に関わることはない。

（3）「破損」と「破壊」について適切なものを選びなさい。

強風で窓が破損した。／物語の怪獣が建物を破壊した。

ア　破損なら、必ず次の日に自然に直る。
イ　破壊なら、必ず人が故意に行ったと分かる。
ウ　前者は窓がこわれた状態、後者は建物をこわす行為に着目する。
エ　どちらも、外観の汚れだけを表す。

（4）「修理」と「修復」について適切なものを選びなさい。

家具を修理する。／家具を修復する。

ア　同じ家具をなおす作業にも使え、着目する面が異なる場合がある。
イ　修理は機械だけ、修復は紙だけに使える。
ウ　修理すると古い部分は必ず全てなくなる。
エ　修復なら、必ず新品を買い直す。

（5）「補足」を使い、何の説明に何を加えたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「調整」を使い、何を何に合わせて整えたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 相手を傷つける**ランボウ**な言葉を避けた。	
(2) 物語の城は、地震で一部が**ホウカイ**した。	
(3) 古い自転車の部品を**セイビ**し、よく動くようにした。	
(4) 数字の誤りに気づき、表を**シュウセイ**した。	
(5) 作業台についていたごみを**ジョキョ**し、表面を確かめた。	
(6) 調査で、疑われていた人の**ケッパク**が証明された。	
(7) 誤解を**フッショク**するため、経緯を説明した。	
(8) 門の表面に、青い**トソウ**を施した。	
(9) 二人が**コウタイ**で、受付を担当した。	
(10) 旅人は、広い**コウヤ**を歩いていた。	
(11) 部品の表面を**ケンマ**し、滑らかにした。	
(12) 道の**カタガワ**だけ、工事をしていた。	
(13) 地域の人と公園を**セイソウ**した。	
(14) 庭は、積もった**ジュンパク**の雪に覆われた。	
(15) 花壇から**ザッソウ**を抜き取った。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 純粋	(17) 雑音	(18) 混合	(19) 掃除	(20) 除外

この回を終えたら もう一度確かめる

きれいに見えることと、使いやすいことは、いつも同じでしょうか。手入れの目的を確かめてみましょう。

七　文章の中で考えよう

青い引き出し

「この青も、塗り替えていい？」蓮は純白の塗料を指さした。叔母の道具箱を直す手伝いに来ている。取っ手は汚れ、右の引き出しだけ青い。中では道具が混ざり、底板の割れ目から木の破片が落ちた。色をそろえれば、ずっときれいになると思った。

叔母は、まず中身を出そうと言った。ほこりを掃き、布で拭くと、見えなかった傷が現れる。底板は一部が破損しているが、箱の枠は使えそうだ。蓮が傷んだ板だけ替える案を出すと、叔母は寸法を測り、補修用の板を取りに行った。

待つ間に道具を整理した。磨いた金具を左、小さな部品を右へ。種類と大きさで分けると、乱雑だった箱が整って気持ちがよい。底に敷かれていた古い新聞には、蓮の生まれる前の日付があった。読んでいると、叔母が戻ってきた。

左手が、右の引き出しへ伸びた。
何もつかまずに止まる。
「いつもここに、ものさしがあったんだ。」

蓮は箱の左側に座る叔母を見た。右の引き出しから左手でものさしを取るのだ。青は塗装が荒れた跡だと思っていたが、よく使う引き出しを見分けるために塗った色だという。覆えば、その目印がなくなる。

「同じ色なら、使いやすいと思った。」
「見やすい方がいい所もあるよ。だけど、この青は残したい。」
清潔にすることと、使い慣れた置き方を変えることは、一度に決めなくてよかった。蓮はものさしを戻し、ほかの道具も叔母が手を伸ばす順に並べ直した。

底板には新しい木の色が見える。叔母は無理に古い色へ合わせなくてよいと言った。蓮は青い部分の汚れだけを除き、周りを薄く塗り直す。木片を集めると、床の散らかりも収まった。

箱が壊れた所は直し、役に立っている色は残った。裏側に修理の日付を書き、蓮は引き出しを渡した。叔母の左手が青い取っ手へ伸びる。今度は、ものさしをつかんで戻ってきた。蓮もその位置へ手を伸ばしてみてから、白い塗料のふたを閉めた。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）足りない部分や傷んだ所をおぎなって直す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）汚れがなく、きれいな様子を表す「セイケツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「塗り替えよう」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　道具を別の箱に移そう。
イ　木を削り、形を全て変えよう。
ウ　塗ってある表面を、新たに塗り直そう。
エ　取っ手を全部取り外そう。

（4）叔母の「見やすい方がいい所もあるよ」から分かることはどれですか。

ア　蓮の手入れ全体を否定し、汚れも残すつもりだ。
イ　見やすくする考えを認めつつ、青い目印を残したいと伝えた。
ウ　すべて純白にする案に、条件なく賛成した。
エ　青い所が汚れだと分かったので、消したいと伝えた。

（5）蓮が箱全体を純白にしなかったのはなぜですか。青い部分の役割と、叔母の使い方を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）この箱を「整える」とは何をすることになりましたか。「整理」「補修」を使い、変えた所と残した所を含めて 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十五回　整える 直す 守る

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　水などのよごれにも、名誉などに傷がつくことにも関わる。

（2）ア　「乱」はまとまりがなくなること。

「混」は入り混じること、「散」は散らばることに目を向ける。

（3）エ　「調整」は、物事の具合や釣合いをよくし、整えること。

整った状態にする方法は、文脈で異なる。

（4）イ　こわれたり傷ついたりした状態と、こわれてできた小さな部分を分ける。

（5）ウ　「修」はなおす意味にも、学んで身につける意味にも使う。熟語全体で働きを確かめる。

（6）ア　説明の不足を加えることや、力を添えて助けることに関わる。

四　熟語を広げよう

（1）汚染　（2）汚点　（3）混乱　（4）乱雑　（5）整理

（6）整頓　（7）散乱　（8）分散　（9）破損　（10）破片

（11）破壊　（12）修理　（13）修復　（14）補充

（5）は考えをまとめる「整理」、（6）は物を所定の位置に並べる「整頓」。実際の片づけで一緒に行う場合もある。（14）「補充」は不足したものを補って満たすこと。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　文に示された対象と原因を読む。語の違いだけから、汚れは無害だ、汚染は必ず見える、とまでは言えない。

（2）イ　この文は、分ける段階と、並べる段階に着目している。意味や作業が常に切り離されるわけではない。

（3）ウ　ここでは状態と行為に着目する。「破壊」は自然災害などにも使う。こわれ方の大小だけで、常に二分することはできない。

（4）ア　「修理」は使えるようになおすこと、「修復」は傷んだものを元に近い状態へなおすことに着目しやすい。対象や作業は重なる場合がある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

道順の説明に、曲がり角で見える赤い屋根の建物を補足した。

☆自分で確かめる点　不足した内容を、具体的に加えたことが伝わるか。

（6）解答例

全員が参加できるよう、部員の予定を聞いて練習の日程を調整した。

☆自分で確かめる点　物事の具合や釣合いを整える働きが、場面から分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）乱暴　（2）崩壊　（3）整備　（4）修正　（5）除去

（6）潔白　（7）払拭　（8）塗装　（9）交替　（10）荒野

（11）研磨　（12）片側　（13）清掃　（14）純白　（15）雑草

（16）じゅんすい　（17）ざつおん　（18）こんごう　（19）そうじ　（20）じょがい

（3）「整備」はよく働くよう整えること。（5）「除去」は取り除くこと。（7）「払拭」は疑いや悪い印象などを取り去ることにも使う。（10）「荒野」は「コウヤ」。

七　文章の中で考えよう

（1）補修　叔母が用意した板で、傷んだ所をおぎなって直している。

（2）清潔　汚れがなく、きれいな様子。本文では汚れを落とすことと、道具の位置や青い目印を変えることを、一度に決めないようにしている。

（3）ウ　「替」は入れ替えることに関わる。ここでは箱そのものの交換ではなく、表面の塗り直し。

（4）イ　「見やすい方がいい所もある」と蓮の考えの一部を認め、その上で残す所を伝えている。

七　記述問題の考え方

（5）　青い部分を残した理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

青い部分は汚れではなく、叔母が左手でよく取るものさしの引き出しを見分ける目印で、消すと使いにくくなるから。

（5）別解例　52 字

叔母は青い引き出しから左手でものさしを取っており、その色は、使い慣れた位置をひと目で確かめる目印だから。

☆（5）自分で確かめる点

① 青い色が意図的な目印であると示したか。

② 左手でものさしを取る使い方に結びつけたか。

③ 全体を塗り替えると、その役割が失われると捉えたか。

懐かしい思い出があるから、という理由は本文にない。叔母の実際の手の動きから考える。

（6）　この箱を整えるということ 70〜90 字

（6）解答例　86 字

道具の整理では大きさ順だけでなく、叔母が手を伸ばす順と位置を確かめて並べ直した。傷んだ底板は補修し、汚れは落とす一方、引き出しを知らせる青い目印は残し、使いやすさを整えた。

（6）別解例　83 字

見た目をそろえるだけでなく、叔母の使い方に合わせて道具の位置を整理し、割れた底板を補修した。汚れは取り除いたが、ものさしの位置を示す青い色は残し、使いやすさを保った。

☆（6）自分で確かめる点

①「整理」「補修」を使い、道具の位置と底板の修理を示したか。

② 汚れを落とすことと、青い目印を残すことを分けたか。

③ 叔母の使い方に合う状態へ整えたと説明したか。

古い所を必ず全部残すのでも、新品に見せるのでもない。何のために使うかに応じて、直す所と残す所を選んでいる。

漢字から文章へ 第一冊

第十六回

価値をはかる

同じ二つの器を比べているのに、
選ぶものが変わったのは、なぜでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

価	値	貴	尊
ねうち 売買の金額	ねだん 数で表す量	大切な とうとい	敬い 大切にする

珍	妙	優	劣
めずらしい	うまい 不思議な	すぐれる やさしい	おとる

いっしょに覚える漢字

良	悪	美	醜	高	低
多	少	比	較	選	賞

この回で読むお話

棚の賞と机の賞

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
価	カ	ねうち／どれほど大切か 価値・価格・評価・定価	珍	チン めずらしい	めずらしい 珍品・珍客・珍重
値	チ ね あたい	ねだん／数で表した量 値段・数値・価値・値する	妙	ミョウ	不思議なほどよい／変わっている 妙案・奇妙・絶妙・珍妙
貴	キ とうとい	とうとい／大切で重い 貴重・高貴・貴族・貴金属	優	ユウ すぐれる やさしい	すぐれている／やさしい 優秀・優先・優勝・優劣
尊	ソン とうとい	敬い、大切にする 尊重・尊敬・尊い	劣	レツ おとる	おとっている 劣る・劣等・劣化・優劣

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
良	リョウ よい	よい 良い・良心・良質	多	タ おおい	おおい 多い・多数・多少
悪	アク わるい	わるい 悪い・悪化・善悪	少	ショウ すくない	すくない 少ない・少数・多少
美	ビ うつくしい	うつくしい 美しい・美術・美点	比	ヒ くらべる	くらべる 比べる・比較・比率
醜	シュウ みにくい	みにくい 醜い・美醜・醜態	較	カク	くらべる 比較・較差
高	コウ たかい	たかい 高い・高価・高低	選	セン えらぶ	えらぶ 選ぶ・選択・選手
低	テイ ひくい	ひくい 低い・低下・高低	賞	ショウ	よさを認める 賞・賞品・賞賛

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「価格」と「評価」に共通する「価」の意味はどれですか。
ア　ものの古さだけを表す　　イ　人や物のねうちに関わる
ウ　数量を減らすこと　　エ　表面をなめらかにすること

(2)「値段」と「数値」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、必ず売る金額　　イ　前者は重さ、後者は珍しさ
ウ　どちらも、人の気持ちだけ　　エ　前者は売買の金額、後者は数で表した量など

(3)「尊重する」の意味として適切なものはどれですか。
ア　価値を認め、大切に扱う　　イ　金額が高い順に並べる
ウ　自分と同じ意見に変えさせる　　エ　詳しく聞かず、全て賛成する

(4)「妙案」と「奇妙」に共通する字の説明として適切なものはどれですか。
ア　「妙」は必ず悪いという意味　　イ　「妙」は必ず美しいという意味
ウ　うまさにも、不思議さにも関わる　　エ　金額の大小だけを表す

(5)「優先」と「優秀」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、能力で一位になること　　イ　前者は先に扱うこと、後者はすぐれていること
ウ　前者はおとること、後者は順番を決めること　　エ　どちらも、珍しい物の名前

(6)「劣化」の意味として適切なものはどれですか。
ア　もとより値段が安いこと　　イ　試合で一位になれないこと
ウ　見慣れない形をしていること　　エ　品質や性能などが悪くなること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　珍重　尊厳　優秀　数値　貴重　価値　劣勢
優待　珍品　評価　妙案　高値　悪評　優劣

文	解答	文	解答
(1) この資料には、歴史を知るための大きな□□がある。		(8) 珍しい品を大切に扱い、長年□□してきた。	
(2) 作品の構成と表現を、それぞれの観点から□□した。		(9) 難しい問題を解く、思いがけない□□が浮かんだ。	
(3) 品薄になった中古品が、以前より□□で売られていた。		(10) 能力や出来がすぐれた□□な作品として選ばれた。	
(4) 測った長さを□□で記し、表にまとめた。		(11) 会員に限り入場料を割り引く□□を行っている。	
(5) 一度きりの経験から学ぶ□□な機会を得た。		(12) 試合では、相手に押される□□から盛り返した。	
(6) 根拠のない□□を、人づてに広めてはいけない。		(13) 何を基準にするか決めてから、二案の□□を論じた。	
(7) 普段は見ない珍しい品を集めた□□展を開いた。		(14) 人としての□□を傷つける扱いを、なくそうと話した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「価値」と「価格」について適切なものを選びなさい。

売る価格は低いが、持ち主には大きな価値がある手紙だ。

ア　価格が低ければ、価値が大きいとは言えない。
イ　価値が大きいなら、必ず高く売れる。
ウ　売買の金額と、その人にとっての大切さは分けて考えられる。
エ　二語はいつでも、同じ金額だけを表す。

（2）「珍しい」と「貴重」の関係として適切なものを選びなさい。

珍しい形だが、私の研究には使わない。短い面談の時間の方が、今は貴重だ。

ア　見慣れないことと、その人にとって大切なことは同じとは限らない。
イ　貴重は、必ず珍しい物にしか使えない。
ウ　珍しいと感じた物は、誰もが買うべきだ。
エ　時間に「貴重」を使うのは誤りだ。

（3）「妙案」と「奇妙」は、この文で何を表していますか。

奇妙な形に見えたが、使い方を聞くと便利な妙案だと分かった。

ア　前者も後者も、役に立たないこと。
イ　前者は金額、後者は数の多さ。
ウ　奇妙だと感じた物は、便利にはなれない。
エ　前者は不思議な様子、後者はうまく考えた案。

（4）「優劣」を比べるときの説明として適切なものを選びなさい。

速さではＡが優れ、持ち運びやすさではＢが優れている。

ア　速さが決まれば、全ての優劣も決まる。
イ　何を比べるかによって、優れる方が変わることがある。
ウ　二つとも優れる面があるという説明は矛盾する。
エ　持ち運びやすさは、比較の基準にできない。

（5）「尊重」を使い、考えの違う相手を大切に扱う場面を書きなさい。（20〜40 字）

（6）「比較」を使い、何のどの面を比べたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 品質と**カカク**を確かめてから品物を選んだ。	
(2) 思いがけない**チンキャク**を迎えた。	
(3) 森の奥から**キミョウ**な音が聞こえた。	
(4) 昔の**キゾク**が暮らした館を見学した。	
(5) 急ぎの連絡を**ユウセン**して行った。	
(6) 互いの仕事を知り、**ソンケイ**の気持ちを持った。	
(7) その布は、日に当たると少しずつ**レッカ**する。	
(8) 参加者は**ショウスウ**だったが、話は弾んだ。	
(9) 週末に、近代絵画の**ビジュツ**展を訪れた。	
(10) 地図と実際の長さの**ヒリツ**を確かめた。	
(11) 地域ごとの所得の**カクサ**を資料で調べた。	
(12) 代表に選ばれた**センシュ**が入場した。	
(13) 気温の**テイカ**に備え、上着を用意した。	
(14) 大会の入賞者に**ショウヒン**が贈られた。	
(15) 自分の**リョウシン**に従って行動した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 良質	(17) 悪化	(18) 美観	(19) 高低	(20) 多少

この回を終えたら もう一度確かめる

「こちらの方がよい」と言うとき、何を比べていますか。基準を変えた場合も考えてみましょう。

七　文章の中で考えよう

棚の賞と机の賞

凪が茶色い器を机に置くと、その人は迷わず取っ手に指を通した。さっき、棚の前では青い器を選んだ人だった。同じ二つなのに、答えが変わった。凪は、B の値札に伸ばしかけた手を止めた。

陶芸教室の展示会に、二つの器を出した。青く薄い A は三千円、茶色く厚い B は八百円。A には珍しい模様があり、こんな美しい青を作れたのは初めてだった。開場前は、二つの優劣を聞かれたら A と答えるつもりだった。

今年は「棚に飾って楽しむ器」と「休憩室で使う器」に賞を分ける。凪は妙案だと思いながら、両方 A かもしれないと期待した。棚に当たる光を直す間、隣では、小さな花瓶の水を替えていた。

棚の前では、多くの人が A の模様を眺めた。高価な釉薬を使ったことだけでなく、光の角度で青の濃さが変わる点を評価していた。自分でも気づかなかったよさを、他人が言葉にしてくれる。その説明を聞く時間が貴重だった。

机では、希望した数人が水を入れて持ってみた。A の小さな取っ手には指が入りにくいと言う人がいる。平凡に見えた B は、広い取っ手を握れるのがよいという声が多かった。少数だが、A の薄い縁の方が飲みやすいと話す人もいた。凪は、器を戻すたびに布で机を拭いた。

「B が良くて、A が悪いのかな。」
そう聞くと、目の前の人は A を棚へ戻した。
「飾るときには、これ。でも私は、仕事の合間に使うなら B。」

棚の賞は A、休憩室の賞は B になった。凪は、価格の高低や見た目の美醜だけでは、一つに決まらないと思った。B を選んだ人の手元を思い出す。自分が形の悪さだと思っていた大きな取っ手が、その人には使いやすさだった。

好みを尊重するとは、比較をやめることではないのだろう。どこに置き、何に使うかを聞くと、選んだ理由が見えてくる。凪はノートの端に、少し広い取っ手を描いてみた。まだ、次の器の色は決めなかった。

片付けの前に、B を取っ手が見える向きへ回した。八百円の札はそのままにした。棚の青も、机の茶色も、前より長く見ていられた。

器と価格、展示会は、この物語のために設定したものです。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）見た目の美しさと醜さを表す熟語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）数が多いことを表す「タスウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「妙案」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　値段だけを高く付ける方法。
イ　普通と違い、理解できない音。
ウ　全ての作品に同じ点を付ける決まり。
エ　うまく考えられた、よい案。

（4）A の薄い縁を好む人の話が本文にあることで、何が分かりますか。

ア　B を選ぶ人が多くても、使う際の好みが全員同じとは限らない。
イ　A の方が、休憩室の賞に必ずふさわしい。
ウ　どの人も、使う器には模様しか求めない。
エ　少数の人の意見は、聞いても何も分からない。

（5）同じ人が、飾るときには A、仕事の合間に使うなら B を選んだのはなぜですか。二つの器の具体的な特徴を含め、45〜55 字で説明しなさい。

（6）「B が良くて、A が悪い」と決めることを、凪はどう考え直しましたか。「価値」「比較」を使い、最後の行動にも触れて 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十六回　価値をはかる

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　売買の金額にも、能力や出来などのねうちを判断することにも関わる。

（2）エ　「値」は値段にも、計算や測定などで得た数量にも関わる。

（3）ア　意見を尊重することは、必ず同意することではない。大切に受け止めた上で、異なる考えを伝えることもできる。

（4）ウ　「妙案」はうまい案。「奇妙」は普通と違って不思議な様子。
字の意味の広がりを熟語で確かめる。

（5）イ　「優先」は扱う順序、「優秀」は能力や出来のよさに着目する。

（6）エ　ほかと比べて劣ることと、以前より状態が悪くなることを区別する。

四　熟語を広げよう

（1）価値　（2）評価　（3）高値　（4）数値　（5）貴重

（6）悪評　（7）珍品　（8）珍重　（9）妙案　（10）優秀

（11）優待　（12）劣勢　（13）優劣　（14）尊厳

（3）「高値」は高い値段。（5）の「貴重」は大切な時間や機会にも使う。（6）「悪評」は悪い評判。（8）「珍重」は珍しいものなどを大切にすること。（11）「優待」は特別に有利に扱うこと。（12）「劣勢」は相手より勢いが弱く、不利な状態。（14）「尊厳」は、侵してはならない尊さ。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　価値には金銭に換算されるものもあるが、思い出や意味などの大切さも含まれる。価値と価格を常に反対のものと考える必要もない。

（2）ア　「珍しい」はあまり見かけないことに着目する。「貴重」は大切であることを表し、時間や経験にも使う。

（3）エ　見慣れない形への感想と、使い方を知った後のよさの判断は両立する。

（4）イ　異なる基準で比べているので、両方の説明が成り立つ。
どの目的に何を重く見るかも確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は友人の意見を尊重して理由を聞いたあと、自分の考えも伝えた。

☆自分で確かめる点　大切に扱う行動が分かるか。意見を同じにすることだけになっていないか。

（6）解答例

二つのかばんの重さと持ち手の形を比較し、通学用を選んだ。

☆自分で確かめる点　比べる対象と基準が、どちらも具体的に分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）価格　（2）珍客　（3）奇妙　（4）貴族　（5）優先

（6）尊敬　（7）劣化　（8）少数　（9）美術　（10）比率

（11）較差　（12）選手　（13）低下　（14）賞品　（15）良心

（16）りょうしつ　（17）あっか　（18）びかん　（19）こうてい　（20）たしょう

（11）は配当の「較」を使う「較差」。「格差」も、程度の違いを表す語として使われる。（15）は、よいことと悪いことを判断する「良心」。

七　文章の中で考えよう

（1）美醜　美しいことと醜いこと。ここでは見た目のよしあしに着目する語。価格の高低とは別の基準として並んでいる。

（2）多数　数が多いこと。「少数」と対にして確かめる。多数の人が選んだことだけでは、全員の好みが同じとは決まらない。

（3）エ　目的に応じて二つの賞を設ける案を、凪がうまい案だと思っている。

（4）ア　多数の意見は、一人ひとりの好みが同じであることの証明にはならない。少数意見も、求める使いやすさを知る手がかりになる。

七　記述問題の考え方

（5）　同じ人が選び分けた理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

A は青い模様を眺める楽しみがあり、B は広い取っ手を握りやすいため、飾る目的と実際に使う目的で選び分けたから。

（5）別解例　50 字

飾るなら A の青い模様を楽しめるが、仕事の合間に使うなら B の広い取っ手が持ちやすく、目的が異なるから。

☆（5）自分で確かめる点

① A の青い模様を眺めるよさに触れたか。

② B の広い取っ手を握りやすい点に触れたか。

③ 同じ人でも、目的に応じて選ぶものが変わると結びつけたか。

A は高いから飾る、B は安いから使う、という理由だけでは、本文中の発言の根拠が足りない。

（6）　価値を比べる見方の変化 70〜90 字

（6）解答例　82 字

初めは安く平凡な B を劣ると見たが、目的を変えて比較すると価値のある特徴も変わると気づいた。最後は値札を変えず、B の取っ手を見せる向きに回し、使うよさにも目を向けた。

（6）別解例　87 字

凪は一つの基準で良い器と悪い器に分けず、飾る目的と使う目的で比較すると、それぞれに価値があると考え直した。最後に B の値札をそのままにして取っ手を見せ、使いやすさに目を向けた。

☆（6）自分で確かめる点

①「価値」「比較」を使い、一律の優劣を決めない変化を示したか。

② 飾ることと使うことという、目的の違いに触れたか。

③ 値札を変えず取っ手を見せた行動を、見方の変化と結びつけたか。

価格の高い物に価値がない、という逆の決めつけにしない。
A の青い模様のよさも、最後まで認められている。

漢字から文章へ 第一冊

第十七回

見せながら守る

名前と住所は、消してあります。
それでも、この家を見つけられるでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

守	防	遮	隠
まもる 保つ	よくない事をふせぐ	通るものをさえぎる	見えないようにする

伏	匿	避	護
ふせる 隠しておく	かくす 名を伏せる	危険などをさける	まもる かばう

いっしょに覚える漢字

壁	柵	城	塀	蔽	鎖
封	禁	危	安	逃	救

この回で読むお話

名前を消した写真

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
守	シュ まもる	大切なものをまもる 守る・守備・保守・留守	伏	フク ふせる ふす	ふせる／身を低くする／かくれる 伏せる・起伏・潜伏・伏線
防	ボウ ふせぐ	ふせぐ／入ってこないようにする 防ぐ・防止・防災・予防	匿	トク かくまう	かくす／かくまう 匿名・隠匿・秘匿・匿う
遮	シャ さえぎる	さえぎる／途中で止める 遮る・遮断・遮光・遮蔽	避	ヒ さける	さける／よける 避ける・避難・回避・避暑
隠	イン かくす	かくれる／かくす 隠す・隠れる・隠居・隠語	護	ゴ まもる	まもる／かばう 保護・護衛・看護・弁護

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
壁	ヘキ かべ	へだてるもの 壁・外壁・壁面	封	フウ ホウ	閉じる／とじこめる 封筒・封印・封書
柵	サク	入れないための囲い 柵・鉄柵・防護柵	禁	キン	してはいけない 禁じる・禁止・厳禁
城	ジョウ しろ	守るための建物 城・城下町・城壁	危	キ あぶない	あぶない 危ない・危険・危機
塀	ヘイ	外と内を分ける囲い 塀・土塀・板塀	安	アン やすい	やすらか／危なくない／安価 安い・安全・安心
蔽	ヘイ おおう	おおってかくす 隠蔽・遮蔽	逃	トウ にげる	にげる／のがれる 逃げる・逃走・逃亡
鎖	サ くさり	くさり／閉じる 鎖・閉鎖・連鎖	救	キュウ すくう	たすける 救う・救助・救急

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「守備」と「保守」に共通する「守」の意味はどれですか。
ア　ものを高く売る　　イ　散らばった物を集める
ウ　何かをさえぎる色　　エ　まもり 保つことに関わる

(2)「防止」と「予防」の説明として適切なものはどれですか。
ア　起こってほしくないことをふせぐ　　イ　起きた後の結果だけを記録する
ウ　隠した物を全て公表する　　エ　建物の外を取り囲むだけ

(3)「遮光」と「遮断」に共通する「遮」の意味はどれですか。
ア　大切さを数で表す　　イ　ものを元通りに直す
ウ　通るものをさえぎる　　エ　人の名前を付ける

(4)「名前を伏せる」の「伏せる」の意味はどれですか。
ア　名前を小さい声で何度も読む　　イ　名前を公表しないでおく
ウ　名前を別の読み方に直す　　エ　名前を書いた紙を必ず床に置く

(5)「匿名」の説明として適切なものはどれですか。
ア　書いた人が存在しないこと　　イ　書いた人の意見が正しいこと
ウ　どんな手がかりでも誰か分からなくなること　　エ　本当の名前を出さないこと

(6)「避難」と「保護」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は隠すこと、後者は値段を付けること　　イ　どちらも、閉じ込めることだけ
ウ　前者は危険を避けて移ること、後者は守ること　　エ　どちらも、名前の読み方を変えること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　秘匿　守備　禁止　鉄柵　匿名　封鎖　潜伏
遮断　伏線　防壁　遮音　隠語　避難　安全

文	解答	文	解答
(1) 相手の攻撃に備え、チームの□□を固めた。		(8) 冒頭の小さな出来事が、結末につながる□□だった。	
(2) 危険を減らす工夫を重ね、作業の□□を確かめた。		(9) 本名を出さず、□□で意見を寄せた。	
(3) 細い鉄の棒を並べた□□で、敷地を囲んだ。		(10) 秘密の情報を外に出さないよう□□した。	
(4) 倒木のため、道路の通行を一時□□した。		(11) 図書室では飲食を□□する決まりがある。	
(5) 部屋の外へ音が漏れぬよう、□□用の壁を設けた。		(12) 訓練では、安全な場所へ移る□□の方法を確かめた。	
(6) 仲間の間だけで意味が通じる□□を使った。		(13) 城を守るため、厚い□□を外側に築いた。	
(7) 物語の登場人物は、人目を避けて家に□□した。		(14) 門を閉めて建物全体を□□し、出入りを止めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「守る」と「防ぐ」は、この文で何に着目していますか。

資料を守るため、光による劣化を防ぐ方法を考えた。

ア　前者は保存したい対象、後者は起こさないようにすること。
イ　前者は名前、後者は価格だけ。
ウ　資料を守ることと、劣化を防ぐことは両立しない。
エ　二語は、どの文でも同じ目的語にしか使えない。

（2）「隠す」と「伏せる」について適切なものを選びなさい。

名前を隠して掲載した。／名前を伏せて掲載した。

ア　前者は本名を出し、後者は出さない。
イ　前者は紙を使い、後者は声にしか使えない。
ウ　前者は必ず悪く、後者は必ずよい行為。
エ　この二文は、本名を公表しない同じ行為を表せる。

（3）「隠蔽」と「秘匿」について適切なものを選びなさい。

個人の情報を秘匿する。／自分の失敗を隠蔽する。

ア　秘匿した情報は、必ず誰でも自由に読める。
イ　二語に隠す働きがあっても、目的や対象は文から確かめる。
ウ　隠蔽という語があれば、隠した物の名前も全て分かる。
エ　二語は、危険の有無を数で測ること。

（4）「保護」と「護衛」は、この文でどう使われていますか。

古い資料を保護する。／資料を運ぶ車両を護衛する。

ア　前者は移動中だけ、後者は展示中だけ。
イ　二語とも、資料を箱から出すことだけ。
ウ　前者は守る働きを広く、後者は付き添って守る働きを表す。
エ　護衛する対象は、人に限られる。

（5）「防止」を使い、防ぎたい出来事と、そのための工夫を書きなさい。（20〜40 字）

（6）「伏せる」を使い、何を公表しないでおいたか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 伝統を重んじる**ホシュ**的な意見も出た。	
(2) 丘の**キフク**に沿って、道が曲がっていた。	
(3) 火災の**ヨボウ**を呼びかけるポスターを見た。	
(4) 物語の中で、主人公は宝の在りかを**イントク**した。	
(5) 厚い雲が日光を**シャヘイ**した。	
(6) 物語の一家は、夏に山で**ヒショ**した。	
(7) 祖父は仕事を退き、**インキョ**生活を始めた。	
(8) 物語では、けがをした旅人を仲間が**カンゴ**した。	
(9) 手紙を**フウトウ**に入れた。	
(10) 城を中心に発達した**ジョウカマチ**を歩いた。	
(11) 崖の近くには、**キケン**を知らせる札があった。	
(12) 寺の周囲には、古い**ドベイ**が残っていた。	
(13) 都合の悪い事実を**インペイ**してはいけないと話した。	
(14) 物語の犯人は、裏口から**トウソウ**した。	
(15) 物語では、取り残された人を仲間が**キュウジョ**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 壁面	(17) 防寒	(18) 閉鎖	(19) 禁煙	(20) 安否

この回を終えたら もう一度確かめる

名前を消せば、何も分からなくなるでしょうか。写真と説明文を、一緒に確かめてみましょう。

七　文章の中で考えよう

名前を消した写真

写真と同じ封筒に、手紙が入っていた。「庭の写真は見せてもかまいません。でも、家へ人が来るのは困ります。」城下町の写真展で、千夏は大雨の日に助けられた人の話を担当している。提供者は今もその家に住み、場所が分からない形にしてほしいと頼んでいた。

写真の端には城壁の切れ目、古い土塀、青い柵がある。庭では二人が荷物を布で包んでいた。大雨から避難した日、近所の二人が迎えに来てくれたのだという。危険から逃げるのを助けた、その手を見てほしい。手紙には、そうも書いてあった。

千夏は名前と住所を伏せ、説明に「匿名で提供された写真」と記した。これなら暮らしを守りながら、救助を支えた人の話を伝えられる。準備を手伝う弟が、隣の机から写真をのぞいた。
「ここ、あの角の先の家？」

指が触れたのは、庭でなく城壁の切れ目だった。青い柵と合わせれば、場所をたどれるらしい。説明にも駅からの道順が残っている。名前を隠したのに、家が分かる。消したことで安心していた千夏は、黒く塗った部分を見た。

原物の傷みを防ぐための保護には、担当の人が遮光の布を用意した。展示には複製を使う。光を遮蔽する工夫を見ていると、情報にも何を通すかという判断が要る気がした。ただ、全部を覆えば、見せたかった二人の手まで消えてしまう。

「この人たちは、残したいんだね。」
弟の言葉に、千夏はうなずいた。庭の位置が分かる端を除いた複製を作り、説明から道順も外す。二人の手と、荷物を包む布は残った。

貸してくれた人へ案を送り、これで展示してよいか確かめた。返事が来るまでは掲示を待つ。展示用の説明案には、個人の暮らしを守るため一部を省いたと書いた。何も言わずに隠すより、その理由も伝えたかった。

会場の壁には、撮影を禁止する札が掛かった。ケースの鎖や、通路を一時閉鎖する準備も確かめた。机には、開場の飾りに使う紙が残っている。弟が折った一枚は、角が少しずれていた。千夏はそれを直さず、手紙の封筒の横へ置いた。

写真展と提供者の話は、この教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）「担当の人が用意した布」の用途を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）危険などから守る「ホゴ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「匿名で提供された」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　写真を撮った人が、存在しない。
イ　写真の内容を、誰も見られない。
ウ　提供者の本当の名前を出していない。
エ　写真から、どんな情報も読み取れない。

（4）弟の発言が示した、千夏の最初の案の問題はどれですか。

ア　名前を出さないと、助けた手が写らなくなる。
イ　写真の撮影者が、弟に変わってしまう。
ウ　複製を作ると、必ず家の位置が分かる。
エ　名前を消しても、写真や道順から家が分かる可能性がある。

（5）千夏が写真全体を覆わず、一部を切り取った案を作ったのはなぜですか。提供者の二つの希望を含め、45〜55 字で説明しなさい。

（6）千夏の最後の案は、初めの案をどう改善していますか。「見せる」「守る」を使い、写真・説明文・確認の手順を含めて 70〜90 字で説明しなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十七回　見せながら守る

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　「守備」は攻撃などに備えて守ること。
「保守」はもとの状態や伝統などを保ち守ることに関わる。

（2）ア　どちらも、悪いことなどが起こらないようにすることに関わる。「予防」は前もって防ぐことに目を向ける。

（3）ウ　光をさえぎるほか、交通、音、連絡などを途中で止めることにも使う。

（4）イ　「伏せる」は下向きにする意味のほか、知らせずにおく意味でも使う。

（5）エ　本名を出さないことを表す。内容や写真の手がかりから、誰のことか分かる場合までなくなるとは限らない。

（6）ウ　「避難」は危険を避けて安全な所へ移ること。「保護」は危険や損失などから守ること。

四　熟語を広げよう

（1）守備　（2）安全　（3）鉄柵　（4）遮断　（5）遮音
（6）隠語　（7）潜伏　（8）伏線　（9）匿名　（10）秘匿
（11）禁止　（12）避難　（13）防壁　（14）封鎖

（2）「安全」は危険などがないこと。（3）「鉄柵」は鉄製の柵。（5）「遮音」は音をさえぎること。（11）「禁止」はしてはいけないと定めること。（13）「防壁」は外からの攻撃などを防ぐ壁。（14）「封鎖」は出入りや通行などをふさいで止めること。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　何を大切に保つかと、何が起こらないようにするかに着目する。同じ一つの工夫を、両方の面から説明できる。

（2）エ　この場面では意味が重なる。
何のために、誰に対して伏せるかを、語だけでは決められない。

（3）イ　どちらも外に知られないよう隠すことに関わる。語だけで「秘匿は必ず正しい、隠蔽は必ず同じ理由」と固定せず、この文の対象と目的を読む。

（4）ウ　「護衛」は人や物に付き添って守ること。「保護」は守る働きを広く表す。この文のように車両などにも「護衛」を使う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

忘れ物の防止のため、出かける前に持ち物の一覧を確かめた。

☆自分で確かめる点　防ぎたい出来事と、そのための工夫が具体的に伝わるか。

（6）解答例

相談した人の名前は伏せ、困っている内容だけを会議で伝えた。

☆自分で確かめる点　下向きにする意味ではなく、公表しない意味で使えているか。

六　短文で使ってみよう

（1）保守　（2）起伏　（3）予防　（4）隠匿　（5）遮蔽
（6）避暑　（7）隠居　（8）看護　（9）封筒　（10）城下町
（11）危険　（12）土塀　（13）隠蔽　（14）逃走　（15）救助
（16）へきめん　（17）ぼうかん　（18）へいさ　（19）きんえん　（20）あんぴ

（5）「遮蔽」は、おおってさえぎること。（14）「逃走」は逃げ去ること。危険から安全な所へ移る「避難」とは、文脈で着目する面を確かめる。

七　文章の中で考えよう

（1）遮光　「遮光の布」の、光をさえぎる用途を答える。本文の「遮蔽」もさえぎる働きを表すが、ここでは布の用途に使われた語を抜き出す。

（2）保護　原物を傷みなどから守る働き。

（3）ウ　本名を公表しないこと。匿名だけで、
場所や人が分かる全ての手がかりがなくなるわけではない。

（4）エ　弟は城壁や青い柵から場所を考えている。説明文の道順もあり、複数の情報を一緒に読む必要がある。

七　記述問題の考え方

（5）　写真の一部を残す理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

提供者は家の場所を知られずに、助けた人の手を見てほしいと望んでおり、全部を覆うと伝えたい手まで隠れるから。

（5）別解例　53 字

家へ人が来るのは避けながら、助けた二人の手は見せたいという提供者の希望を、写真の一部を残して実現するため。

☆（5）自分で確かめる点

① 家の場所が分かり、人が来ることを避けたい希望を示したか。
② 助けた人の手を見てほしい希望を示したか。
③ 全部を覆う方法では、二つの希望を両立できないと捉えたか。

隠すことを全てよい・悪いと決めず、提供者が何を伝え、何を守りたいのかを分けて考える。

（6）　見せる内容と守る範囲の改善 70〜90 字

（6）解答例　81 字

初めは名前と住所を伏せたが、写真と道順から場所が分かった。最後は写真の端と道順を除き、助けた手は見せる案にした。暮らしを守るため本人に案を送り、返事を待っている。

（6）別解例　83 字

写真の端と説明の道順を除き、見せるべき二人の手は残した。名前などを伏せるだけの案から、暮らしを守る範囲を見直し、提供者へ案を送った。返事を待ってから展示する形にした。

☆（6）自分で確かめる点

①「見せる」「守る」を使い、手を残すことと場所を伏せることを示したか。
② 写真の端と、説明文の道順の両方を除くことに触れたか。
③ 提供者に案を送り、返事を待っている手順を示したか。

返事はまだ来ていない。「本人が許可した」「これで絶対に特定されない」と、
本文を越えて断定しない。

漢字から文章へ 第一冊

第十八回

考えをまとめる

返ってくる本が、増えました。
赤い箱に替えたことが、理由なのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

概	要	因	果
大まかにまとめる	大切な所 必要な所	もとになる事柄	起きた結果 実るもの

由	例	類	差
わけ 始まりのもと	具体的な一つ たとえ	同じ仲間 似たもの	違い へだたり

いっしょに覚える漢字

総	括	基	本	核	心
位	置	裏	近	遠	主

この回で読むお話

赤い箱の理由

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
概	ガイ	大まかにまとめる 概要・概略・概念・概括	由	ユ ユウ よし	わけ／もとになるところ 理由・由来・経由・自由
要	ヨウ いる	大切なところ／必要なところ 要点・重要・必要・要約	例	レイ たとえる	たとえ／実際の一つ 例・例文・具体例・例外
因	イン よる	もとになることがら 原因・要因・因果・因子	類	ルイ たぐい	似たもの／同じ仲間 種類・類似・分類・類推
果	カ はたす	何かのあとに生じるもの 結果・成果・果実・因果	差	サ さす	ちがい／へだたり 差・差異・格差・個人差

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
総	ソウ すべて	全体をまとめる 総合・総数・総体	位	イ くらい	場所／くらい 位置・順位・地位
括	カツ	くくってまとめる 総括・一括・包括	置	チ おく	ある場所におく 位置・配置・置く
基	キ もと	土台になるもの 基本・基礎・基準	裏	リ うら	表から見えにくい側 裏側・裏面・裏付け
本	ホン もと	もと／中心になるもの 本文・本質・根本	近	キン ちかい	ちかい 近い・近所・最近
核	カク	中心にある大事な部分 核心・中核・核	遠	エン とおい	とおい 遠い・遠方・遠近
心	シン こころ	まんなか／気持ち 中心・心情・核心	主	シュ ぬし	中心になるもの 主題・主語・主人公

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「概要」と「要点」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、細部を全て書き写したもの　　イ　前者は結論への反対、後者は筆者の名前
ウ　前者は全体のあらまし、後者は大切な所　　エ　どちらも、文章の最初の一文だけ

(2)「因果」の説明として適切なものはどれですか。
ア　原因と結果のつながり　　イ　主張に賛成する人の数
ウ　似た物を並べた順番　　エ　数字の大小だけの比較

(3)「由来」と「経由」の「由」は、どう使われていますか。
ア　どちらも、成功した結果だけ　　イ　前者は通る所、後者は始まりのわけ
ウ　どちらも、場所の遠さだけ　　エ　前者は始まりのもと、後者は通っていくこと

(4)「例外」の説明として適切なものはどれですか。
ア　説明を分かりやすくする例文だけ　　イ　一般の決まりや扱いに当てはまらないもの
ウ　仲間全てに必ず当てはまる決まり　　エ　調べていないので、存在しないと決めたもの

(5)「分類」と「類似」に共通する「類」の意味はどれですか。
ア　原因を証明すること　　イ　全体から消すこと
ウ　似たもの 同じ仲間　　エ　一つの場所に置くことだけ

(6)「個人差」と「差異」に共通する意味はどれですか。
ア　どちらも、一番優れた人だけを表す　　イ　どちらも、全員が同じだと示す
ウ　どちらも、遠くへ移動すること　　エ　ものの間の違いやへだたりに関わる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　基本　例外　分類　総括　要点　順位　原因
種類　主題　遠近　結果　差異　由来　類似

文	解答	文	解答
(1) 物語全体で表そうとする中心の事柄を□□という。		(8) 辞典には、様々な□□の言葉が載っている。	
(2) 話の特に大切な所を□□として三つ抜き出した。		(9) 資料を年代ごとの仲間に□□した。	
(3) 故障を引き起こしたもととなる□□を調べた。		(10) 二つの模様がよく似ているので、□□性を調べた。	
(4) 計算して得られた□□を、最後の欄に記した。		(11) 同じ所だけでなく、二案の異なる□□も調べた。	
(5) 町の名前が始まった□□を、古い記録で調べた。		(12) 得点の高い順に並べ、全員の□□を決めた。	
(6) 手前と奥の物の位置を見て、□□の関係を捉えた。		(13) 活動全体を振り返り、最後に□□を行った。	
(7) 通常の決まりが当てはまらない□□を、一つ見つけた。		(14) 発展へ進む前に、学習の□□を固めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「概要」と「要点」の関係として適切なものを選びなさい。

調査の概要をまとめるために、まず要点を三つ選んだ。

ア　要点を選ぶと、概要は書けなくなる。
イ　大切な所を押さえて、全体のあらましを示すことができる。
ウ　概要は必ず長く、要点は必ず一字で書く。
エ　どちらも、資料の一行目だけを書き写す。

（2）「原因」と「理由」について適切なものを選びなさい。

欠席の理由を聞いた。／欠席の原因となった出来事を調べた。

ア　理由は人だけ、原因は機械だけに使える。
イ　同じ欠席について二語を使うと、必ず矛盾する。
ウ　原因は悪い結果、理由はよい結果にしか使えない。
エ　意味が重なることもあり、説明するわけと出来事のもとに着目している。

（3）「結果」と「成果」は、この文で何を表していますか。

結果は不採用だったが、準備で得た説明の力は成果として残った。

ア　前者は採用の成否、後者は準備で得たよいもの。
イ　不採用なら、成果があるという文は必ず誤り。
ウ　どちらも、準備に使った金額だけ。
エ　成果は、採用されたときだけに使う。

（4）「種類」と「分類」の関係として適切なものを選びなさい。

用途を基準に分類すると、同じ材料の紙も別の種類に分かれた。

ア　材料が同じなら、どんな基準でも同じ種類になる。
イ　種類は数だけ、分類は色だけを表す。
ウ　どの基準で分けるかによって、種類の分かれ方も変わる。
エ　同じ物を違う基準で分類することはできない。

（5）「具体例」を使い、何の説明にどんな例を挙げたか、書きなさい。（20〜40 字）

（6）「裏付け」を使い、何を確かめるための資料か、分かる文を書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 報告の初めに、調査の**ガイリャク**を述べた。	
(2) 札幌を**ケイユ**して、道東へ向かった。	
(3) 結論に関わる**ジュウヨウ**な資料を読んだ。	
(4) 新しい語の使い方を、短い**レイブン**で確かめた。	
(5) 売上げが変わった**ヨウイン**を考えた。	
(6) 一つの例から全体を**ルイスイ**しすぎないようにした。	
(7) 練習の**セイカ**が、落ち着いた動きに表れた。	
(8) 地域による学ぶ機会の**カクサ**を調べた。	
(9) 異なる資料の情報を**ソウゴウ**して考えた。	
(10) 申込書をまとめて**イッカツ**で提出した。	
(11) 展示物の**ハイチ**を変えた。	
(12) 答えの根拠を、文章の**ホンブン**から探した。	
(13) 休日には、**キンジョ**の公園へ行く。	
(14) 港は、町の物流を支える**チュウカク**である。	
(15) 話合いの**チュウシン**となる問いを書いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 基準	(17) 位置	(18) 裏側	(19) 遠方	(20) 主因

この回を終えたら もう一度確かめる

短くまとめるとき、まだ分からないことまで消していませんか。結果と、その理由の説明を分けてみましょう。

七　文章の中で考えよう

赤い箱の理由

返却箱には、宇宙の図鑑と料理の本が重なっていた。図書委員の圭は、表紙の向きをそろえて数えた。新しい赤い箱は入口の近くにある。以前の青い箱は図書室の奥だった。取組の概要を書くため、前の週と次の週の、開館した五日間ずつを調べた。

返却箱と返された本の記録

調べた週	箱の色	置いた場所	返却冊数
前の週	青	図書室の奥	41 冊
次の週	赤	入口の近く	67 冊

四十一冊から六十七冊へ。圭は「赤い色が本を返しやすくした」と書いた。増えた理由まで、もう分かったつもりだった。

「近くなったからじゃない？」
友人に言われ、圭は表を見直す。二十六冊の差はある。でも、色も位置も変えていて、何が原因かは分けていない。借りた冊数や、日ごとの来室者数も記録していなかった。

ノートには、赤は目立つという感想、入口なら帰りに寄れるという話、実際に数えた冊数が混ざっていた。圭は線を引き、記録で確かめたこと、人が話したこと、自分たちの推測を分類した。友人の発言は推測へ置く。もっともらしくても、一言だけでは因果を裏付けたことにならない。

窓際で、返却された本を係の人が棚へ運んでいた。圭は裏返しかけた紙を戻した。
「じゃあ、何も言えないのかな。」
友人は表を指した。「増えたことは書けるよ。」

結果と、残った問いを伝えよう。本文の中心を置き直すと、基本の数値を捨てる必要はなかった。次の案には「色と場所を変えたあとの週は、返却が四十一冊から六十七冊へ増えた。ただし、色と位置のどちらの影響かは分からない」と書いた。

要点を短くしても、「ただし」は残す。取組の成果を話すために、分からないことまで結果の欄に入れたくなかった。二つの文を読み、初めに勢いよく書いた一文にも、小さな線を引いた。

総括の会では、位置を固定して色を変える調べ方が提案された。圭は次に確かめる具体例として添えた。主張の核心に近づいた気がしたが、原因が分かったわけではない。遠回りに見える一行を残し、返却箱へ来た友人に、次はどの日に調べようかと尋ねた。

返却箱の取組と数値は、この教材のために設定したものです。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と返却の記録を根拠にして答えなさい。

（1）全体の内容を大まかにまとめたものを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）原因と結果のつながりを表す「インガ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「裏付けた」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　表の裏側へ、別の紙を貼った。
イ　判断を支える根拠によって、確かめた。
ウ　数字の順序を、反対に並べた。
エ　人の話を、読めないように隠した。

（4）表と本文から言えることとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　赤い色だけが原因で、返却冊数が増えた。
イ　来室者数が二十六人増えたと分かる。
ウ　五日間ずつなので、色以外の条件は全て同じだ。
エ　返却冊数は増えたが、色と位置それぞれの影響は分けられない。

（5）圭が友人の「近くなったからじゃない？」を推測の欄へ置いたのはなぜですか。変えた二つの条件と記録の限界を結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）この取組をまだ知らない人へ、記録から分かったことと、まだ分からないことを報告しなさい。「結果」「原因」を使い、70〜90 字でまとめます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十八回　考えをまとめる

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　全体を大まかに示すことと、特に大切な部分に着目することを分ける。要点を含めて概要を書くこともある。

（2）ア　前後して起きたという順序だけで、原因と結果だと決められるとは限らない。

（3）エ　「由来」は物事がそこから起こったもと。「経由」は、その場所などを通ることを表す。

（4）イ　当てはまらない例があると分かったら、決まりの範囲や条件を見直す手がかりになる。

（5）ウ　「分類」は基準に従い仲間に分けること。「類似」は似ていること。似ているだけで同じものとは限らない。

（6）エ　「差」は違いやへだたり。「個人差」は人による違いであり、優劣を表す場合に限らない。

四　熟語を広げよう

（1）主題　（2）要点　（3）原因　（4）結果　（5）由来

（6）遠近　（7）例外　（8）種類　（9）分類　（10）類似

（11）差異　（12）順位　（13）総括　（14）基本

（1）「主題」は作品などで表そうとする中心の事柄。（3）は出来事を引き起こしたもと、（4）は計算して得たもの。（6）「遠近」は遠いことと近いこと。（8）の「種類」は仲間の分かれ、（9）の「分類」は仲間に分ける働き。（12）「順位」は一定の基準で並べたときの位置。（14）「基本」は物事のよりどころとなる土台。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　まとめる範囲や目的を確かめる。概要と要点は、互いを排除するものではない。

（2）エ　「原因」は何かを引き起こしたもと。「理由」はそうなったわけや、考え・判断の根拠にも使う。人か物か、よいか悪いかで一律に分けない。

（3）ア　「結果」は行動などのあとに生じたことを広く表す。「成果」は活動によって得たよい結果や達成したものに着目する。一つの成否と、得た力は分けて捉えられる。

（4）ウ　材料で分けるか、用途で分けるかによって、仲間の分かれ方は変わる。分類の基準を明示することが大切。

五　自分で書く問題

（5）解答例

道具を工夫する大切さを伝えるため、青い取っ手を具体例に挙げた。

☆自分で確かめる点　説明したい事柄と、それを示す実際の一つが結びついているか。

（6）解答例

祭りが昔から続くという話の裏付けを、当時の日記に求めた。

☆自分で確かめる点　単なる裏側の意味ではなく、説明や判断を確かめる根拠として使えているか。

六　短文で使ってみよう

（1）概略　（2）経由　（3）重要　（4）例文　（5）要因

（6）類推　（7）成果　（8）格差　（9）総合　（10）一括

（11）配置　（12）本文　（13）近所　（14）中核　（15）中心

（16）きじゅん　（17）いち　（18）うらがわ　（19）えんぽう　（20）しゅいん

（6）「類推」は、似ていることから、ほかの点も同じではないかと推し量ること。推測をそのまま事実とはしない。（8）は「格差」。第十六回の「較差」も、程度の違いを表す語として使う。

七　文章の中で考えよう

（1）概要　冒頭で、取組全体のあらましを書くことになっている。
（2）因果　出来事が前後して起きたことだけでなく、一方が他方を引き起こす関係に着目する。
（3）イ　ここでは判断を支える根拠を示す意味。写真の裏面などの位置の話ではない。
（4）エ　増えたのは本の冊数で、人数ではない。開館日数が同じでも、借りた冊数や来室者数など、全ての条件が同じとは分からない。

七　記述問題の考え方

（5）　友人の発言を推測とした理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

箱の位置だけでなく色も変えており、返却冊数の増加が、近くへ移したことによる影響だと分けて確かめていないから。

（5）別解例　55 字

赤い箱を入口近くに置くとき、色と位置を一緒に変えたため、増えた冊数の原因が位置だとは記録だけで決まらないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 箱の色と位置の両方を変えたことを示したか。
② 冊数の増加は記録されていると捉えたか。
③ 位置の影響だけを分けて確かめていないと説明したか。

友人の考えは、誤りと証明されたわけではない。可能性の一つだが、今ある記録では確定していない。

（6）　結果と分からないことを伝える報告 70〜90 字

（6）解答例　88 字

返却箱の色を青から赤へ、位置を図書室の奥から入口近くへ変えた。五日間ずつ調べた結果、返却は四十一冊から六十七冊に増えていたが、色と位置の影響は分けておらず、原因は確定できない。

（6）別解例　82 字

返却箱を奥の青い箱から入口近くの赤い箱へ変えた後、五日間の返却は四十一冊から六十七冊に増えた。結果は確かめたが、色と位置の影響を分けていないので、原因は分からない。

☆（6）自分で確かめる点

①「結果」「原因」を使い、取組を知らない人にも分かる形で書いたか。
② 色と位置の変更、五日間で四十一冊から六十七冊への増加を示したか。
③ 二つの条件の影響を分けて調べていないため、原因は確定できないと示したか。

数値は算用数字でもよい。表記によって字数が変わるので、指定字数も確かめる。「原因は位置だ」と結論を先へ進めない。